

# 和光市の財政状況

平成30年度版財政白書（平成29年度決算）



和光市イメージキャラクター  
わこうっち です。

平成31年3月

和 光 市



## はじめに

和光市財政白書の特徴は、“市民と市が協働して作成した”というところにあります。今回の「平成30年度版和光市財政白書」は、平成29年度決算に基づいて市が単独で作成したのですが、そのベースとなっているのは、平成23年度に設置した「和光市財政白書作成委員会」と平成24年度に設置した「和光市財政健全条例等検討委員会」の公募委員である市民と市が一緒になって作り上げた平成23年度版と平成24年度版の財政白書です。

市の財政状況をわかりやすく解説することで、和光市財政の現状と課題を共有し、更には、市民のみなさまに市の行財政運営にもっと積極的に参加していただきたいという想いで作成・公表しています。

和光市では、計画的な財政運営の仕組みを構築し、将来世代に過度な負担を残すことのない安定した財政運営を確保していくため、「和光市健全な財政運営に関する条例」を平成25年度に制定し、限られた財源の中で、財政の健全性を保ちながら、計画的かつ効率的な財政運営を行っています。

これを担保するためには、情報公開の徹底と説明責任の貫徹により、和光市財政の現状と課題をみなさまと共有していくことが重要であると考えています。本書を和光市財政への理解と、財政運営のあるべき姿を考えるための素材としてご活用いただければと思います。

平成31年3月 和光市長

松本武洋

## 目次

### はじめに

#### 和光市の財政の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 1 財政の概況
- 2 歳入の特徴
- 3 歳出の特徴
- 4 基金と市債残高の動向

#### 和光市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

- 1 和光市の特徴
- 2 和光市ミニ統計

#### 第1章 地方財政の基礎知識・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 1 国と地方の関係
  - 地方財政
  - 税金の流れ
  - 地方交付税の仕組み
  - 普通交付税の算定方法
- 2 市の財政運営の基本
  - 市の財政運営の流れ
  - 予算
  - 会計区分

#### 第2章 平成29年度決算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

- 1 全会計の決算状況
- 2 普通会計決算状況
  - 普通会計収支決算状況
  - 平成29年度主要事業の成果
  - 主要施設等にかかる管理費等の状況
  - 歳入決算の状況
  - 歳出決算の状況

### 3 特別会計・公営企業会計決算状況

- 国民健康保険特別会計
- 後期高齢者医療特別会計
- 介護保険特別会計
- 水道事業会計
- 下水道事業会計

## 第3章 財政指標で見る和光市財政・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

### 1 主な財政指標で見る和光市財政

- 経常収支比率
- 実質収支比率
- 財政力指数
- 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

### 2 健全化判断比率で見る和光市財政

- 財政健全化法の概要
- 早期健全化基準と財政再生基準
- 平成29年度健全化判断比率

## 資料編

## 和光市財政の現状と課題

### 1 財政の概況

本市の財政は、歳入総額の5割以上を市税収入が占めるなど、他市と比較して自主財源の割合が高い状況にあります。市税収入は、緩やかな景気の回復に伴う個人市民税の増加などにより、平成24年度から6ヶ年連続で増加となっています。また、和光北インター地域土地区画整理事業をはじめとする投資的事業の進捗による固定資産税の増加等により、市税収入のさらなる増加が期待されています。なお、平成23年度以降は普通交付税<sup>(※1)</sup>の交付団体となっていました。平成28年度から再び不交付団体となりました。

一方、歳出は、福祉制度の拡充などにより社会保障経費が毎年増加するとともに、職員給与の改正に伴い人件費が増加していることなどから、経常収支比率<sup>(※2)</sup>は増加傾向にあります。また、土地区画整理事業の進捗や既存公共施設の維持・保全など、市が取り組むべき課題は山積しており、これらに対応するための財源確保が課題となっています。

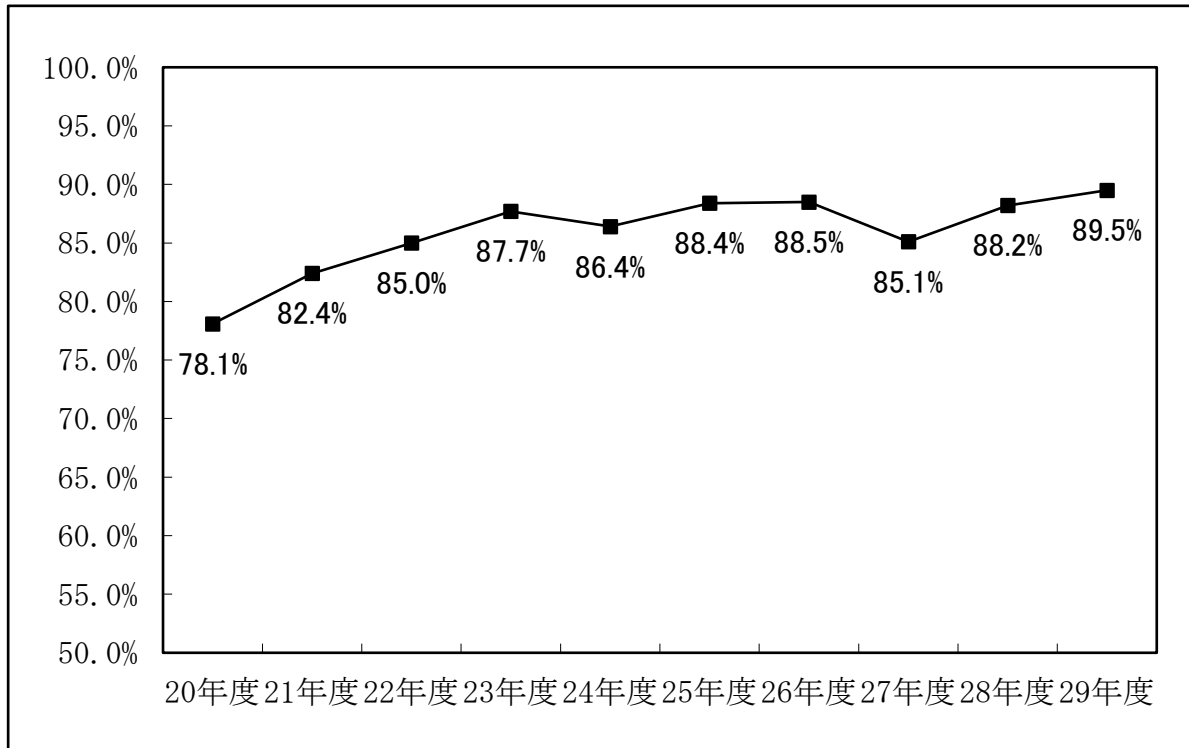
以上のとおり、市税収入に関しては緩やかな上昇傾向にある中、政策的に取り組む課題に対応する事業費の更なる増加が見込まれることを考慮すると、今後は重点的な歳出の配分等、構造的な見直しを行うとともに、中長期的展望に立った規律性の高い財政運営を推進していく必要があります。

---

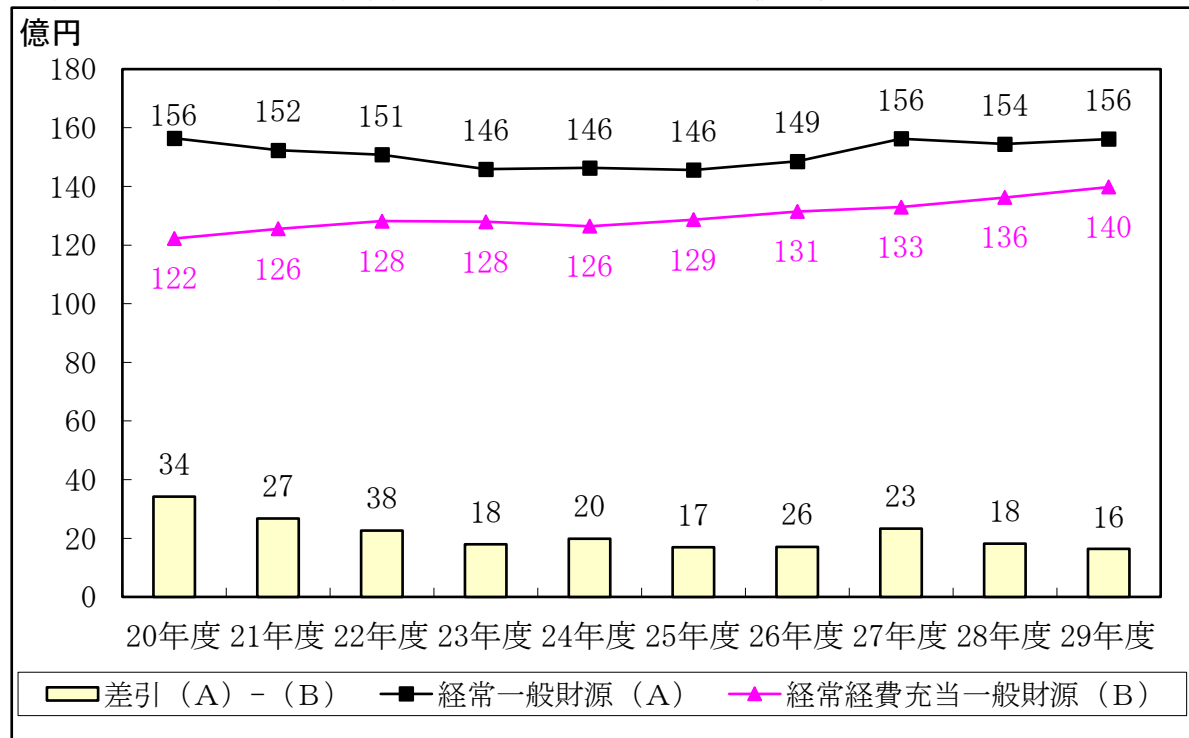
※1 普通交付税 国税として徴収したものを財源不足の地方公共団体に配分するもの。17ページ参照。

※2 経常収支比率 必要経費として使う資金の割合。割合が低いと自由に使える資金が多くなり、割合が高いと新規事業等はできなくなる。また、数値は臨時財政対策債を経常一般財源に含めたもの。

○ 経常収支比率の推移



○ 経常一般財源・経常経費充当一般財源の推移 (数値は億円未満を四捨五入)



## 2 歳入の特徴

和光市の歳入は、約5割以上を市税が占める構造となっており、とりわけ個人市民税及び固定資産税の占める割合が高くなっています。

景気の緩やかな回復により個人市民税の収入は上昇傾向にあるものの、国の施策による地方法人税の創設に伴う法人市民税率の引き下げなど、財政状況は依然として予断を許さず、市財政の安定度が低下している状況となっています。

また、市が自主的に収入することができる自主財源比率は約7割(注)を占め、比較的良好な数値を示していますが、これは平成19年度に行われた三位一体の改革による税源移譲(※3)により個人市民税が増加したことなどによるためです。

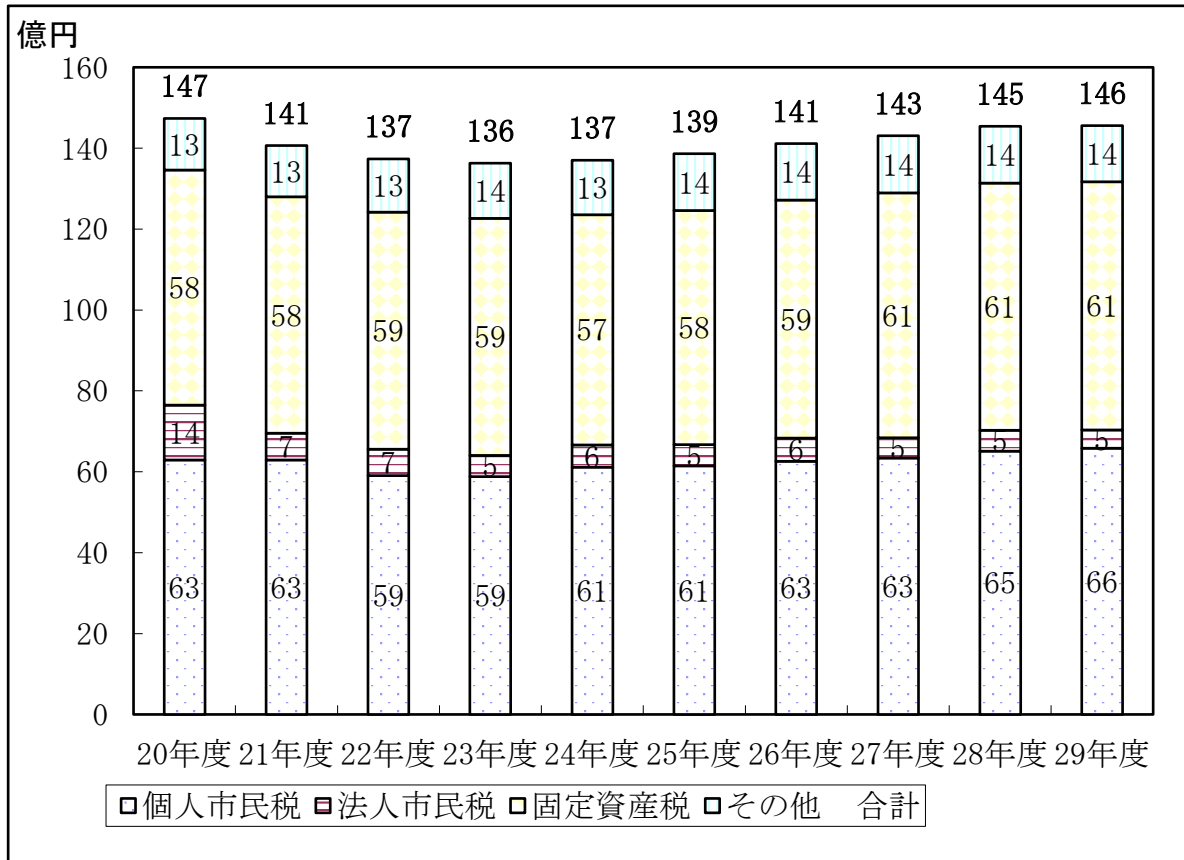
今後見込まれる財政需要を考慮すると、新たな財源確保や、収納率の向上等により歳入を確保し、財源対策を講じる必要に迫られています。

注：平成27年度は、下新倉小学校建設事業に伴う国庫負担金や地方債の借入れなどにより比率が相対的に下がっています。

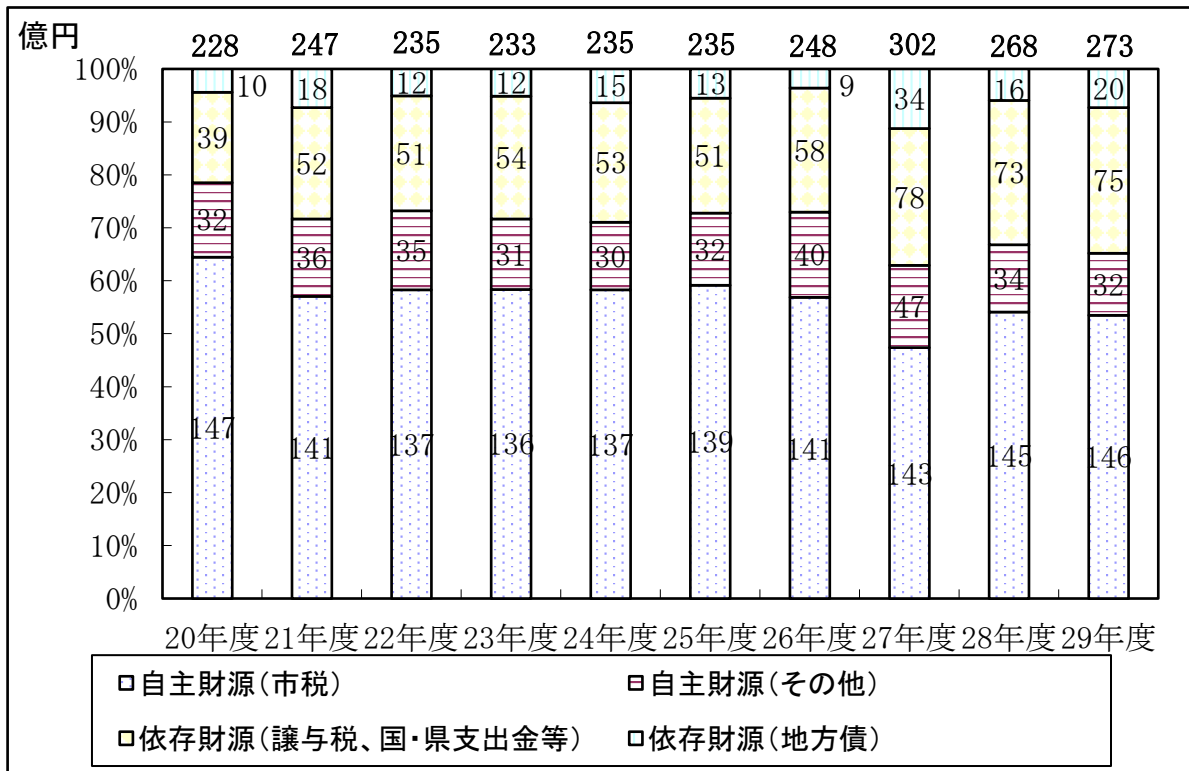
---

※3 三位一体改革による税源移譲 国庫補助金改革、交付税改革と並ぶ国の施策。平成18年の税制改正により、大部分の人の所得税が減り、住民税が増えた(総額は変わらず)。

○ 市税収入額の推移（数値は億円未満を四捨五入）



○ 自主財源と依存財源の構成比推移（数値は億円未満を四捨五入）



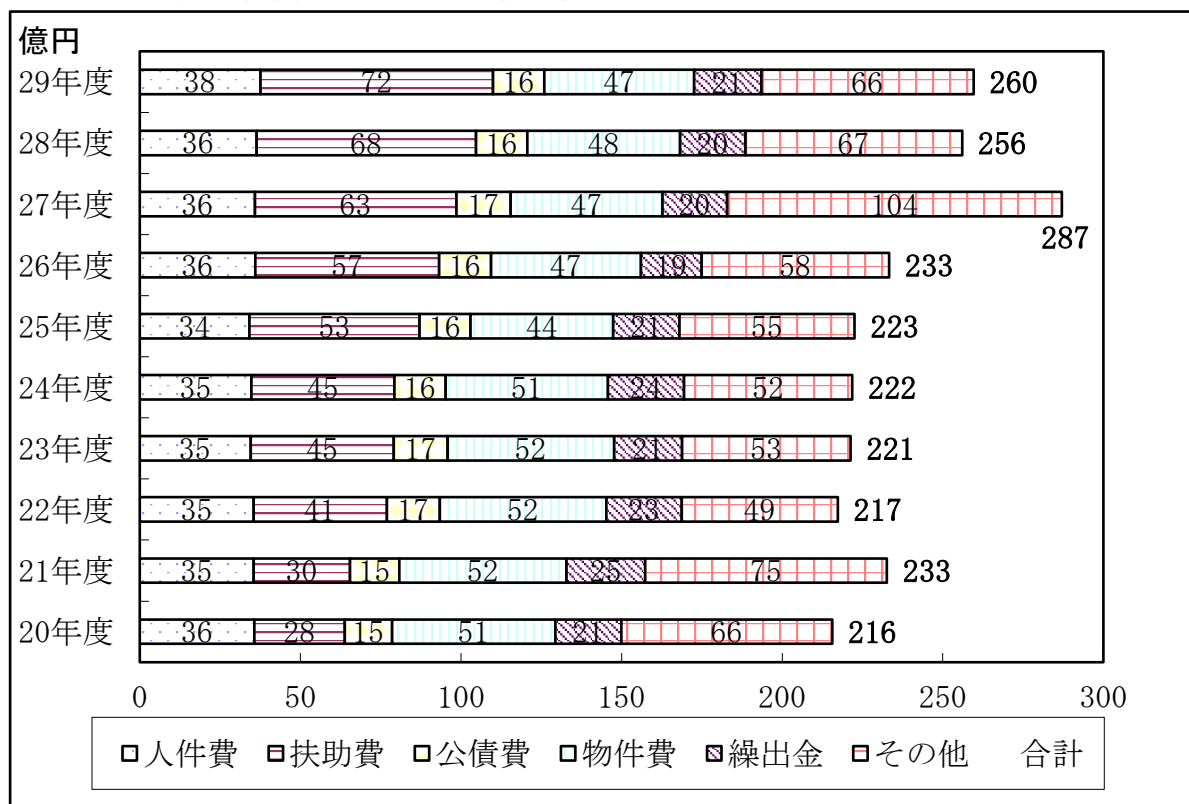


### 3 歳出の特徴

和光市の歳出は、人件費が給与改正や職員数の増加などにより前年度より増加し、扶助費(※4)は、平成27年度からスタートした子ども・子育て新制度など、福祉制度の拡充による社会保障経費の増加などにより年々増加し、公債費(※5)は、ここ数年、ほぼ横ばいとなっています。

このような状況の下、今後も増加が見込まれる扶助費などの財源を確保しつつ市民サービスの水準を維持していくためにも、将来の財政基盤を強化するための投資的事業や公共施設の配置及び機能の再編等を推進していくことが重要となっています。

○ 歳出（性質別経費）の推移（数値は億円未満を四捨五入）



※4 扶助費 生活保護や児童対策などの社会保障に要する費用。

※5 公債費 借金元金と利息の返済に要する費用。

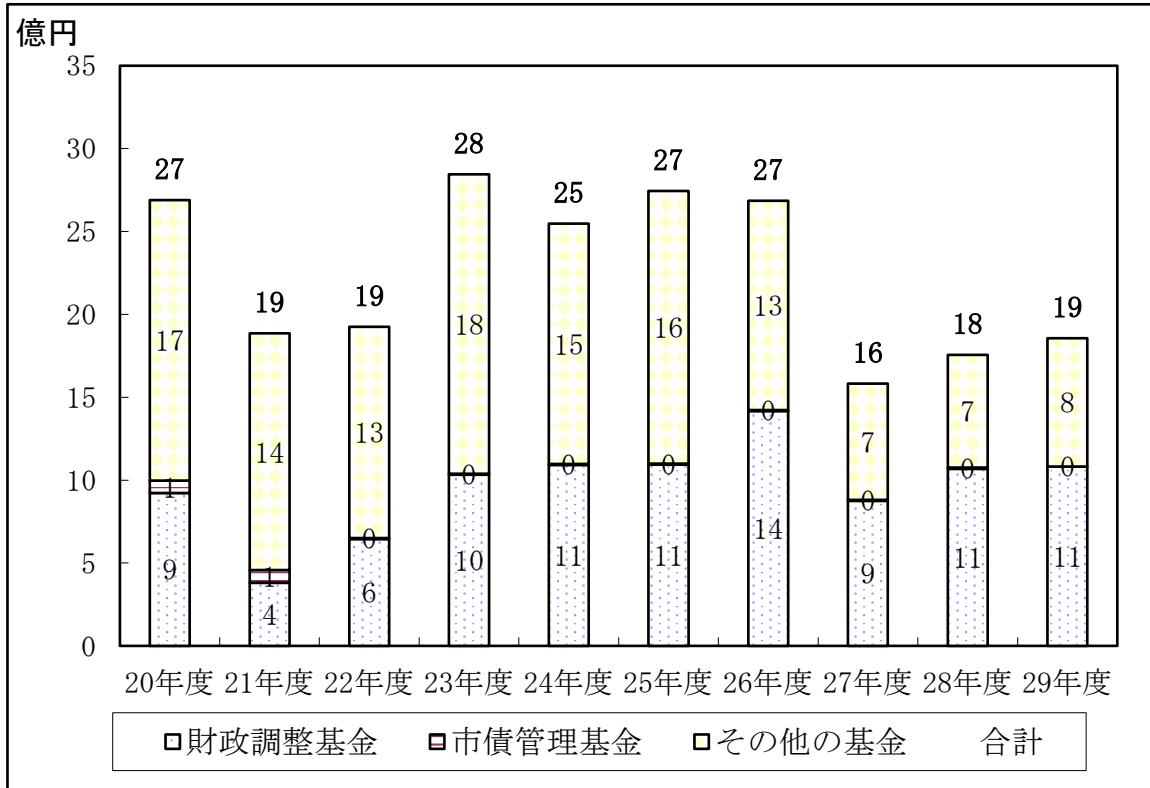
※6 臨時財政対策債 国の普通交付税の財源が不足するときに、各地方公共団体が自ら補てんする借金。

#### 4 基金と市債残高の動向

これまで不交付団体であったことから、景気の急激な悪化などによる市税収入の減少に対する国からの補完措置がないため、基金の取り崩しや市債発行により、財源不足を補ってきました。その結果現在の一般会計における基金残高は、平成20年度と比較して約8億円減少しています。年度間の財源の不均衡を調整するための財政調整基金は、平成29年度は前年度より、わずかに増加していますが、今後の財政需要を考慮すると更なる基金残高の確保が必要です。

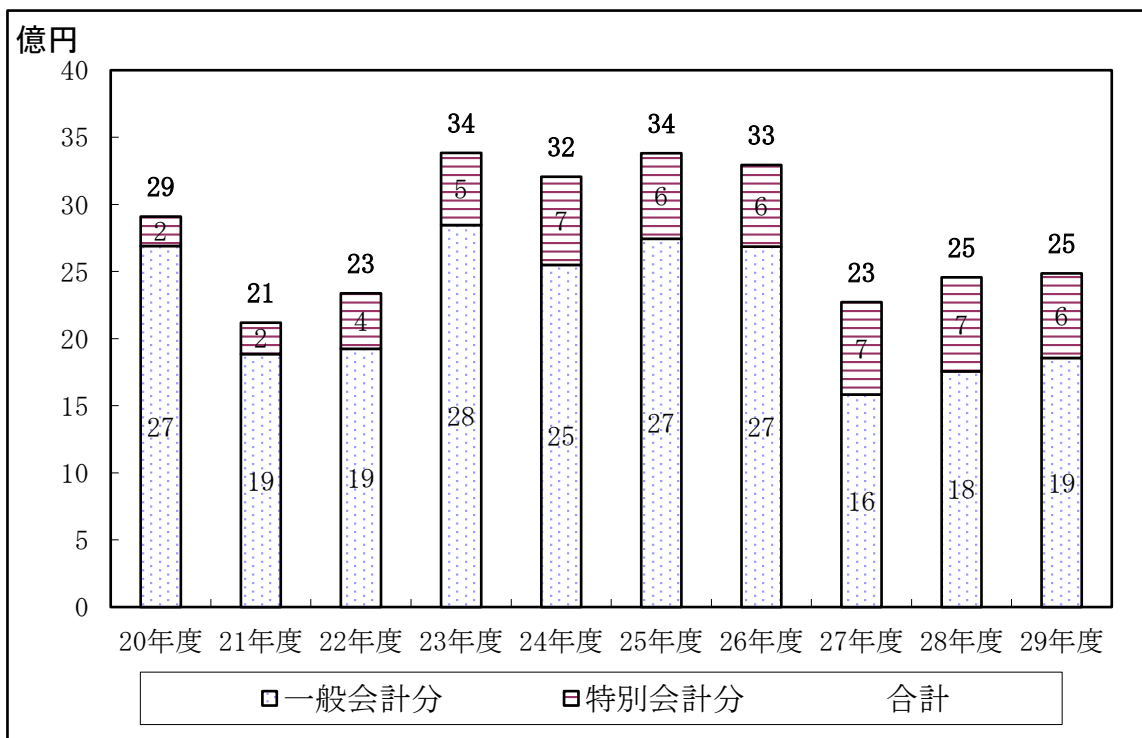
市債残高については、下新倉小学校建設事業に伴い地方債を発行したことから、普通債の残高が平成27年度以降大きく増加しています。また、臨時財政対策債などの特例債については、前年に引き続き減少しています。今後も、次世代に過度の負担を残さない市債管理が必要です。

○ 基金残高の推移（普通会計に係るもの）（数値は億円未満を四捨五入）

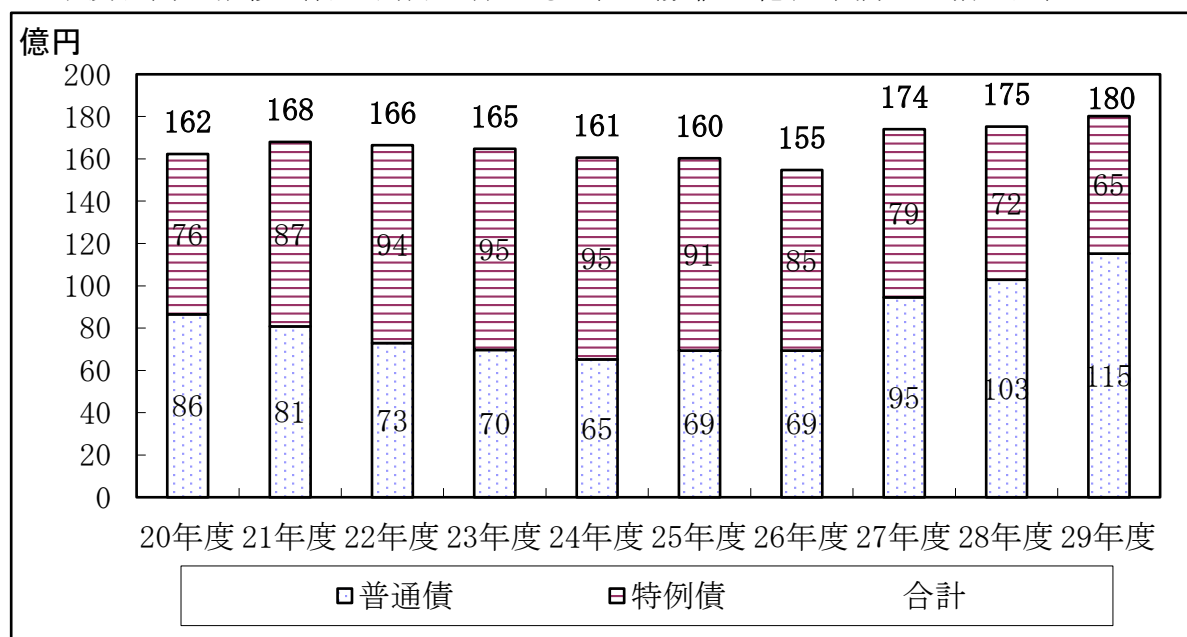


基金残高の詳細は50ページにあります。

○ 【参考】基金残高の推移（全会計）（数値は億円未満を四捨五入）

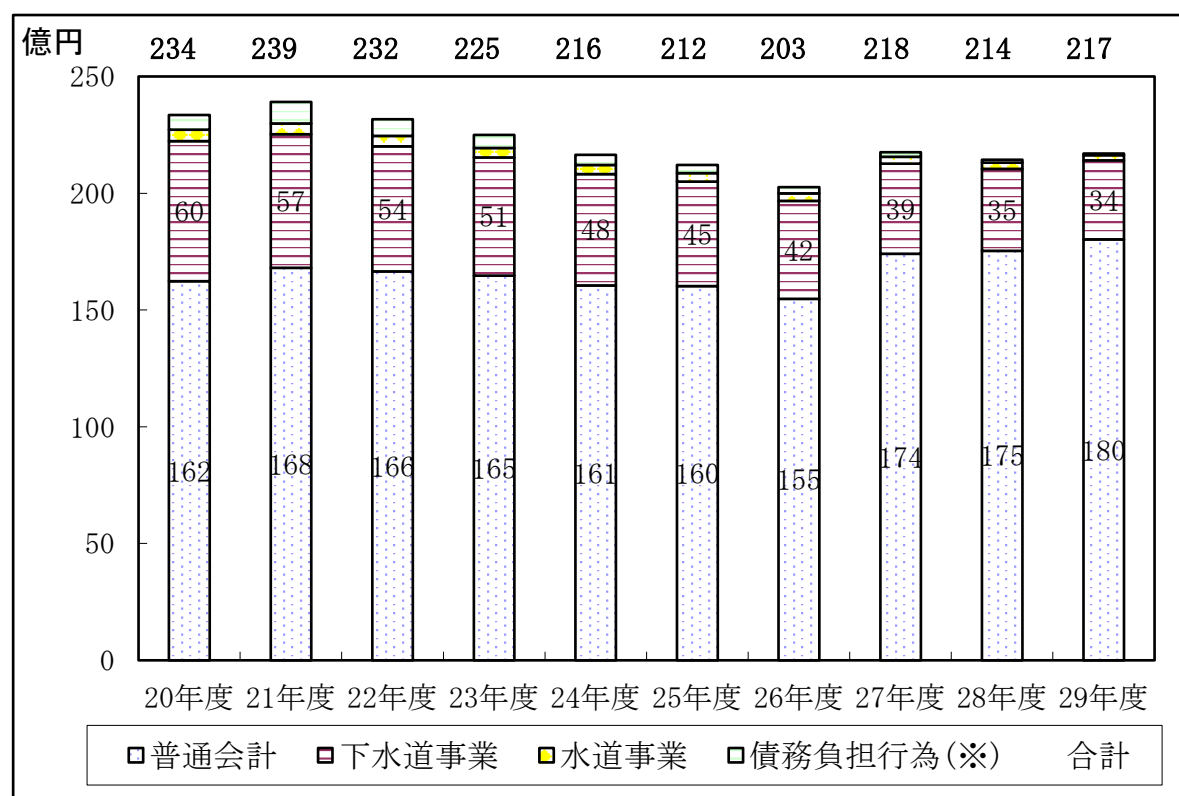


○ 市債残高の推移（普通会計に係るもの）（数値は億円未満を四捨五入）



市債残高の詳細は51ページにあります。

○ 【参考】市債残高の推移（数値は億円未満を四捨五入）



※債務負担行為には、和光市土地開発公社で取得した用地の返済金等があります。

## 和光市の概要

和光市の財政運営の基となる市の特徴や人口の推移などを確認します。

### 1 和光市の特徴

#### 世帯と人口

和光市民の平均年齢は41.3歳（H30.1.1現在）と、県平均45.7歳（H30.1.1現在）よりも低く、若いまちであることが特徴です。

和光市の高齢化率は17.6%（H30.1.1現在）と、県平均25.5%（H30.1.1現在）と比べて低い割合となっています。

また、和光市第5次総合振興計画における平成32年度の将来推計人口は、80,778人としていましたが、平成29年にはすでに引用数値を上回っています。

（単位：人）

年次	総世帯数	総人口 (a+b)	住民基本台帳人口(a)			外国人 登録人口(b)
			総数	男	女	
平成9年	26,032	62,818	61,971	32,105	29,866	847
平成14年	30,169	68,891	67,733	35,035	32,698	1,158
平成19年	34,182	74,682	73,310	37,940	35,370	1,372
平成24年	37,002	78,277	76,481	39,551	36,930	1,796
平成29年	39,599	81,151	78,935	40,647	38,288	2,216

各年3月31日現在

#### 住民の所得

人口1人当たりの市町村民所得は、埼玉県内で第3位です。  
昨年度に比べ4.9%増加しました。

平成27年度 一人当たり市町村民所得（埼玉県の市町村民経済計算から）

順位	市町村名	(単位：千円)	5	滑川町	3,194
1	戸田市	3,759	6	朝霞市	3,152
2	さいたま市	3,754	7	蕨市	3,131
3	和光市	3,536	8	所沢市	3,110
4	三芳町	3,237	9	志木市	3,087

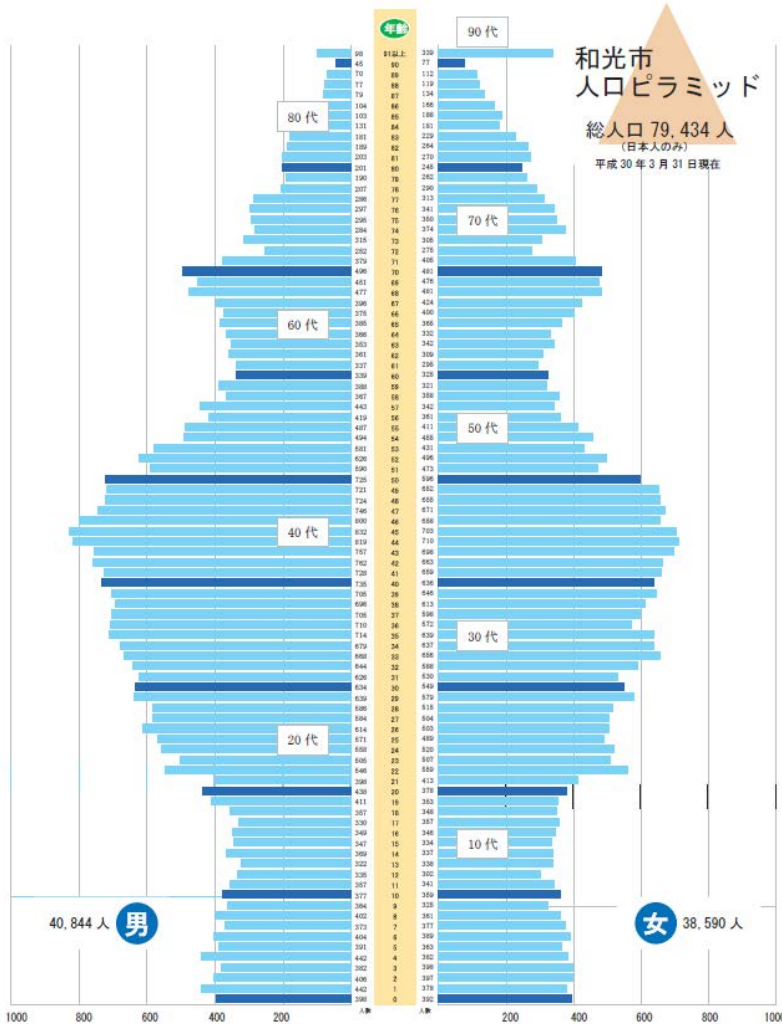
一人当たり市町村民所得＝市町村民所得÷推計人口

※推計人口は、その年度の10月1日現在の総務省統計局の推計人口を、県統計課の推計人口により調整したものです。

※市町村民所得は、企業の利益なども含めた市町村民経済全体の所得を表しており、個人の給与や実収入の平均値を表すものではありません。

## 2 和光市ミニ統計

### 和光市の人口



人口密度 (平成 27 年度)  
(人 / k m<sup>2</sup>)

資料 : 国勢調査

埼玉県平均		1,913.4
県内市部平均		4,006.1
1	蕨市	14,140.9
2	川口市	9,331.9
3	草加市	8,996.1
4	志木市	8,030.5
5	ふじみ野市	7,579.9
6	戸田市	7,484.9
7	朝霞市	7,431.8
8	和光市	7,321.2
9	新座市	7,116.9
10	さいたま市	5,813.3

### 和光市の土地利用

(単位 : h a)

年次	総数	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	その他
平成 21 年度	1,104	0.4	132.9	502.1	8.5	0.7	108.1	351.3
平成 23 年度	1,104	0.4	129.8	504.6	8.3	0.7	109.1	351.1
平成 25 年度	1,104	0.4	125.2	509.0	8.0	0.0	109.4	352.0
平成 27 年度	1,104	0.3	119.6	513.0	7.4	0.0	110.7	353.0
平成 29 年度	1,104	0.3	102.3	538.3	7.2	0.0	100.7	355.2

※ 雑種地とは駐車場や荒地など。その他とは公衆用道路、河川、水路など。

## 和光市の産業別就業者

(単位：人)

区 分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総数	28,818	32,896	37,344	40,079	42,016	40,963
<b>第1次産業</b>	528	474	388	380	320	317
農業	525	473	384	378	319	315
林業	-	1	2	1	1	1
漁業	3	-	2	1	-	1
<b>第2次産業</b>	9,256	9,165	8,432	7,832	6,770	6,155
鉱業	9	12	9	8	7	8
建設業	3,369	3,610	3,468	3,299	2,886	2,492
製造業	5,878	5,543	4,955	4,525	3,877	3,655
<b>第3次産業</b>	18,842	23,124	27,659	30,833	31,442	25,911
電気・ガス・熱供給・水道業	77	76	98	79	118	97
運輸・通信業	1,732	1,997	2,267			
情報通信業				2,863	3,196	3,195
運輸業				1,809	1,774	1,595
卸売・小売業・飲食店	5,985	6,860	7,644			
卸売・小売業				5,835	5,898	5,045
金融・保険業	1,376	1,508	1,405	1,353	1,455	1,361
不動産業	572	536	673	773	1,061	1,095
サービス業	7,486	9,562	11,690			
飲食店、宿泊業				1,737	2,146	1,951
医療、福祉				2,657	3,303	3,443
教育、学習支援業				1,560	1,974	1,658
複合サービス事業				226	87	187
サービス業				7,097	6,519	6,284
(他に分類されないもの)						
公務	1,614	2,585	3,882	4,844	3,911	3,916
分類不能の産業	192	133	865	1,034	3,484	4,664

資料：国勢調査

和光市の財産の状況

平成29年度末時点の公有財産（土地及び建物）

区	分	土地 (地積㎡)	建物（述床面積㎡）			
			木造	非木造	合計	
行政財産	公用財産	市庁舎	13,544.57	0.00	13,732.57	13,732.57
		駅北口土地区画整理事業事務所	550.00	0.00	259.48	259.48
		消防団分団車庫	798.59	0.00	620.18	620.18
		防災倉庫	384.26	0.00	458.37	458.37
		消防施設	696.60	0.00	0.00	0.00
		文化財保存庫	0.00	0.00	295.33	295.33
		清掃センター	12,716.03	0.00	5,723.75	5,723.75
	公共用財産	保育園	5,563.86	0.00	5,708.72	5,708.72
		児童館	1,934.73	362.29	1,078.12	1,440.41
		児童センター	8,970.76	0.00	3,459.36	3,459.36
		保育クラブ	0.00	0.00	1,275.58	1,275.58
		新倉高齢者福祉センター	1,324.99	0.00	776.83	776.83
		福祉の里	5,876.81	0.00	5,973.40	5,973.40
		総合福祉会館	0.00	0.00	7,301.43	7,301.43
		さつき苑	0.00	0.00	792.58	792.58
		保健センター	2,974.96	0.00	878.13	878.13
		小学校	111,499.23	48.78	55,419.04	55,467.82
		中学校	62,548.14	0.00	26,159.87	26,159.87
		図書館	941.51	0.00	2,299.74	2,299.74
		公民館	8,105.40	0.00	5,152.03	5,152.03
		歴史資料室	0.00	0.00	60.42	60.42
		新倉ふるさと民家園	2,000.00	266.32	23.26	289.58
		市民文化センター	13,035.35	0.00	7,922.59	7,922.59
		コミュニティセンター	326.76	0.00	2,729.97	2,729.97
		地域センター	1,991.98	0.00	2,004.82	2,004.82
		勤労青少年ホーム	1,080.02	0.00	684.24	684.24
		勤労福祉センター	0.00	0.00	3,133.38	3,133.38
		ゲートボール場	0.00	0.00	2.87	2.87
		運動場	21,975.16	0.00	753.74	753.74
		庭球場	55.00	0.00	38.21	38.21
		総合体育館	0.00	0.00	13,050.90	13,050.90
		レクリエーション広場	0.00	0.00	13.29	13.29
		農業体験センター	2,593.69	165.24	24.98	190.22
公園	33,238.06	5.40	106.72	112.12		
緑地	1,516.00	0.00	0.00	0.00		



	特別緑地保全地区	3,458.00	0.00	0.00	0.00
	駅前いこいの広場	59.00	0.00	0.00	0.00
	午王山遺跡史跡保存地	306.00	0.00	0.00	0.00
	自転車駐車場	0.00	0.00	3,604.12	3,604.12
	ごみ集積場	376.18	0.00	0.00	0.00
	区画整理事業用地	12,981.85	0.00	0.00	0.00
	駅南口駅前広場	0.00	0.00	392.28	392.28
	自転車等保管場所管理ボックス	0.00	0.00	11.00	11.00
	資材置場	122.93	0.00	0.00	0.00
	有機農法試験ほ場	997.00	0.00	0.00	0.00
	農産物直売所跡地	178.69	0.00	0.00	0.00
行政財産計		334,722.11	848.03	171,921.30	172,769.33
普通財産	消防署	3,443.36	0.00	3,153.59	3,153.59
	交番用地	574.53	0.00	0.00	0.00
	民設民営保育園用地	3,622.97	0.00	0.00	0.00
	民間福祉施設用地	2,998.52	0.00	0.00	0.00
	集会所用地	614.44	0.00	0.00	0.00
	自転車等駐車場用地	1,094.43	0.00	0.00	0.00
	記念碑用地	238.98	0.00	0.00	0.00
	その他	3,593.84	0.00	0.00	0.00
普通財産計		16,181.07	0.00	3,153.59	3,153.59

※土地が「0」で建物があるものは借地です。

#### 公有財産の区分（地方自治法第238条）

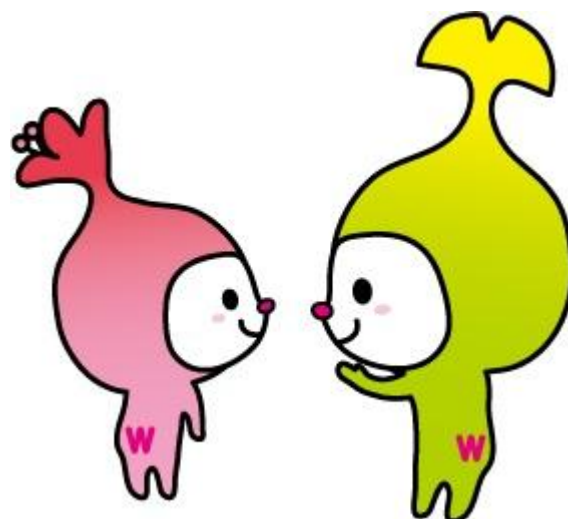
行政財産	公用又は公共用に供する財産	公用財産	地方公共団体が事務事業を執行するためのもの	庁舎、試験研究施設等に供される建物及び敷地
		公共用財産	住民の一般的な共同の利用に供するもの	公園、道路、河川、学校、図書館等に供される建物及び敷地
普通財産	行政財産以外の一切の財産			売払用の土地、行政財産の用途廃止したもの

※1 有機農法試験ほ場 収穫体験事業などを行うための用地。

## 第1章 地方財政の基礎知識

## 第2章 平成29年度決算の概要

## 第3章 財政指標で見る和光市財政



## 第1章 地方財政の基礎知識

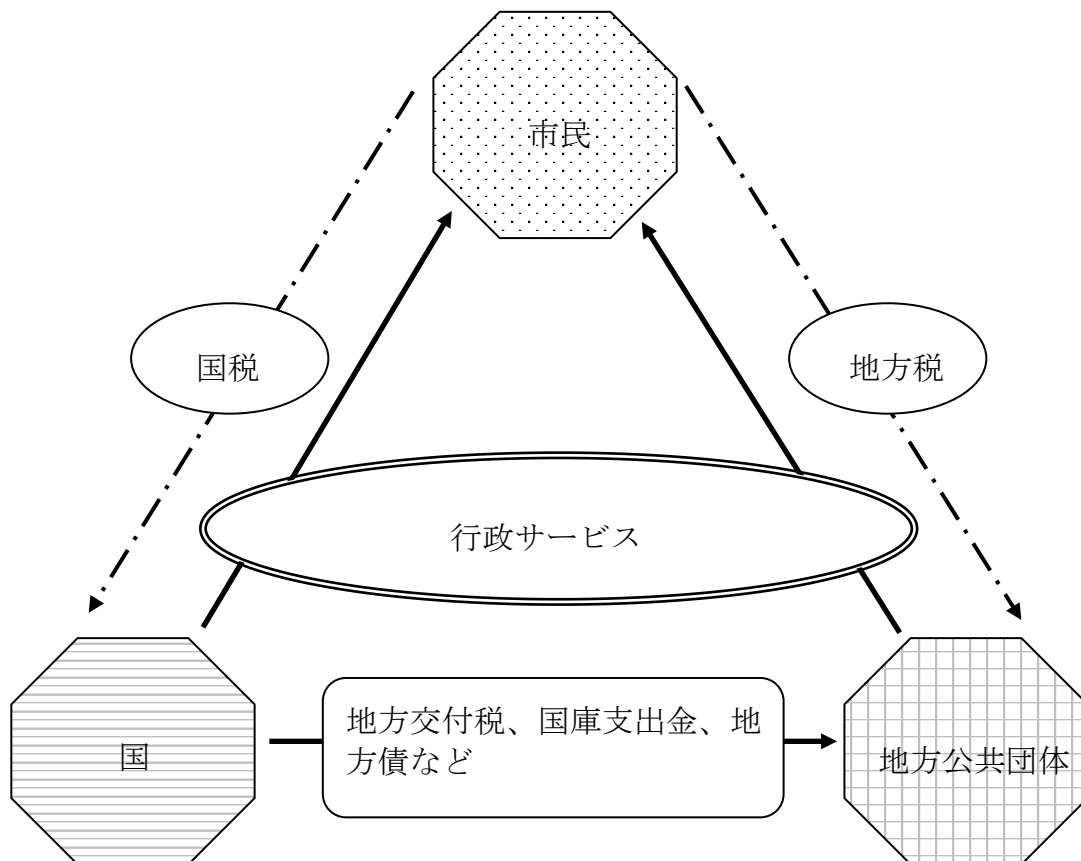
この章では、国と地方の関係や市の財政運営の流れなど、これから財政白書を読み進めていく上で必要な地方財政に関する基礎知識を説明します。

### 1 国と地方の関係

#### □ 地方財政

地方公共団体は、都道府県及び市町村ごとに独自の行政活動を営んでいます。市民が納めた地方税や国からの移転資金（地方交付税、国庫支出金など）が、行政サービス提供のための資金となります。こうして調達した資金を各行政サービスに配分していくことを「地方財政」といいます。

#### 市民・地方公共団体・国の関係



※国や県から地方公共団体に支出される資金は、各地方公共団体の行政の水準を保つとともに、各地方公共団体の負担を軽くする意味で役立っています。

## □ 税金の流れ

市民が負担している税金には、所得税や消費税といった国に納める「国税」と、自動車税や住民税などの都道府県や市区町村に納める「地方税」があります。国と地方の税収について、平成29年度決算で比較すると、国税が62.4兆円(61.5%)、地方税は39.1兆円(38.5%)となっています。一方、支出面では国が71.0兆円(42.2%)であるのに対し、地方は97.3兆円(57.8%)と、国税・地方税の割合と国・地方公共団体の費用負担の割合は不均衡になっています。そこで、支出に見合った税収配分になるよう、国は国税の一部を地方交付税として地方公共団体に資金移転しています。

※国税の一部とは 所得税及び法人税の33.1%、酒税の50%、消費税の22.3%、地方法人税の全額を合計した金額です。

※その他にも国から地方公共団体には地方譲与税が交付されています。国が国税として徴収したものを地方に配分するという意味では地方交付税も同意義ですが、財源が不足している団体にのみ交付する地方交付税とは違い、地方譲与税は道路の延長や面積などの算定数値により配分することとなっています。

和光市では地方揮発油譲与税、自動車重量譲与税の2種類の地方譲与税の配分を受けています。

## □ 地方交付税の仕組み

都市や地方など、地域間での経済格差により税収の格差が生じます。税収の少ない地方公共団体は最低限度の行政サービスさえ提供できなくなるおそれがあるため、どの地域に住む国民にも一定の行政サービスを提供できるよう、国が地方に代わって徴収し、地方公共団体に再配分することで地域間の格差を是正するのが地方交付税です。

この総額は、国が策定する「地方財政計画」によって決定されます。

※地方財政計画とは 地方交付税法に基づき、総務省が地方財政収支の見積りを行っているもので、地方公共団体の財源を補償する基礎となるものです。

□ 普通交付税の算定方法

地方交付税には、普通交付税と特別交付税の2種類の交付税があります。

種類	交付内容	交付税総額の割合
普通交付税	行政経費の財源不足分について交付	94%
特別交付税	災害などの特別な事情がある場合に交付	6%

交付額は、支出項目（人口や面積、道路面積など）ごとに算出した経費の合計額（基準財政需要額）から標準的な税収入の一定割合により算出した額（基準財政収入額）を引いた額となります。財源不足が生じない団体は、普通交付税が交付されません。平成29年度は、埼玉県内では戸田市・三芳町・八潮市・和光市がこれに該当し、普通交付税の交付がされませんでした。

なお、算出された各値は、客観的に算定された理論値であり、実際の収支とは異なります。

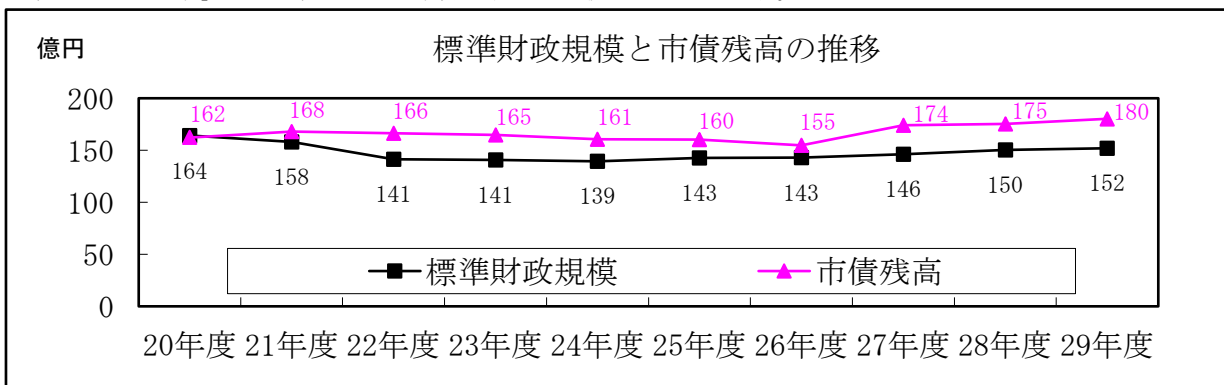
基準財政収入額・基準財需要額等の推移

(単位：千円)

年度	基準財政収入額	基準財政需要額	財源不足額 (財源超過額)	財政力 指数	標準 財政規模	市債残高
平成元年度	6,380,221	5,894,975	▲ 485,246	1.078	8,475,736	5,476,645
平成2年度	7,095,635	6,249,699	▲ 845,936	1.101	9,428,971	11,805,601
平成3年度	7,509,278	6,761,200	▲ 748,078	1.109	9,979,029	12,724,605
平成4年度	8,134,373	7,367,783	▲ 766,590	1.117	10,809,409	15,378,477
平成5年度	8,369,203	7,396,148	▲ 973,055	1.116	11,121,290	15,913,578
平成6年度	8,219,513	7,581,833	▲ 637,680	1.107	10,920,355	15,913,666
平成7年度	8,614,073	8,118,322	▲ 495,751	1.092	11,447,000	15,920,453
平成8年度	9,094,151	8,501,245	▲ 592,906	1.072	12,085,905	15,273,695
平成9年度	9,351,855	8,847,495	▲ 504,360	1.063	12,423,692	14,881,901
平成10年度	10,177,355	9,305,847	▲ 871,508	1.074	13,523,840	13,946,639
平成11年度	9,579,549	9,413,292	▲ 166,257	1.056	12,725,249	13,091,432
平成12年度	10,029,685	9,502,875	▲ 526,810	1.056	13,326,014	12,457,920
平成13年度	9,509,538	9,443,327	▲ 66,211	1.027	12,631,697	11,679,432
平成14年度	9,415,054	9,135,987	▲ 279,067	1.031	12,502,996	11,617,424
平成15年度	9,312,854	8,400,077	▲ 912,777	1.049	12,363,990	12,704,902
平成16年度	9,893,223	8,476,833	▲ 1,416,390	1.102	13,135,401	14,973,763
平成17年度	10,349,088	8,572,448	▲ 1,776,640	1.161	13,661,061	15,587,914
平成18年度	11,145,926	8,877,808	▲ 2,268,118	1.210	14,637,189	15,985,333
平成19年度	12,416,822	9,031,442	▲ 3,385,380	1.279	16,316,558	16,390,251
平成20年度	12,029,269	9,218,268	▲ 2,811,001	1.312	16,419,064	16,235,294
平成21年度	11,281,799	9,039,233	▲ 2,242,566	1.309	15,804,717	16,807,796
平成22年度	10,069,940	9,709,107	▲ 360,833	1.197	14,128,065	16,647,295
平成23年度	10,346,672	10,389,291	42,619	1.094	14,071,479	16,472,477
平成24年度	10,210,688	10,285,725	75,037	1.009	13,939,105	16,057,784
平成25年度	10,768,343	10,809,655	44,591	0.995	14,250,081	16,025,523
平成26年度	10,869,986	10,897,718	27,732	0.995	14,285,890	15,474,190
平成27年度	11,238,927	11,264,624	25,697	0.997	14,608,086	17,401,597
平成28年度	11,613,375	11,221,386	▲ 391,989	1.010	15,042,351	17,530,697
平成29年度	11,759,417	11,360,703	▲ 398,714	1.023	15,185,788	18,026,176

※基準財政収入額、基準財政需要額及び標準財政規模は普通交付税の算定等に用いる数値であるため、実際の歳入歳出金額とは異なります。

※財源不足額の数値が負の数(▲)の場合は、「財源超過額」といい普通交付税は交付されません。正の数の場合は、「財源不足額」といい、財源不足額分の普通交付税が交付されます。

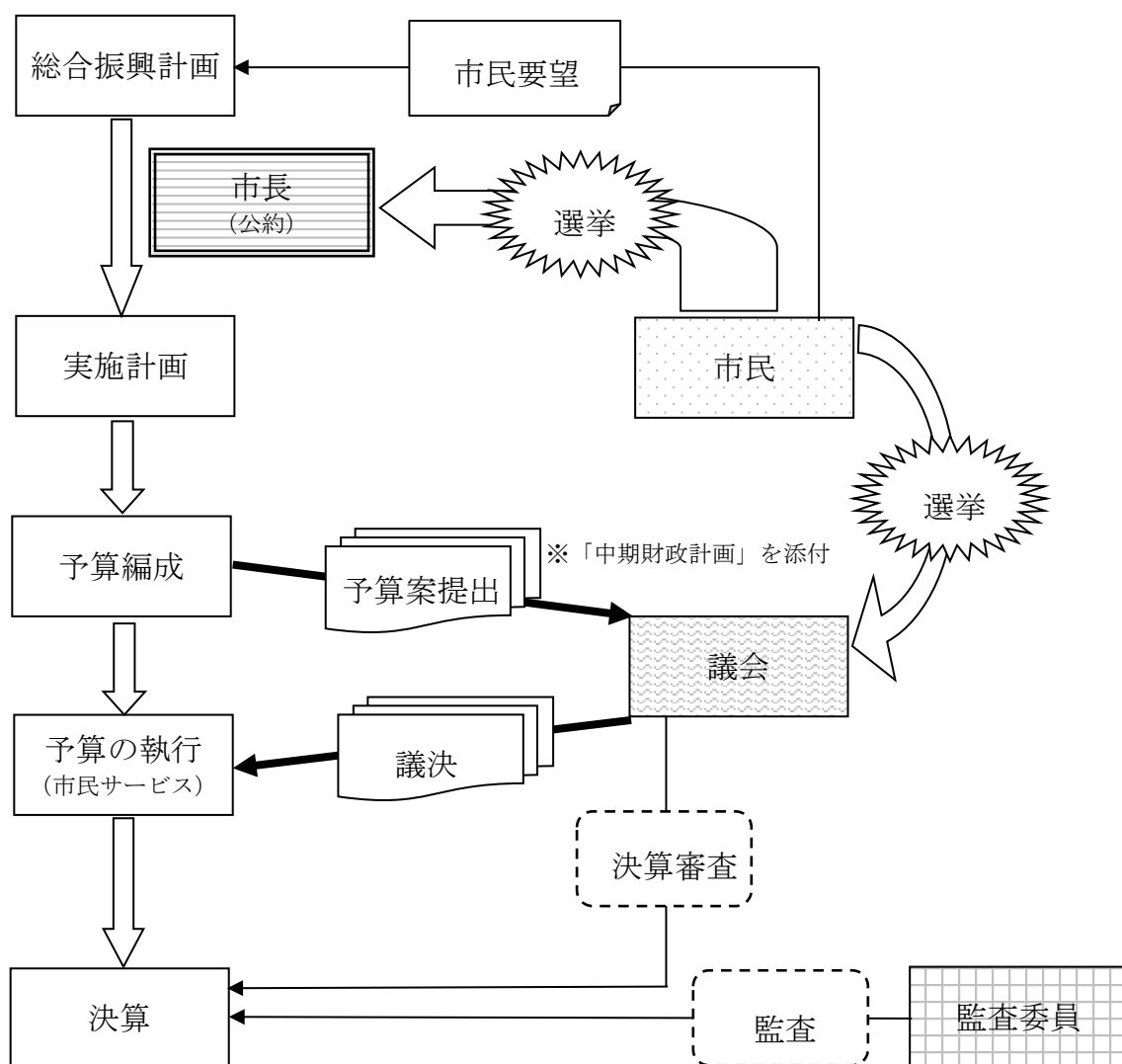


## 2 市の財政運営の基本

### □ 市の財政運営の流れ

市長は、まちづくりの基本となる総合振興計画、市長が選挙で掲げた公約、市民の要望など、様々な要素を反映し調製した（予算編成）予算案を議会に提出します。その後、議会の議決を経て、はじめて正式な予算となり、4月から翌年3月までの1年間に様々な行政サービスを提供します（予算執行）。年度が終了すると、1年間の実績を示した決算の調製を行います。市長は、監査委員の審査意見書を付けた上で、議会の認定に付します。以上が、財政運営における一連の流れになります。

また、平成25年4月1日に和光市健全な財政運営に関する条例が施行されたことから、平成26年度から、「中期財政計画の策定」が新たに加わることとなりました。



□ 予算

予算は、1年間（4月から翌年3月まで）の収入と支出の見積もりで、財政運営の指針となるものです。

和光市では、新しい年度が始まる前に、その1年度間で、どのくらいの収入があるのか？そしてこの1年度間の行政サービスをどのように行うのか計画し、その費用を見積もります。和光市の予算書には、これからの1年度間の資金の使いみちが書かれています。

【予算の種類】

- 当初予算・・・年度当初に作成される予算
- 補正予算・・・当初予算成立後の事情により変更を加える予算
- 暫定予算・・・当初予算が年度開始前に成立しない場合などの暫定的な予算

□ 会計区分

和光市には、一般会計、特別会計、公営企業会計の3種類の会計があります。

これらの会計区分は、法律によって設置を義務付けられているもの以外は、それぞれの地方公共団体で独自に定めることができます。

市の基本的な歳入歳出については、全て一般会計に計上されていますが、国民健康保険など特定の収入により特定の事業を行う場合、一般会計とは完全に区分された特別会計が設置され、予算も別に作成されます。特別会計の設置目的は、特定の目的のために市民から徴収した収入が、その目的に正しく使用されていることを明確にし、市民からの徴収額と市民への給付額の均衡を確保するという点にあります。その他、独立採算的な性格を有する公営企業会計があり、和光市では水道事業及び下水道事業が該当します。

和光市の会計区分及び平成29年度当初予算額

(単位：千円)

一 般 会 計		24,535,000
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	7,976,213
	後 期 高 齢 者 医 療	675,565
	介 護 保 険	3,445,272
	和光都市計画事業和光市駅北口土地区画整理事業	1,152,293
公 営 企 業 会 計 ( 水 道 事 業 )		1,700,610
公 営 企 業 会 計 ( 下 水 道 事 業 )		1,576,992

※ 一般会計と普通会計

総務省は、毎年度、地方公共団体の歳入歳出決算額、各種財政指標等を把握するため、地方財政状況調査（通称「決算統計」）を実施します。地方財政状況調査においては、各団体間の比較をできる限り正確に行うため、総務省が定める全国统一の基準に基づき、各会計に計上されている歳入歳出、基金残高、市債残高等が『普通会計』という会計区分に整理しなおされて集計されます。

和光市では、一般会計と和光都市計画事業和光市駅北口土地区画整理事業（老人保健施設等に関する市債残高等を除く。）が普通会計に該当します。



## 第2章 平成29年度決算の概要

この章では、平成29年度普通会計（一般会計及び和光都市計画事業和光市駅北口土地区画整理事業特別会計）決算を中心に、ここ5年の推移や近隣市との比較など、様々な角度から和光市の財政状況を分析していきます。

### 1 全会計の決算状況

平成29年度の全会計の決算状況は下表のとおりです。

全会計の歳入総額は433億7,322万4千円、歳出総額は417億5,365万2千円で、歳入総額から歳出総額を差し引いた額（形式収支）は16億1,957万2千円、翌年度繰越財源1億1,492万4千円を除いた実質収支は15億464万8千円となりました。

このうち、一般会計については、歳入総額が264億9,210万8千円、歳出総額が252億7,090万5千円、歳入から歳出を差し引いた額（形式収支）は12億2,120万3千円、翌年度繰越財源9,800万8千円を除いた実質収支は11億2,319万5千円となりました。

市の資金は事業終了後でないと支払えません。例えば、天候の関係で年度内に工事が終わらなかった場合、その支払は工事完了後の翌年度となります。このような性質の資金のことを翌年度繰越財源といいます。

（単位：千円）

区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出 差引	翌年度 繰越財源	実質収支
一般会計	26,492,108	25,270,905	1,221,203	98,008	1,123,195
特別 会計	国民健康保険	7,955,997	695,257	0	695,257
	後期高齢者医療	663,351	1,663	0	1,663
	介護保険	3,466,918	95,544	2,766	92,778
	和光市駅北口土地 区画整理事業	1,091,725	87,212	11,591	75,621
水道事業	1,443,428	1,664,323	△ 220,895	0	△ 220,895
下水道事業	1,380,021	1,640,433	△ 260,412	2,559	△ 262,971
全会計合計	43,373,224	41,753,652	1,619,572	114,924	1,504,648

## 2 普通会計決算状況

一番身近で、資金の出入りが大きいのは普通会計です。平成29年度普通会計決算の状況を見ていきます。

### □ 普通会計収支決算状況

(単位：千円)

区分		平成29年度	平成28年度
歳入総額	A	27,269,952	26,773,296
歳出総額	B	25,961,537	25,601,383
形式収支(歳入歳出差引)(A-B)	C	1,308,415	1,171,913
翌年度繰越財源	D	109,599	188,612
実質収支(C-D)	E	1,198,816	983,301
単年度収支	F	215,515	△352,222
積立金	G	317,834	345,728
繰上償還金	H	0	0
積立金取り崩し額	I	305,353	152,620
実質単年度収支(F+G+H-I)		227,996	△159,114

#### 【形式収支】

形式収支とは、単純に歳入歳出を差し引きしたものです。

$$\boxed{\text{形式収支}} = \boxed{\text{歳入}} - \boxed{\text{歳出}}$$

#### 【実質収支】

実質収支とは、形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した額です。

$$\boxed{\text{実質収支}} = \boxed{\text{形式収支}} - \boxed{\text{翌年度繰越財源}}$$

平成29年度は、アーバンアクア公園整備、みなみ保育園施設整備、芝宮橋整備事業など14事業を繰り越し、翌年度に繰り越すべき財源が1億959万9千円となっており、これを形式収支から控除すると、実質収支は11億9,881万6千円となりました。

## 【単年度収支】

単年度収支とは、この1年で黒字（または赤字）をどれだけ増やしたか、減らしたかをみるもので、当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額です。

$$\boxed{\text{単年度収支}} = \boxed{\text{実質収支（当該年度）}} - \boxed{\text{実質収支（前年度）}}$$

実質収支は、前年度以前からの収支の累計であるため、当該年度単独の収支を把握しようとする場合には、当該年度の実質収支から繰越分である前年度の実質収支を差し引く必要があります。

平成29年度の単年度収支は、2億1,551万5千円となりました。

## 【実質単年度収支】

単年度収支の中には、財政調整基金への積立や市債の繰上げ償還といった実質的に黒字になる要素や、逆に財政調整基金の取崩しといった実質的に赤字になる要素が含まれているので、これらを歳入歳出に措置しなかった場合に単年度収支がどのようになっているかを示したものが実質単年度収支です。

$$\boxed{\text{実質単年度収支}} =$$

$$\boxed{\text{単年度収支}} + \boxed{\text{財政調整基金積立金}} - \boxed{\text{財政調整基金取崩額}} + \boxed{\text{市債繰上償還金}}$$

平成29年度の実質単年度収支は、単年度収支2億1,551万5千円に積立金3億1,783万4千円を加算し、基金取り崩し額3億535万3千円を差し引いて算出した結果、2億2,799万6千円となりました。

□ 平成29年度主要事業の成果

和光市総合振興計画の主要事業のうち、予算規模の大きいものを抽出しています。  
 ※予算額には補正予算額及び平成28年度からの繰越額を含み、平成30年度への繰越額を除いています。

※予算額の右欄の数字は、和光市総合振興計画の施策番号に対応しています。

(単位：千円)

駅北口土地区画整理推進

(駅北口土地区画整理事業事務所)

予算額	1,085,094		I—i—1		
決算額	1,007,437		前年度決算額	478,027	
決算額の 財源内訳	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	39,600		670,400		297,437

【事業の概要】

中心市街地としての整備と併せて、良好な住宅地の形成を進めるため、土地区画整理事業を推進する。

【実施した成果・評価】

- ・使用収益開始率 10.3%
- ・建物移転等補償業務委託
- ・1街区外造成他工事に伴う実施設計業務委託
- ・画地確定測量等業務委託

越後山土地区画整理組合活動支援

(都市整備課)

予算額	494,000		I—ii—4		
決算額	494,000		前年度決算額	255,000	
決算額の 財源内訳	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			383,100	90,000	20,900

【事業の概要】

越後山土地区画整理事業に対する補助金の支出及び技術支援を行い、安心安全の優良なまちづくりを推進する。

【実施した成果・評価】

- ・進捗率（事業費ベース） 74.5%
- ・使用収益開始率 68.1%
- ・公共施設整備進捗率 76.5%

## 白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援

(都市整備課)

予算額	606,827		I — ii — 4		
決算額	606,827		前年度決算額	339,448	
決算額の 財源内訳	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	86,316		468,900		51,611

## 【事業の概要】

白子三丁目中央土地区画整理事業に対する補助金の支出及び技術支援を行い、安心安全の優良なまちづくりを推進する。

## 【実施した成果・評価】

- ・進捗率（事業費ベース） 79.5%
- ・使用収益開始率 23.0%
- ・公共施設整備進捗率 81.0%

## アーバンアクア公園整備

(都市整備課)

予算額	36,153		I — iv — 9		
決算額	35,224		前年度決算額	76,282	
決算額の 財源内訳	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			9,900		25,324

## 【事業の概要】

埼玉県荒川右岸下水処理場施設の蓋架け上部を利用し、運動公園として整備する。

## 【実施した成果・評価】

- ・管理棟建築工事（建築工事、機械設備工事、電気工事）
- ・排水施設設備工事（汚水排水設備設置工事 一式）
- ・工事進捗率（事業費ベース） 57.6%

## 乳幼児・子ども医療費助成

(ネウボラ課)

予算額	352,534		Ⅲ—i—35		
決算額	344,696		前年度決算額	349,726	
決算額の 財源内訳	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		41,912			302,784

## 【事業の概要】

小学校就学前の乳幼児及び小・中学校終了前の児童の保護者を対象に、子どもの医療費（保険診療分）を助成することにより、保護者の経済的負担を軽減し、また健康が保持増進されているようにする。

## 【実施した成果・評価】

- ・乳幼児医療費
  - 受給者数 5,608人
  - 登録率 99.3%
- ・子ども医療費
  - 受給者数 6,000人
  - 登録数 99.6%

## 予防接種

(社会援護課)

予算額	243,999		Ⅲ—v—42		
決算額	237,829		前年度決算額	228,261	
決算額の 財源内訳	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
					237,829

## 【事業の概要】

生後2か月から20歳未満の未成年及び高齢者を対象に、定期予防接種の積極的勧奨を行い、接種の機会を提供することで、感染症が予防され、健康な生活を送ることができる。

## 【実施した成果・評価】

- ・BCG接種者率 100%
- ・麻しん風しん混合ワクチン接種率 94.1%
- ・高齢者肺炎球菌接種率 51.7%

□ 主要施設等にかかる管理費等の状況

和光市の主要施設にかかる管理費等については、下の表のとおりです。

人件費に記載がないものは、市の職員が常駐することなく運営されている場所ということになります。

和光市は、サービスの質的向上の観点から業務の外部委託を積極的に推進してきた結果、近隣と比較して物件費の割合が高くなっています。物件費の詳細については44ページを参照してください。

(単位：千円)

	年間所要経常経費					財源の内訳			
	人件費	物件費	維持補修費	その他	計	国・県支出金	使用料・手数料	その他特定財源	一般財源等
公園	25,221	94,548	6,382	2,530	128,681				128,681
清掃センター	15,725	743,067	96	1,290	760,178		92,402		667,776
保育園	400,589	240,209	3,826	2,713,896	3,358,520	1,229,991	218,729	374,303	1,535,497
老人福祉センター		85,533	650	57	86,240				86,240
本庁舎	21,717	148,210	4,392	162	174,481		6,756	16,133	151,592
児童館・児童センター		115,047	360	692	116,099				116,099
文化センター		274,708	1,089	201	275,998		565		275,433
公民館	98,275	42,899	3,771	1,661	146,606		3,108		143,498
図書館	99,032	67,253	1,609	1,250	169,144				169,144
総合福祉会館		64,892	3,825	285	69,002		82		68,920
アクシス		41,302	774	1,231	43,307				43,307
福祉の里		2,006		85	2,091				2,091
循環バス		11		42,768	42,779				42,779
総合体育館		86,027		1,302	87,329		8,455		78,874

※保育園の経費のその他は、民設民営保育園への負担金です。

□ 歳入決算の状況

平成29年度の歳入決算額は、前年度から4億9,665万6千円増加した272億6,995万2千円となりました。

普通会計歳入内訳

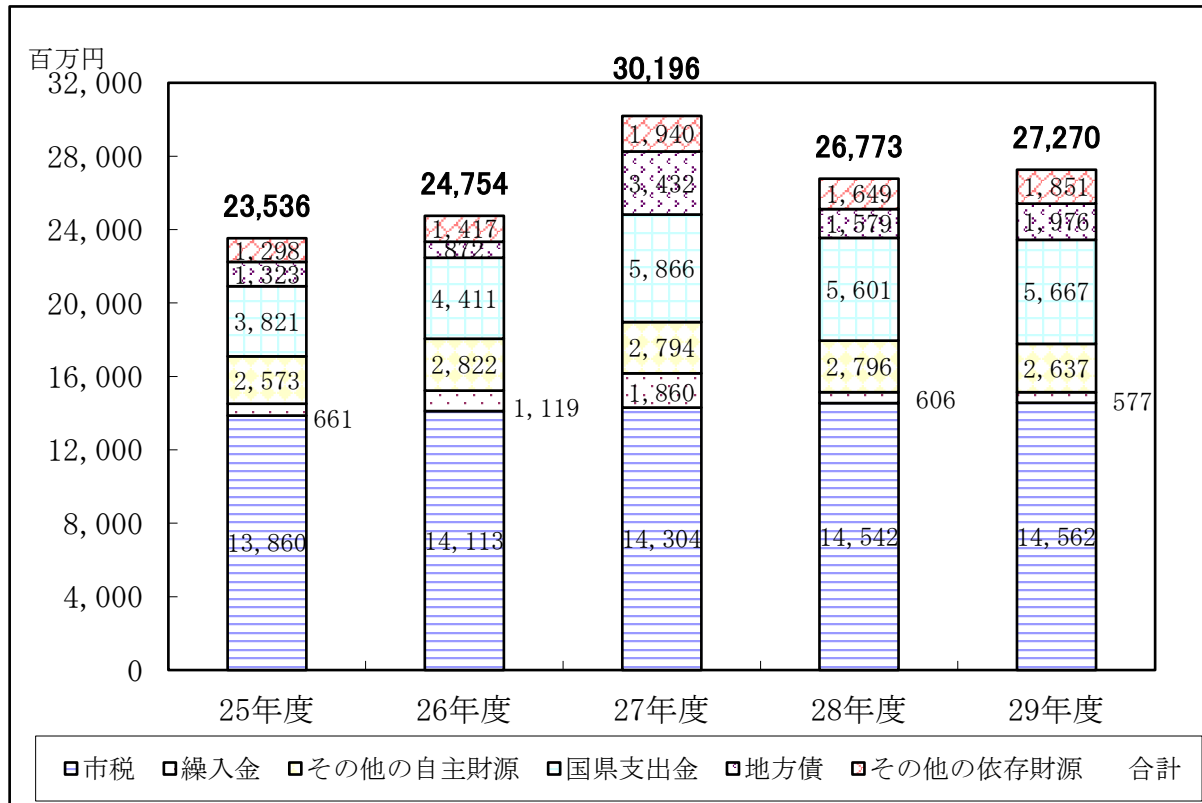
(単位：千円、%)

区分	平成29年度	構成比	平成28年度	構成比	増減額	増減率
地方税(市税)	14,561,514	53.4	14,541,678	54.3	19,836	0.1
市民税	7,034,030	25.8	7,023,139	26.2	10,891	0.2
個人	6,578,310	24.1	6,510,857	24.3	67,453	1.0
法人	455,720	1.7	512,282	1.9	△ 56,562	△ 11.0
固定資産税	6,138,040	22.5	6,112,365	22.8	25,675	0.4
軽自動車税	59,717	0.2	57,297	0.2	2,420	4.2
市たばこ税	461,889	1.7	488,352	1.8	△ 26,463	△ 5.4
都市計画税	867,838	3.2	860,525	3.2	7,313	0.8
地方譲与税	119,863	0.4	120,752	0.5	△ 889	△ 0.7
利子割交付金	22,829	0.1	14,092	0.1	8,737	62.0
配当割交付金	78,533	0.3	58,761	0.2	19,772	33.6
株式等譲渡所得割交付金	85,909	0.3	35,866	0.1	50,043	139.5
地方消費税交付金	1,220,143	4.5	1,149,419	4.3	70,724	6.2
ゴルフ場利用税交付金	1,551	0.0	1,516	0.0	35	2.3
自動車取得税交付金	49,884	0.2	38,150	0.1	11,734	30.8
地方特例交付金等	66,901	0.2	66,713	0.2	188	0.3
地方交付税	159,878	0.6	118,745	0.4	41,133	34.6
普通交付税	0	0.0	0	0.0	0	#DIV/0!
特別交付税	159,790	0.6	118,657	0.4	41,133	34.7
震災復興特別交付税	88	0.0	88	0.0	0	0.0
交通安全交付金	9,470	0.0	10,129	0.0	△ 659	△ 6.5
分担金負担金	382,887	1.4	319,477	1.2	63,410	19.8
使用料	475,474	1.7	542,800	2.0	△ 67,326	△ 12.4
手数料	123,264	0.5	120,288	0.4	2,976	2.5
国庫支出金	4,132,320	15.2	4,048,645	15.1	83,675	2.1
国有提供施設等所在市町村交付金	35,681	0.1	35,695	0.1	△ 14	0.0
県支出金	1,534,895	5.6	1,551,942	5.8	△ 17,047	△ 1.1
財産収入	222,267	0.8	47,817	0.2	174,450	364.8
寄附金	13,879	0.1	24,336	0.1	△ 10,457	△ 43.0
繰入金	577,426	2.1	605,580	2.3	△ 28,154	△ 4.6
繰越金	1,171,913	4.3	1,488,436	5.6	△ 316,523	△ 21.3
諸収入	247,071	0.9	253,159	0.9	△ 6,088	△ 2.4
地方債	1,976,400	7.2	1,579,300	5.9	397,100	25.1
合計	27,269,952	100.0	26,773,296	100.0	496,656	1.9



## 【歳入決算の推移】

平成29年度の市の歳入は、区画整理事業の進捗に伴う地方税（固定資産税）の増加や地方消費税交付金等の各種交付金の増加などにより、前年度から約4億9,665万6千円増加した約272億6,995万2千円となりました。



## 【自主財源と依存財源】

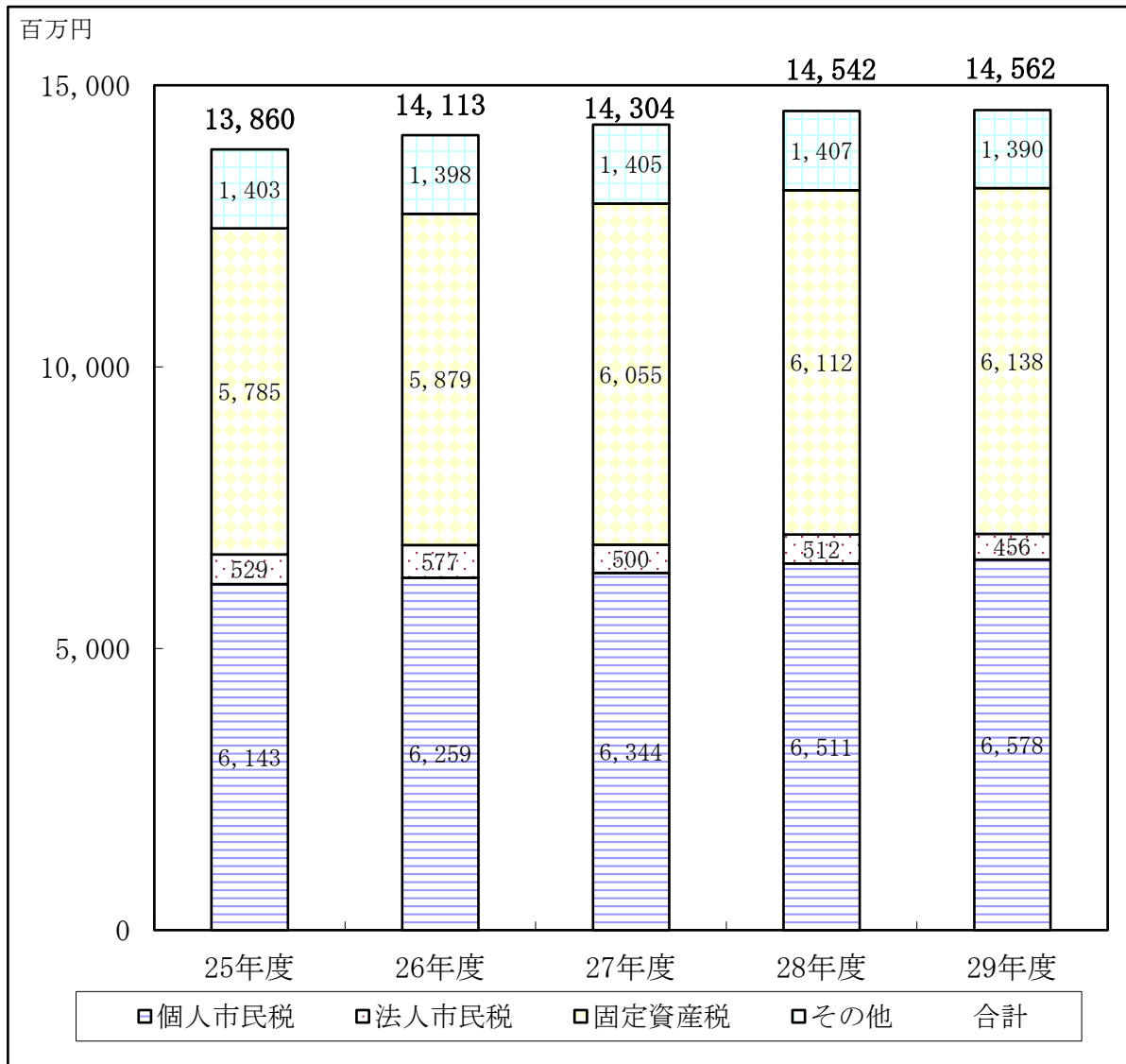
自主財源とは、市自らの権限で調達できる財源をいい、依存財源とは、収入の源泉を国や県などに依存している財源をいいます。歳入総額に対して自主財源が占める割合が高いほど、資金調達の面で財政運営の自主性と安定性が確保しやすいといえます。

自主財源	市税（地方税）	個人・法人市民税、固定資産税など
	使用料・手数料	証明書発行手数料や公民館などの使用料
	分担金・負担金	保育料など
	繰入金	各種基金から一般会計へ繰り入れた金額
	繰越金	前年度に余ったお金
	その他自主財源	財産貸付収入、市税延滞金、広報・ホームページ広告掲載料など
依存財源	国県支出金	法令等に基づき国や県から交付される補助金など
	市債（地方債）	国や銀行などから借入れたお金
	その他依存財源	国や県が徴収した税金の一部が市に交付されるもの（地方交付税、地方譲与税、地方消費税交付金など）

【市税収入の推移】

市税収入は、個人市民税、法人市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税及び都市計画税があり、和光市では個人市民税と固定資産税が市税収入の柱となります。

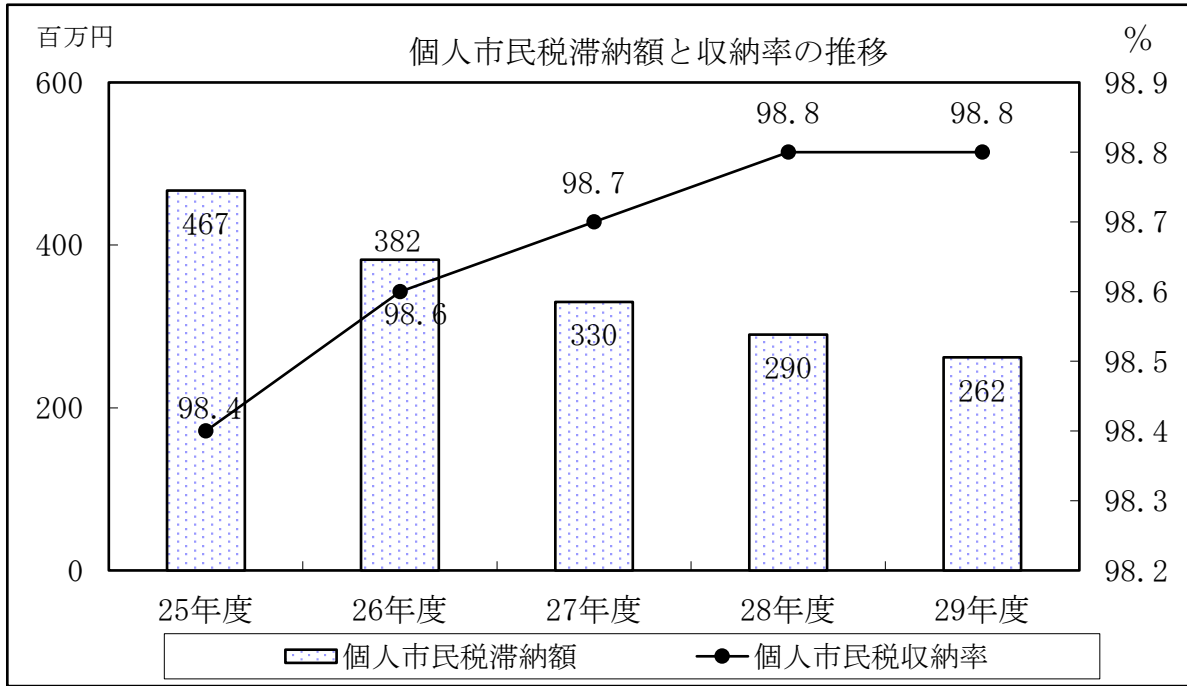
歳入全体の5割以上を占める市税収入は、緩やかな景気の回復等に伴う個人市民税等の増加により、平成24年度から増加しており、平成29年度は前年度から約2,000万円増加した約145億6,200万円となりました。



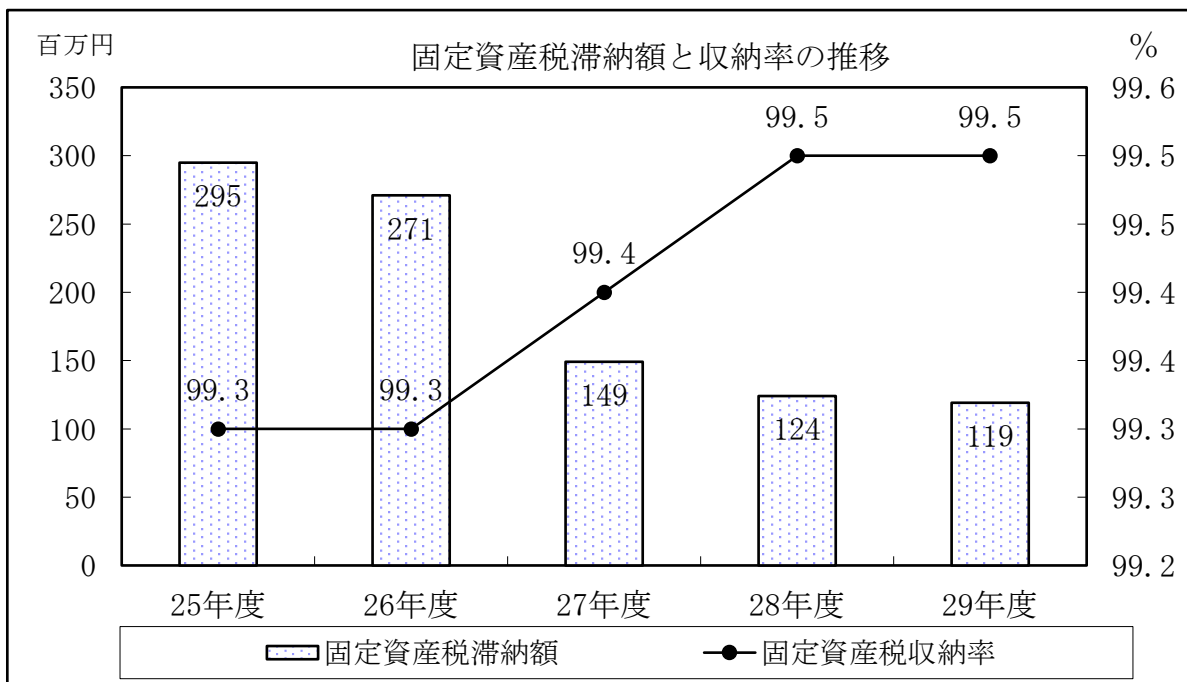
※その他は、軽自動車税とたばこ税、都市計画税です。

【主な歳入である個人市民税と固定資産税の滞納額と収納率の推移】

納税サポートセンターの開設や収納強化策が功を奏し、滞納額が減少するとともに、収納率は上昇しています。



※滞納額は現年度課税分と滞納繰越分の合計額のうち平成30年度に繰り越した金額。  
 ※収納率は現年課税分の収納率。

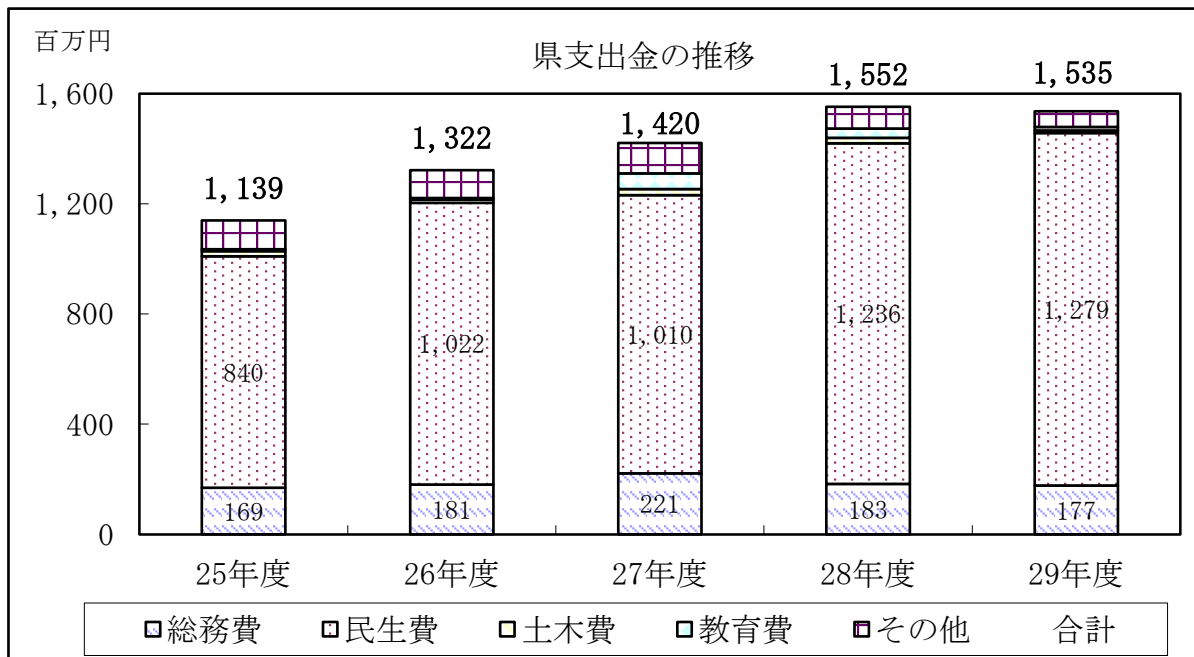
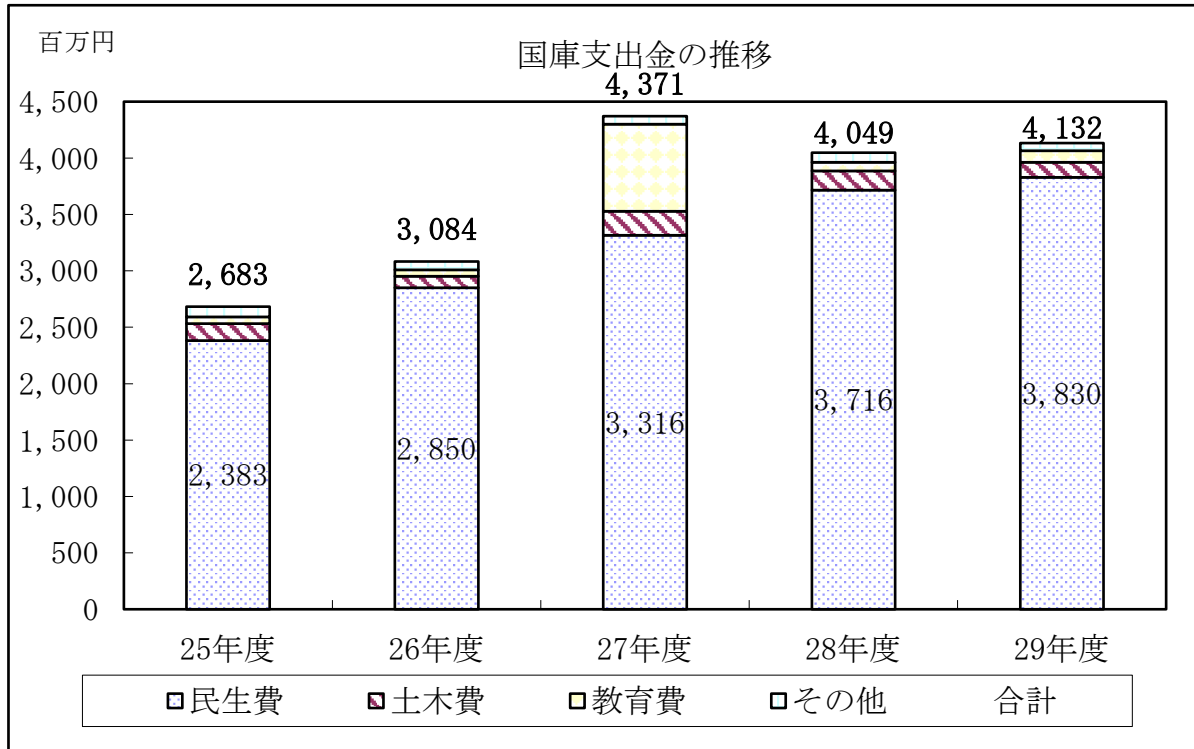


※滞納額は現年度課税分と滞納繰越分の合計額のうち平成30年度に繰り越した金額。  
 ※収納率は現年課税分の収納率。

【国庫・県支出金の内訳】

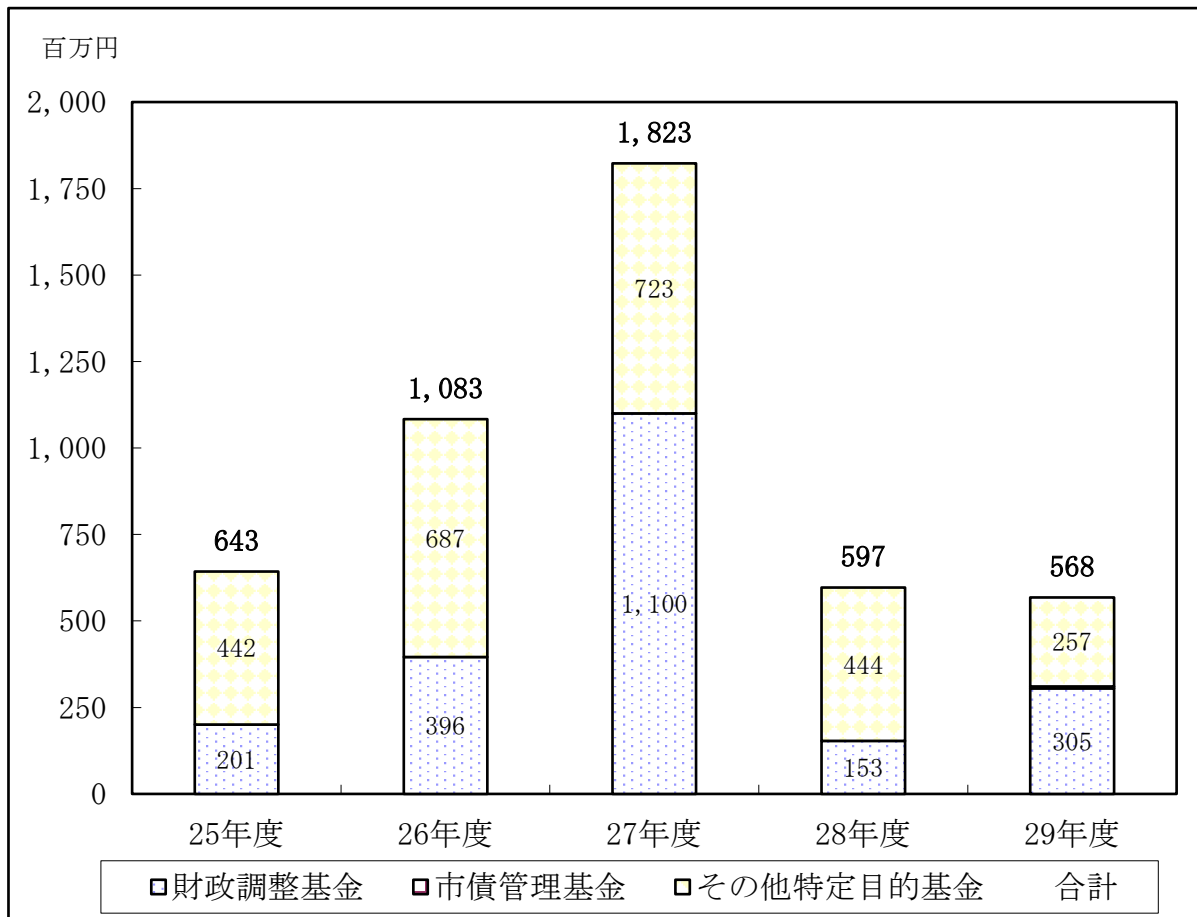
平成29年度の国庫支出金は約41億3,200万円、県支出金は約15億3,500万円となっており、そのほとんどが民生費に係るものとなっています。

平成29年度は、国庫支出金が前年度から約1億1,900万円増加したものの、県支出金は約1,700万円の減少となりました。



【基金繰入金の推移】

平成29年度の基金繰入金は、前年度から約2,900万円減少した約5億6,800万円となりました。基金の現在高については50ページを参照してください。

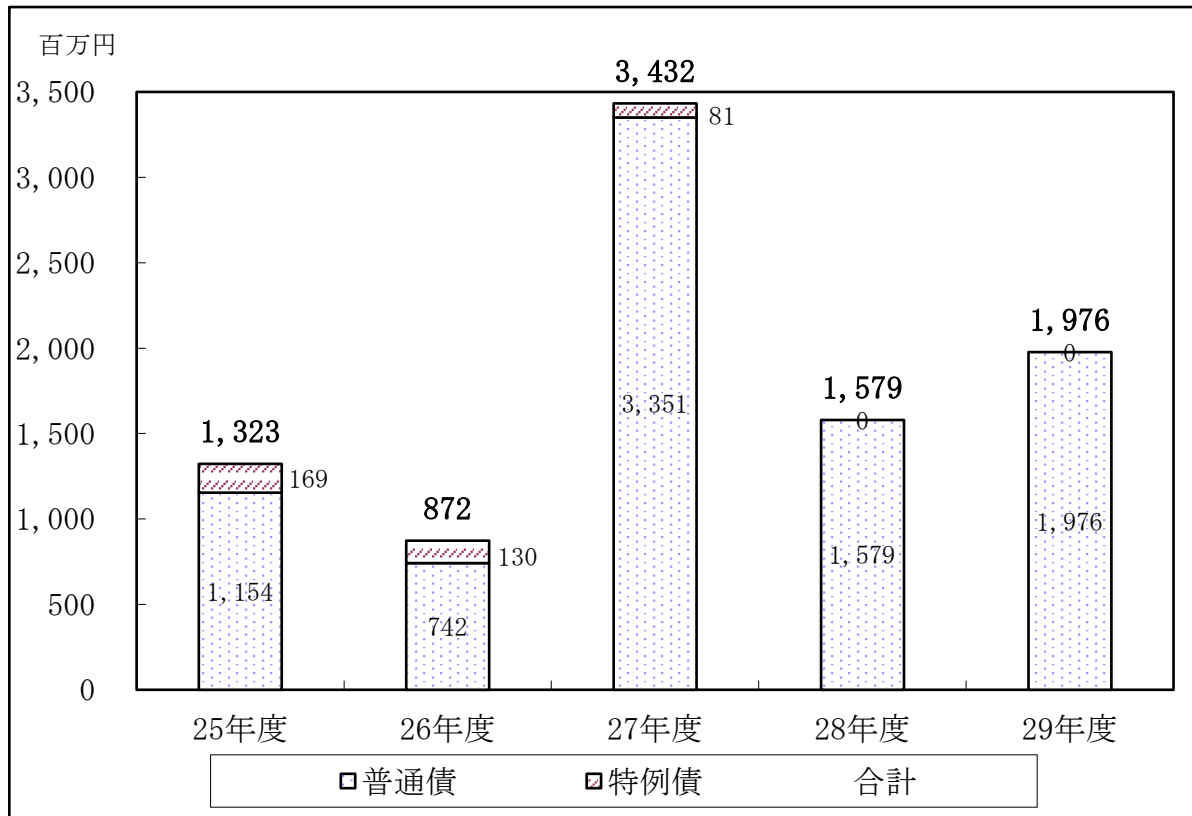


※家計に例えると、基金は貯金に該当し、基金繰入金は貯金を取崩した資金ということになります。

基金には、経済不況などにより大幅な税収減が生じたり、災害発生等により思わぬ支出の増加を余儀なくされた場合に、安定的な財政運営ができるように積み立てておく財政調整基金や公共施設の建設など特定の目的のために資金を積み立てておく特定目的基金があります。

## 【市債発行額の推移】

平成29年度の市債発行額は、前年度から約3億9,700万円増加した約19億7,600万円となりました。市債発行額が増加した主な理由は、駅北口地区土地区画整理事業費の増加に伴う市債発行額が増加したためです。  
市債の現在高については51ページを参照してください。



※市債とは、市が財源を調達するために行う借金であり、その返済が一会計年度（4月1日から3月31日）を超えて行われるものをいいます。公共施設の建設や道路の工事には一時的に多額のお金が必要になります。これをその年の収入だけで賄ってしまうと、財源不足のため他の行政サービスを削減しなければならなくなります。また、公共施設等は、現在の市民だけでなく、将来の市民も利用するものであるため、負担の公平性を図る観点からも市債を活用し、世代間の公平を図っています。

市債には、普通債と特例債があり、普通債は学校建設や道路工事など市の施設整備のために借入れる資金で、特例債は臨時財政対策債・減税補てん債・臨時税収補てん債・減収補てん債の総称が特例地方債で、市の全般的な運営に使う資金です。

□ 歳出決算の状況

【目的別歳出決算】

支出を行政の目的別に分類したものを「目的別歳出」といいます。目的別の分類は次ページの表で確認できます。

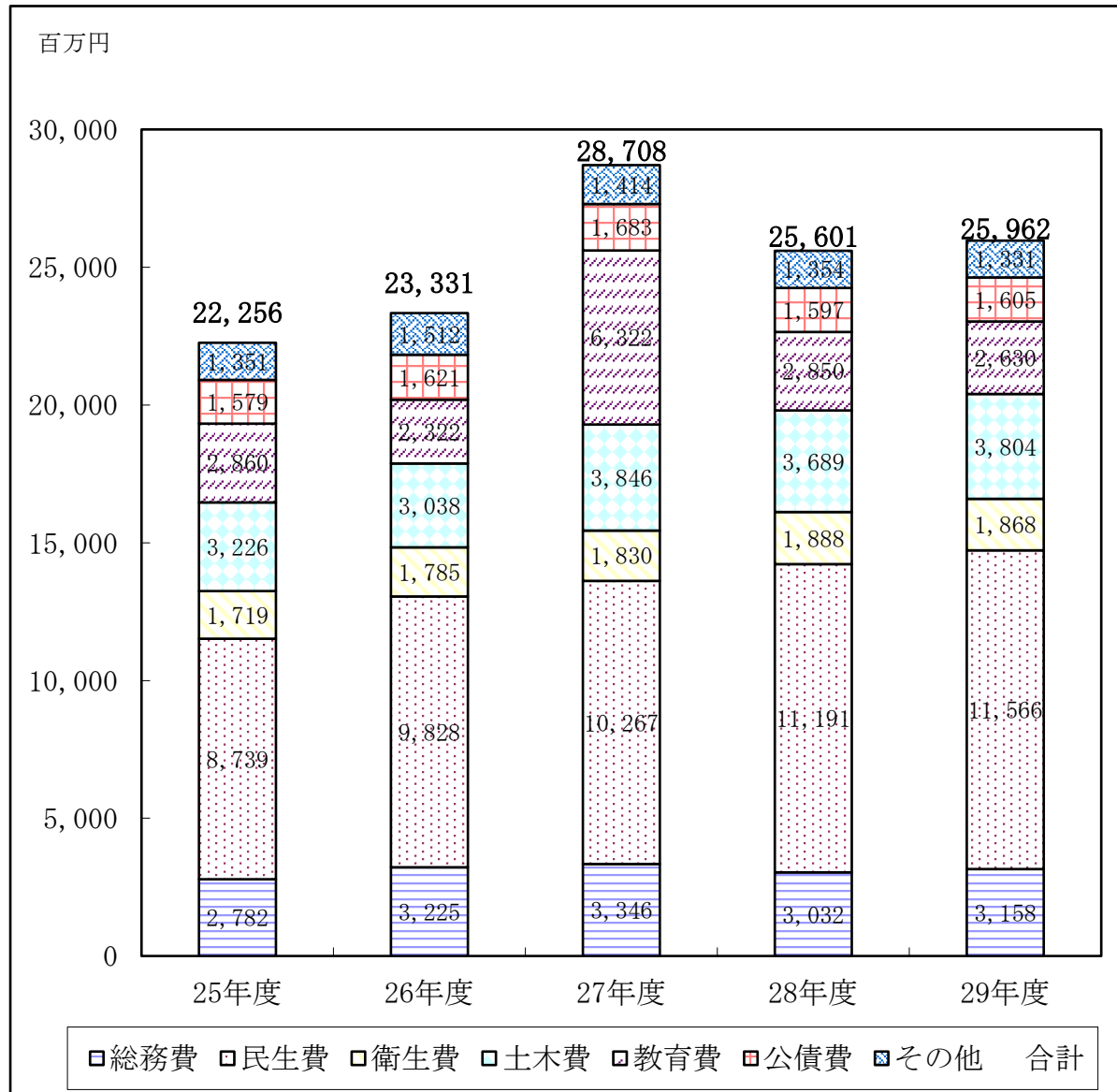
平成29年度の歳出決算額は、庁舎防災拠点整備工事費の増加や各区画整理事業費の増加などに伴い、前年度から3億6,015万4千円増加した259億6,153万7千円となりました。

(単位：千円)

	平成29年度	構成比 (%)	平成28年度	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)
議 会 費	211,029	0.8	210,333	0.8	696	0.3
総 務 費	3,158,312	12.2	3,031,515	11.9	126,797	4.2
民 生 費	11,566,017	44.6	11,191,449	43.7	374,568	3.3
衛 生 費	1,868,444	7.2	1,888,462	7.4	△ 20,018	△ 1.1
労 働 費	61,330	0.2	60,811	0.3	519	0.9
農 林 水 産 業 費	48,443	0.2	52,185	0.2	△ 3,742	△ 7.2
商 工 費	70,591	0.3	75,116	0.3	△ 4,525	△ 6.0
土 木 費	3,804,420	14.7	3,689,362	14.4	115,058	3.1
消 防 費	937,753	3.6	955,648	3.7	△ 17,895	△ 1.9
教 育 費	2,630,270	10.1	2,849,514	11.1	△ 219,244	△ 7.7
災 害 復 旧 費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
公 債 費	1,604,928	6.2	1,596,988	6.2	7,940	0.5
諸 支 出 金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
前年度繰上充用金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	25,961,537	100.0	25,601,383	100.0	360,154	1.4

【目的別歳出決算の推移】

目的別歳出決算の推移を見ると、建設工事や国の施策により各年度ばらつきがありますが、民生費は社会福祉費や児童福祉費の増加などにより、全体の約4割を占める大きな歳出となっています。



目的別分類	経費
総務費	庁舎管理、戸籍、税金の賦課徴収などに要する経費
民生費	保育園の運営費、お年寄りや障害のある人への福祉などに要する経費
衛生費	予防接種実施に係る費用やごみ処理施設の維持管理などに要する経費
土木費	道路や公園の整備や維持管理、都市計画などに要する経費
教育費	小・中学校、公民館、図書館の整備・維持管理などに要する経費
公債費	借金の元金返済及び利子の支払
その他	議会費、消防費、商工費などに要する経費



【性質別歳出決算】

支出をその経済的性質により分類したものを「性質別歳出」といいます。下の表のように分類されます。

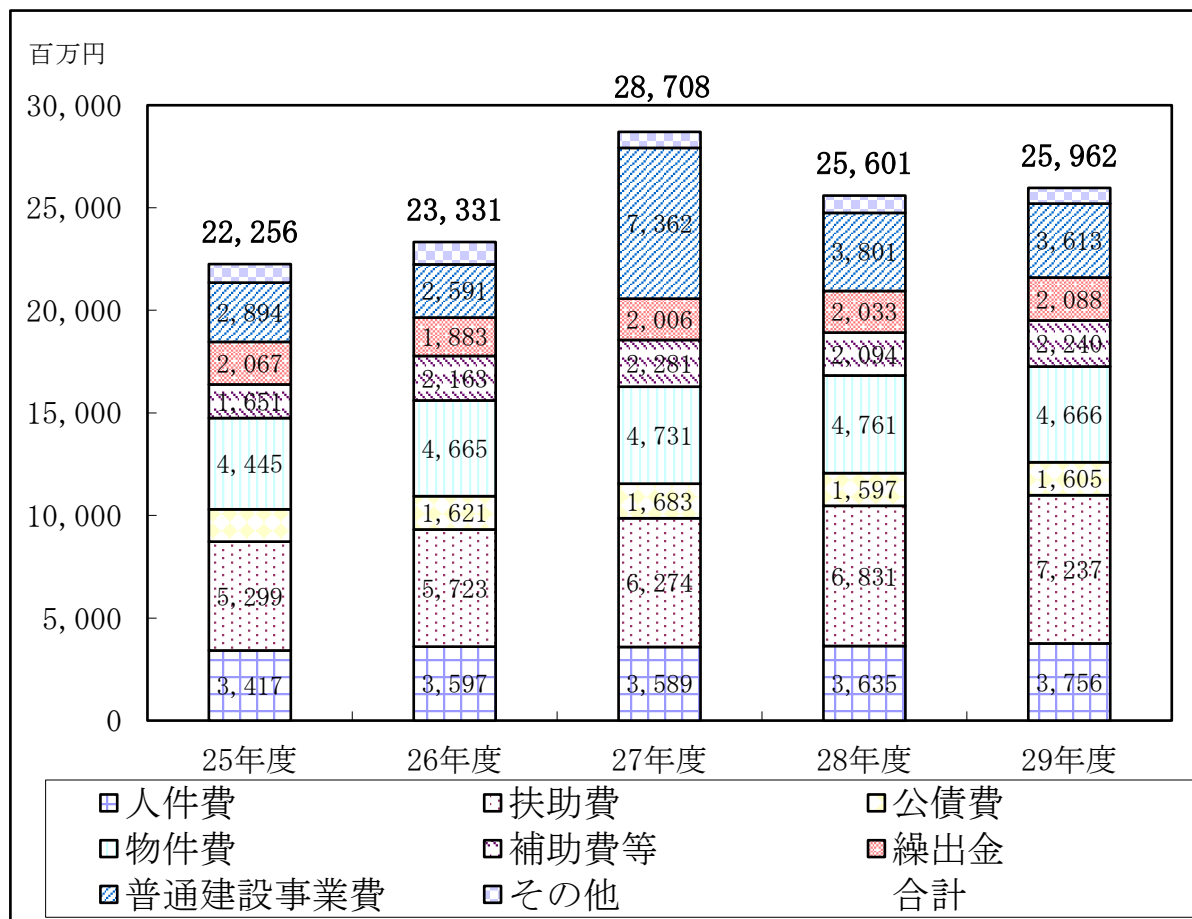
平成29年度は普通建設事業費が減少していますが、これは前年度に上谷津公園用地を取得したことや中央第二谷中及び和光北インター地域土地区画整理事業費の減少などに伴うものです。また、扶助費については、障害者福祉サービス費の通増のほか、民間保育園運営委託料や小規模保育事業所負担金などの子育てサービスの充実により、年々増加しています。

(単位：千円)

	平成29年度	構成比 (%)	平成28年度	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)
人件費	3,756,259	14.5	3,635,445	14.2	120,814	3.3
うち職員給	2,351,706	9.1	2,257,242	8.8	94,464	4.2
扶助費	7,236,789	27.9	6,831,331	26.7	405,458	5.9
公債費	1,604,928	6.2	1,596,988	6.3	7,940	0.5
元利償還金	1,604,868	6.3	1,596,988	6.2	7,880	0.5
一時借入金利子	60	0.0	0	0.0	60	0.0
物件費	4,665,753	18.0	4,760,983	18.6	△ 95,230	△ 2.0
維持補修費	88,567	0.3	78,278	0.3	10,289	13.1
補助費等	2,240,451	8.6	2,094,266	8.2	146,185	7.0
積立金	668,170	2.6	770,427	3.0	△ 102,257	△ 13.3
投資及び出資金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
貸付金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰出金	2,087,517	8.0	2,033,115	7.9	54,402	2.7
前年度繰上充用金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
普通建設事業費	3,613,103	13.9	3,800,550	14.8	△ 187,447	△ 4.9
補助	759,285	2.9	927,272	3.6	△ 167,987	△ 18.1
単独	2,853,818	11.0	2,873,278	11.2	△ 19,460	△ 0.7
県営事業負担金		0.0		0.0	0	0.0
災害復旧事業費		0.0		0.0	0	0.0
失業対策事業費		0.0		0.0	0	0.0
合計	25,961,537	100.0	25,601,383	100.0	360,154	1.4

【性質別歳出決算の推移】

性質別歳出決算の推移をみると、普通建設事業費は前年度に上谷津公園用地を取得したことや中央第二谷中及び和光北インター地域土地区画整理事業費の減少などに伴い、前年度より減少しています。一方で扶助費は、障害者福祉サービス費の通増のほか、民間保育園運営委託料や小規模保育事業所負担金などの子育てサービスの充実により、年々増加しています。



性質別分類	義務的経費	人件費	市職員の給与、市長・市議会議員の報酬等
		扶助費	生活保護や児童対策などの社会保障に要する経費
		公債費	借金の元金返済及び利子の支払
	その他の経費	物件費	委託料、賃金、需用費（消耗品費、光熱水費など）等
		補助費等	市民団体などへの補助金、報償費（講師への謝礼など）等
		繰出金	特別会計に支出する経費
		その他	維持補修費、基金への積立、投資・出資金・貸付金
	投資的経費	普通建設事業費	道路の新設・改良などの建設事業に要する経費

※義務的経費：法令の規定などにより支出が義務付けられ、任意に削減できない経費

※投資的経費：施設の建設など資本形成の効果が長期間にわたり持続する経費

【目的・性質別の分析】

次の表はそれぞれの目的別の科目に対して性質別の経費がどのくらい支出したかを示しています。また、その財源内訳や支出内容が経常的又は臨時的な支出であるのかがわかります。

(単位：千円)

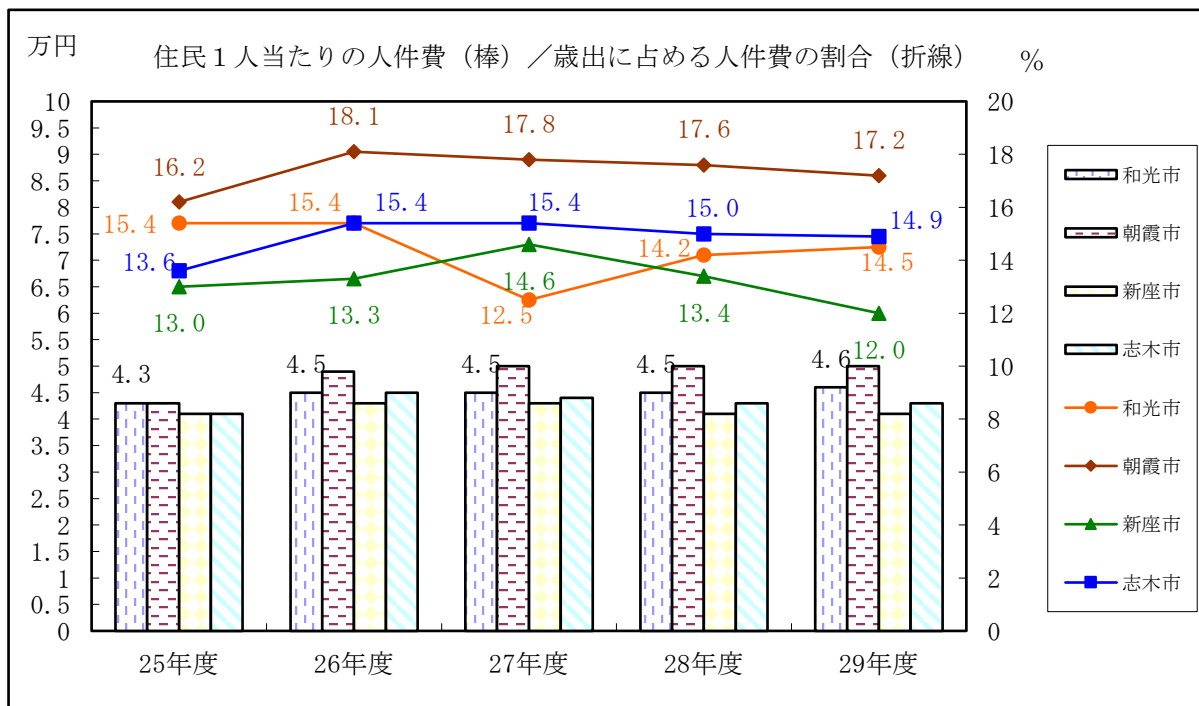
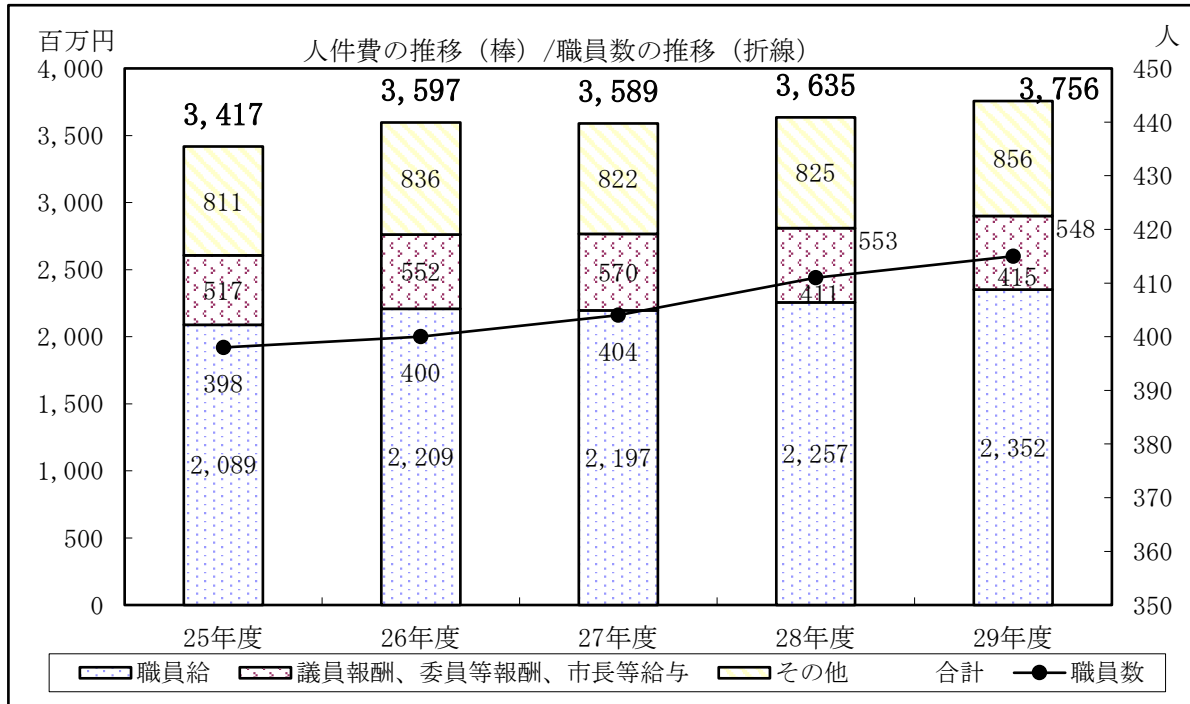
目的別	性質別 人件費	扶助費	公債費	物件費	維持 補修費	補助費 等	積立金	繰出金	普通 建設 事業費	投資 及び 出資 金	合計	左の財源	
												特定 財源	一般 財源
議会費	193,166			14,180		3,683					211,029		211,029
総務費	1,484,002			854,849	5,664	125,859	567,928		120,010		3,158,312	305,495	2,852,817
民生費	868,624	6,787,704		1,085,465	8,470	487,421		2,087,517	240,816		11,566,017	5,834,474	5,731,543
衛生費	118,412	332,788		1,223,668	294	65,731			127,551		1,868,444	266,564	1,601,880
労働費				58,976	895	245			1,214		61,330		61,330
農林 水産業費	38,168			5,814	347	4,114					48,443	8,065	40,378
商工費	41,856			7,340		21,395					70,591	3,446	67,145
土木費	352,600			370,080	15,859	456,267	100,165		2,509,449		3,804,420	2,116,155	1,688,265
消防費	15,584			31,977	1,630	868,480			20,082		937,753	10,112	927,641
教育費	643,847	116,297		1,013,404	55,408	207,256	77		593,981		2,630,270	511,026	2,119,244
災害 復旧費													
公債費			1,604,928								1,604,928	6,020	1,598,908
諸支出金													
合計	3,756,259	7,236,789	1,604,928	4,665,753	88,567	2,240,451	668,170	2,087,517	3,613,103		25,961,537	9,061,357	16,900,180
経費 区分	経常	3,738,401	7,113,819	1,604,928	4,495,622	88,567	1,684,542		1,315,489		20,041,368	5,728,715	14,312,653
	臨時	17,858	122,970		170,131		555,909	668,170	772,028	3,613,103	5,920,169	3,332,642	2,587,527

① 性質別歳出項目ごとの推移

【人件費】

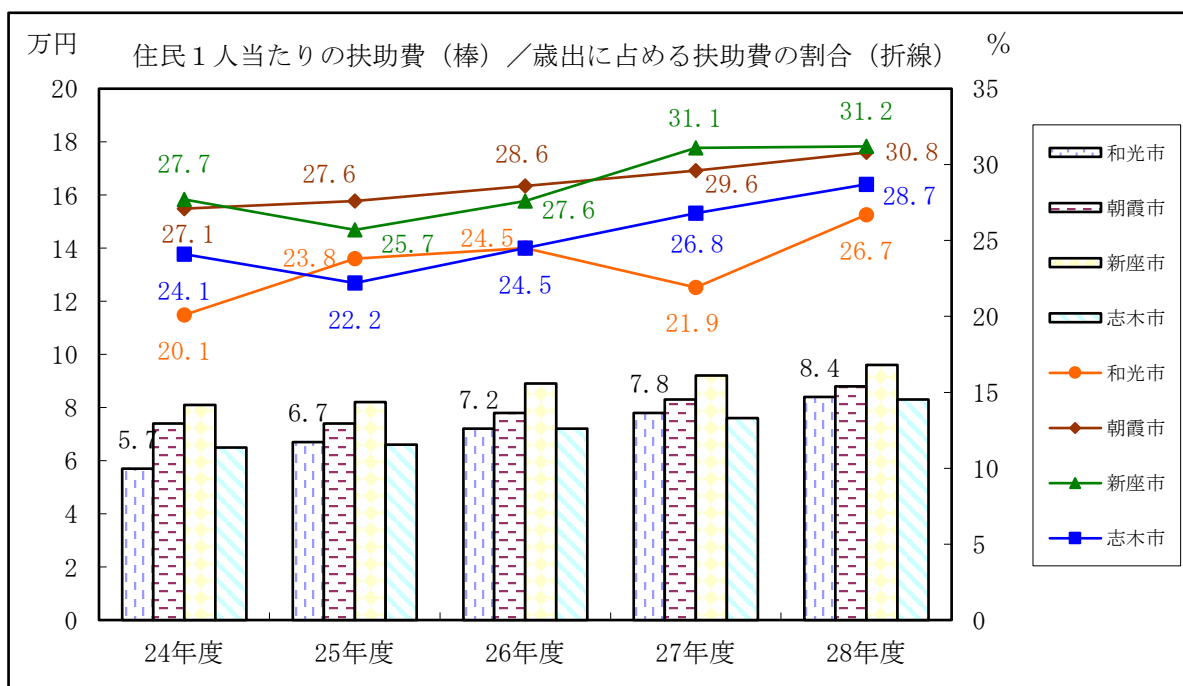
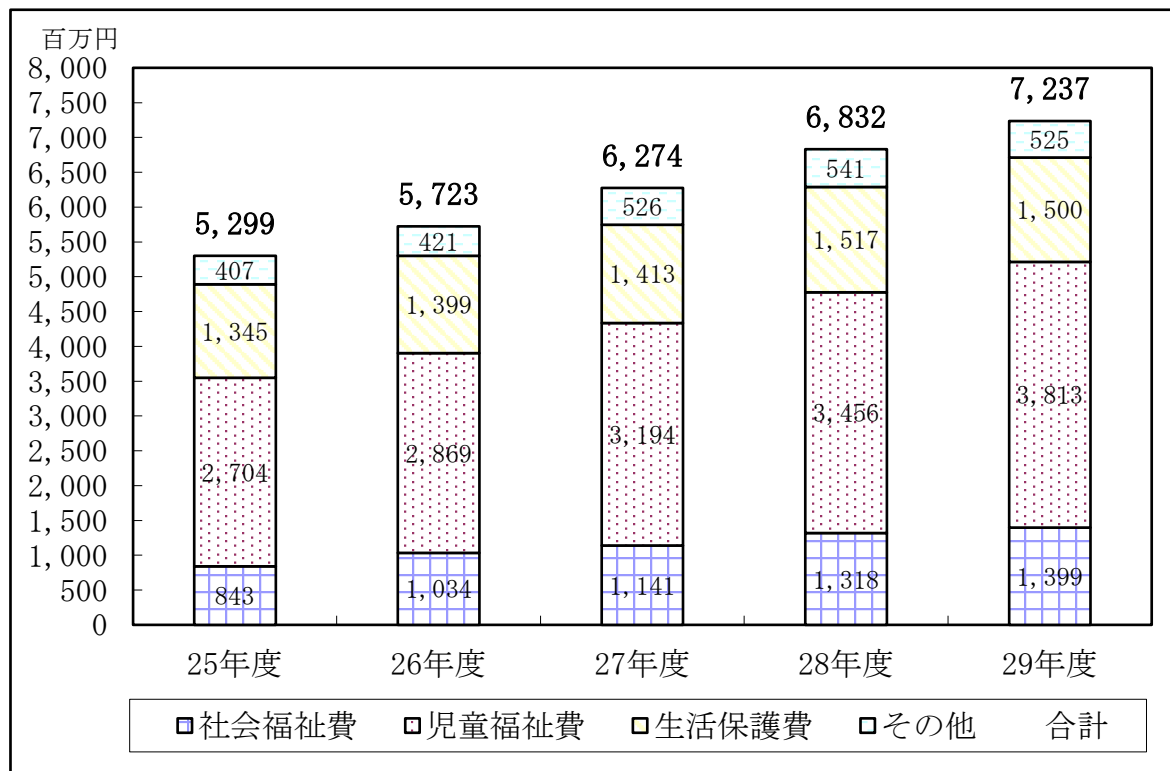
平成29年度の人件費は、前年度から約1億2,100万円増加した約37億5,600万円となりました。

平成29年度は退職手当負担金等が減少したものの、職員給与の改正に伴い増加しています。

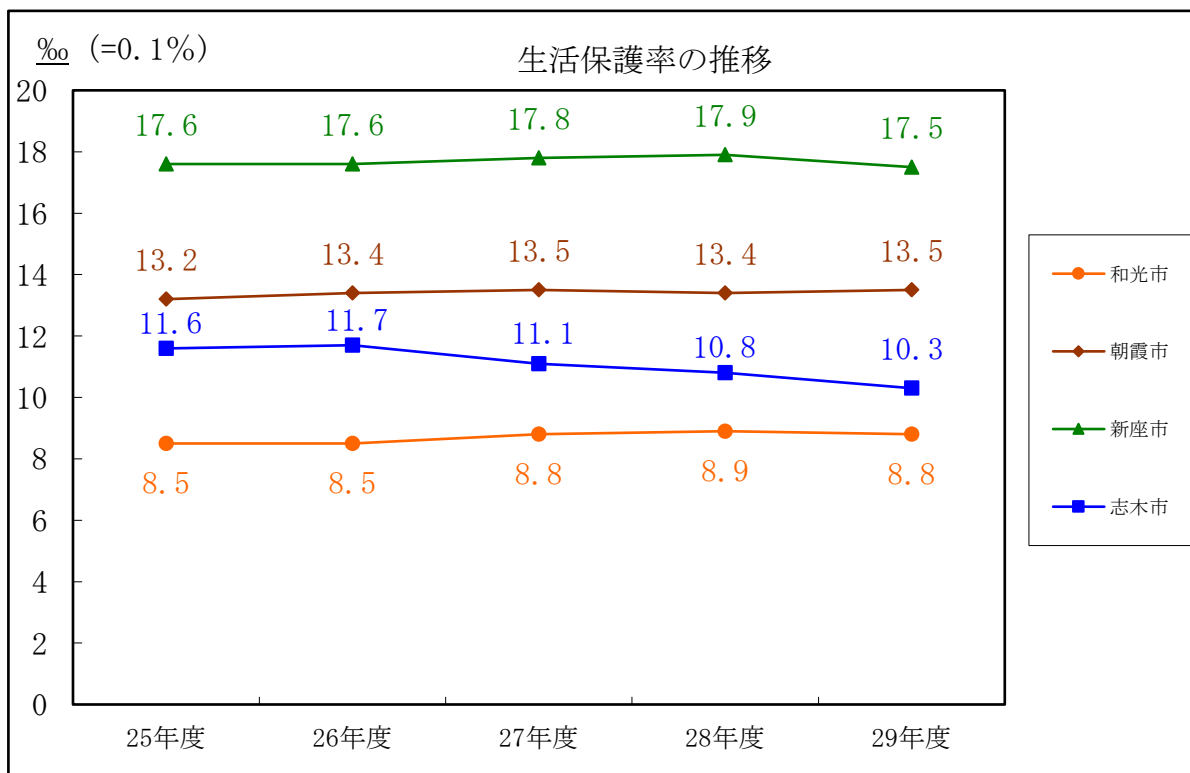


## 【扶助費】

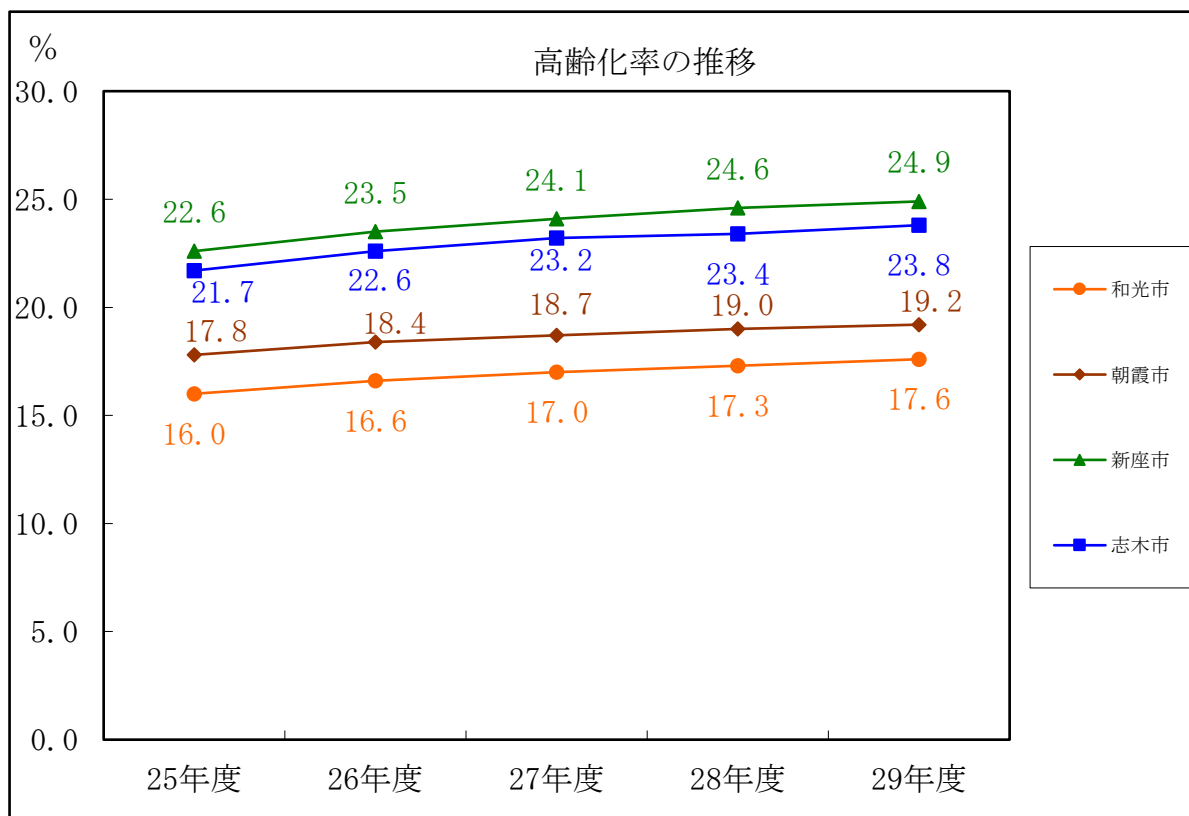
平成29年度の扶助費は、前年度から約4億500万円増加した約72億3,700万円となりました。障害者福祉サービス費（介護給付費・訓練等給付費等）や民間保育園運営の委託料などが増加しています。



生活保護率及び高齢化率について、和光市は近隣3市と比較しても低い数値となっていますが、全体的に増加傾向にあります。



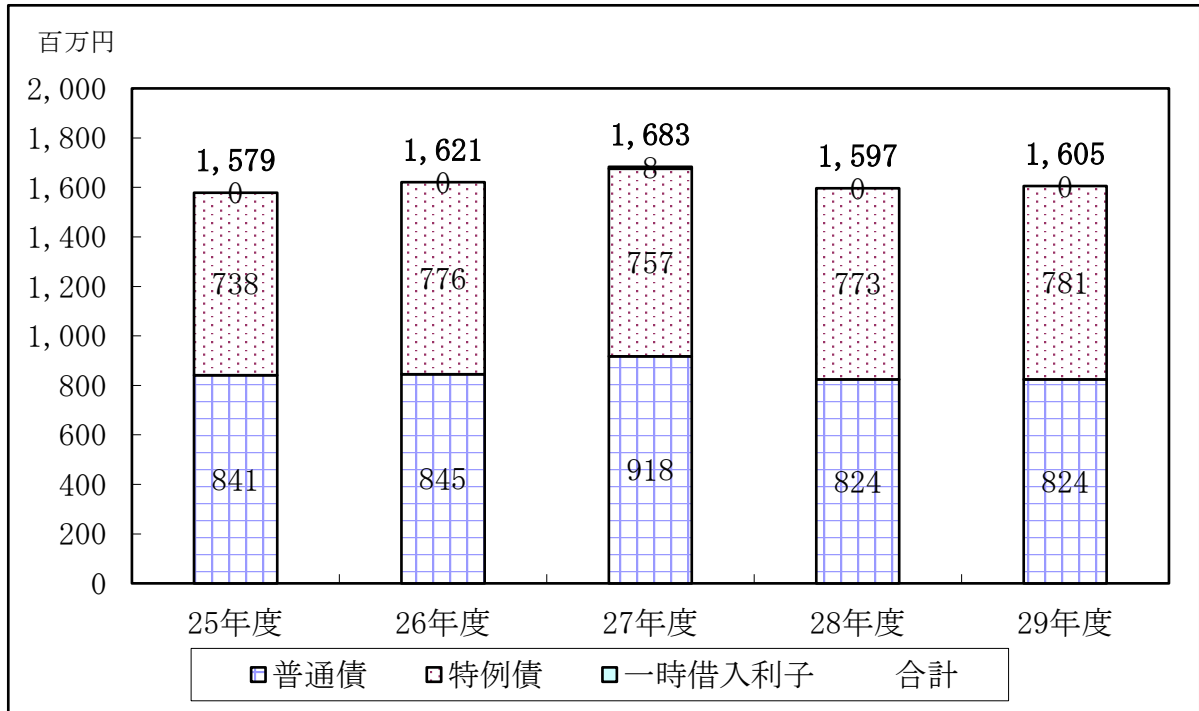
※平成29年度の数値は、平成29年12月時点の速報値です。



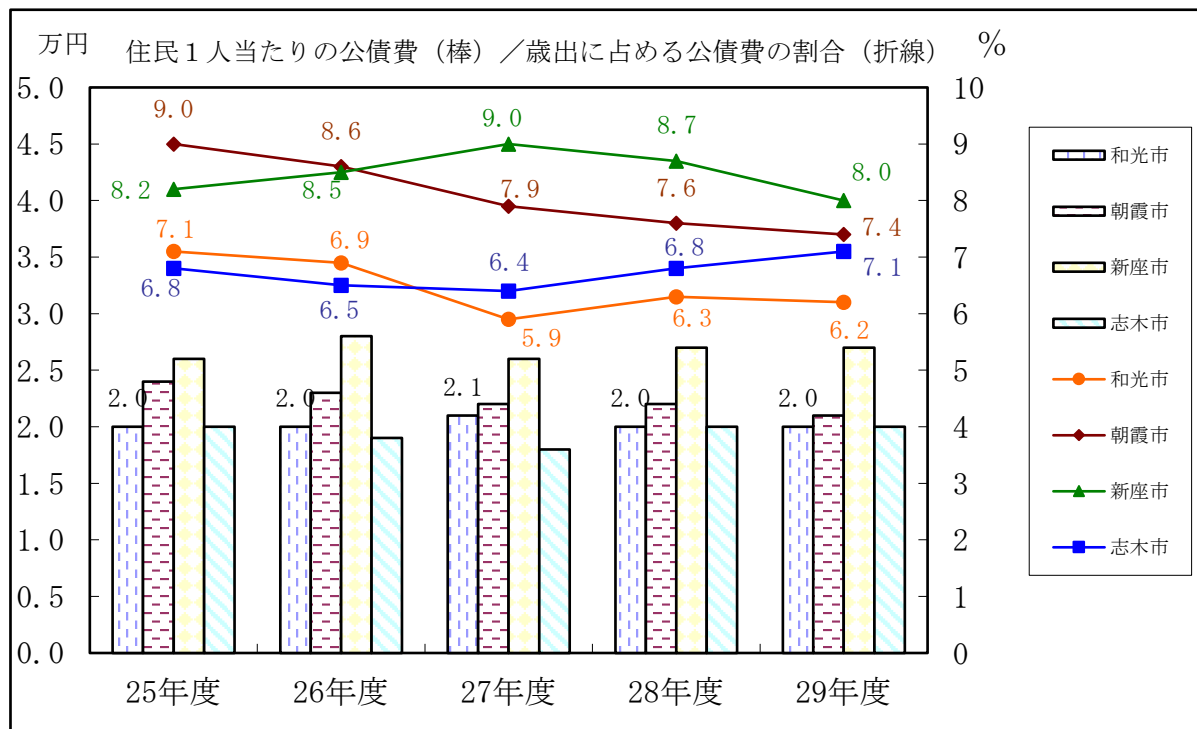
※平成29年度の数値は、平成30年1月時点の速報値です。

## 【公債費】

平成29年度の公債費は、前年度から約800万円増加した約16億500万円となりました。平成30年度以降は、下新倉小学校建設に伴い発行した市債の返済などが開始されるため、増加する見込みとなっています。



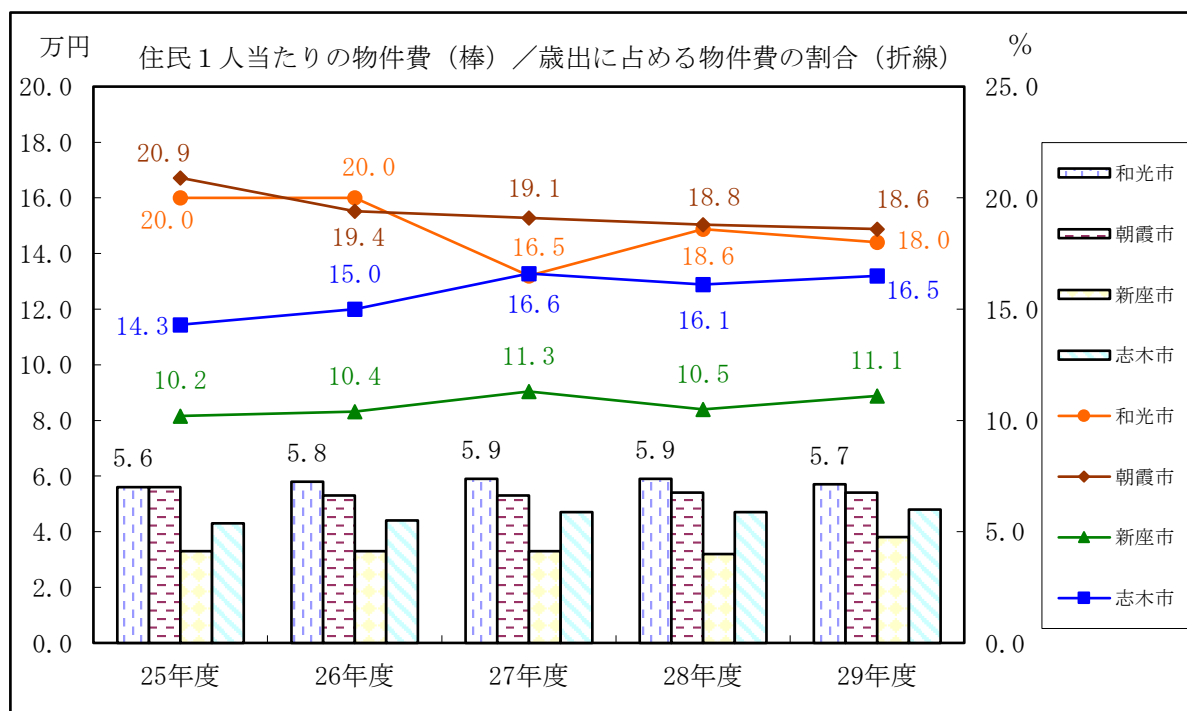
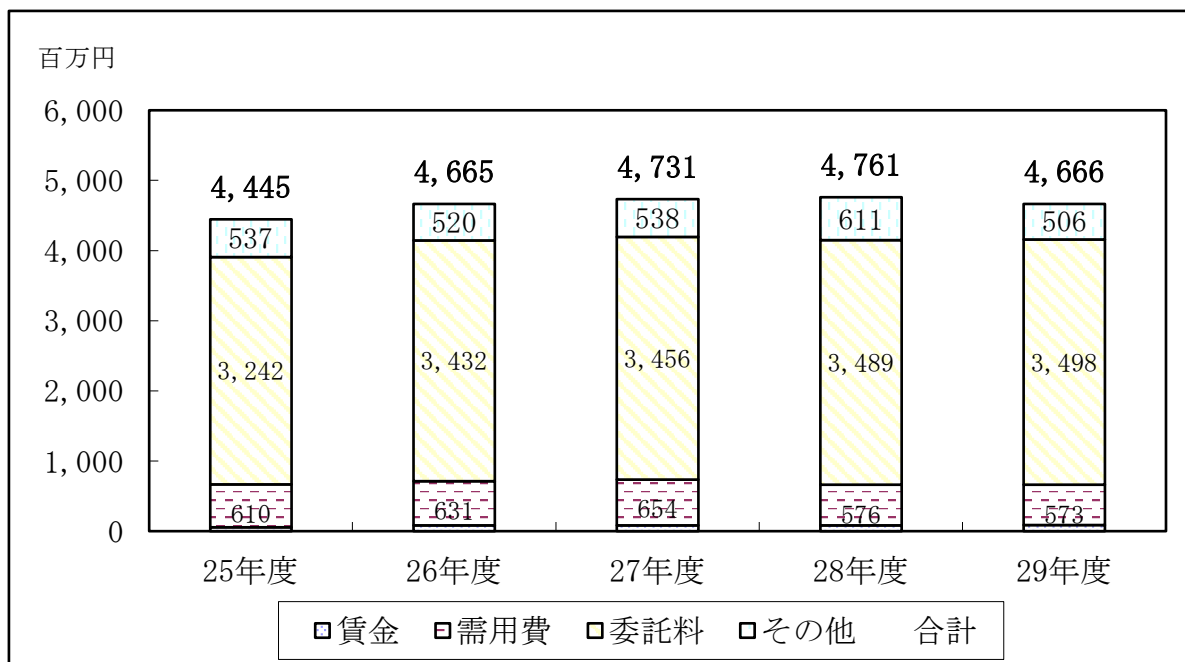
※一時借入金とは、一会計年度内において現金が不足した場合に、その不足を補うために借り入れるものです。



## 【物件費】

平成29年度の物件費は、前年度から約9,500万円減少した約46億6,600万円となりました。近隣3市と比較すると和光市の物件費の割合は高い状況にあり、そのほとんどを委託料が占めています。

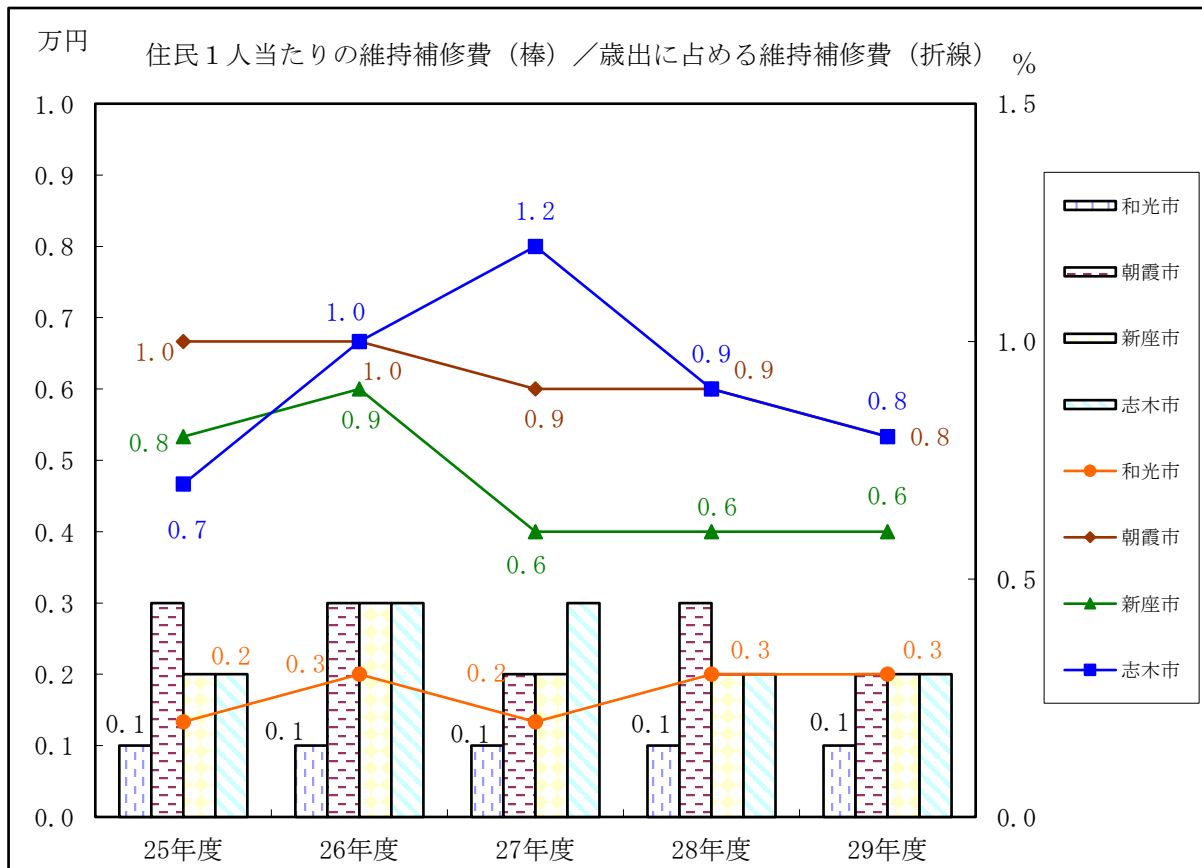
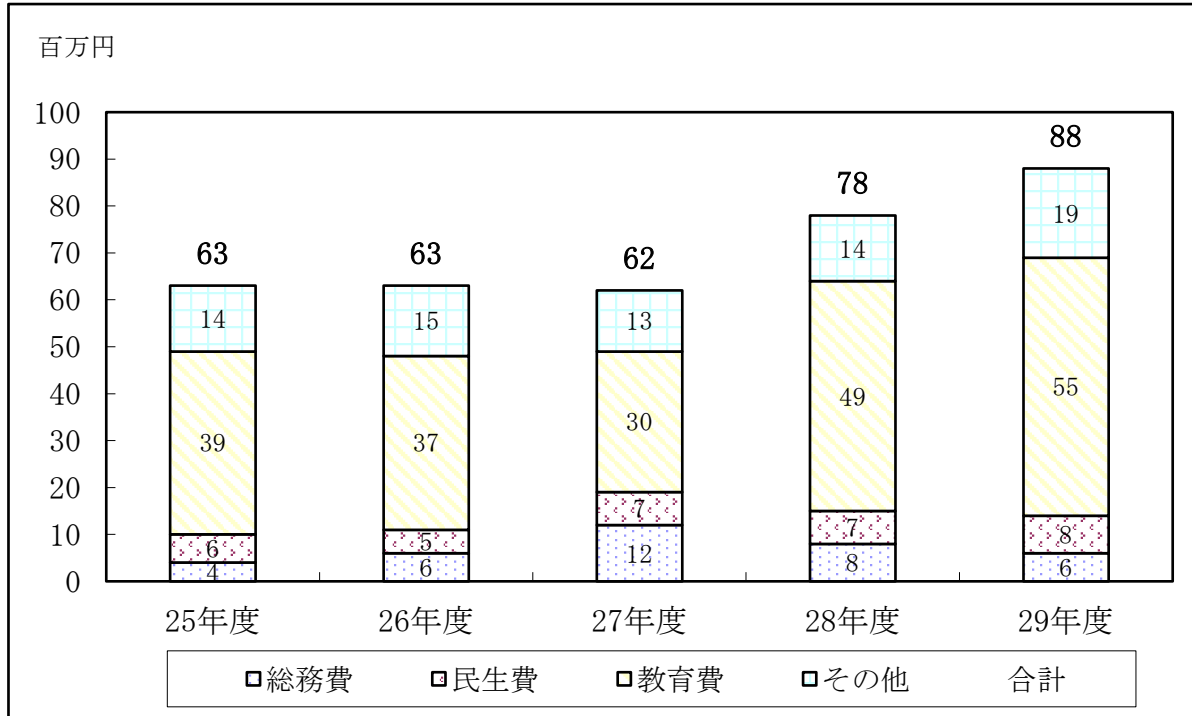
主な委託施設としては、清掃センター、保育園、市民文化センターなどです。詳細は、27ページの主要施設にかかる管理費等の表にまとめられています。





## 【維持補修費】

維持補修費とは、公共施設等の工事概念に含まれない小規模な修繕のための費用で、平成29年度は前年度から約1,000万円増加しています。

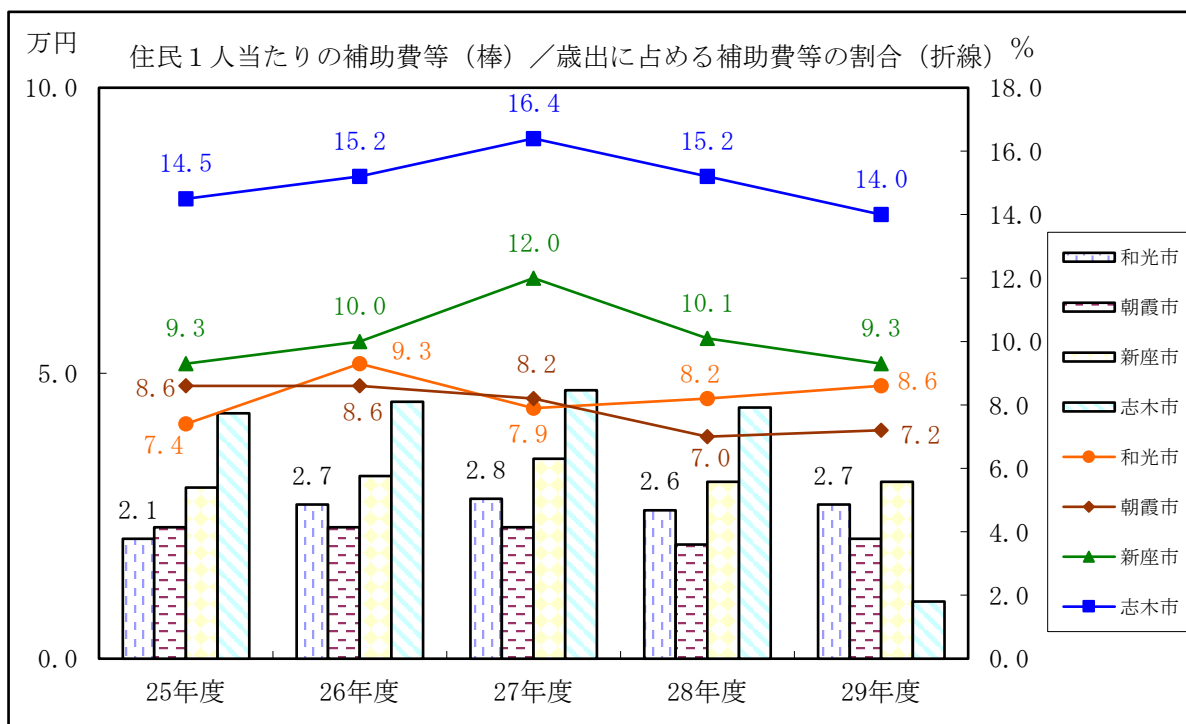
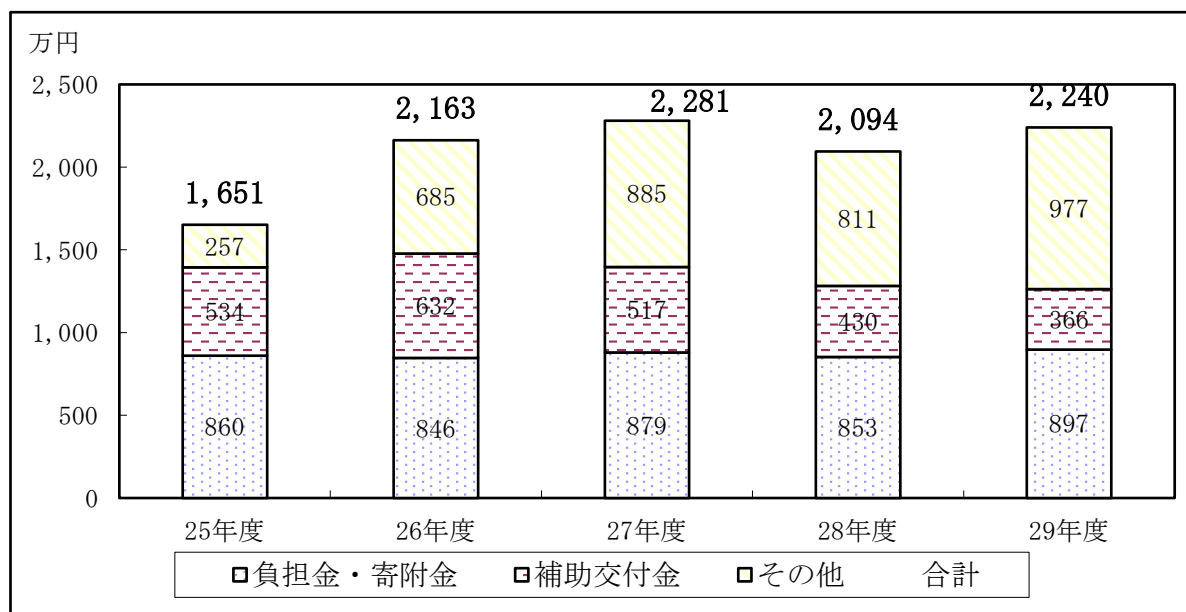


## 【補助費等】

平成29年度の補助費等は、前年度から約1億4,619万円増加した約22億4,045万円となりました。主な増加理由は、旧消防庁舎解体費用負担金や民設送迎保育ステーション事業補助金の増加などによるものです。

負担金では、朝霞地区一部事務組合に対する負担金が多くを占めており、その内容は消防活動、し尿処理、障害者支援施設などです。補助交付金は、市民や団体への補助金で、私立幼稚園に通う保護者への補助金、民間保育園への補助金などです。その他は、市税過誤納還付金や講演会の講師や医師への謝礼などです。

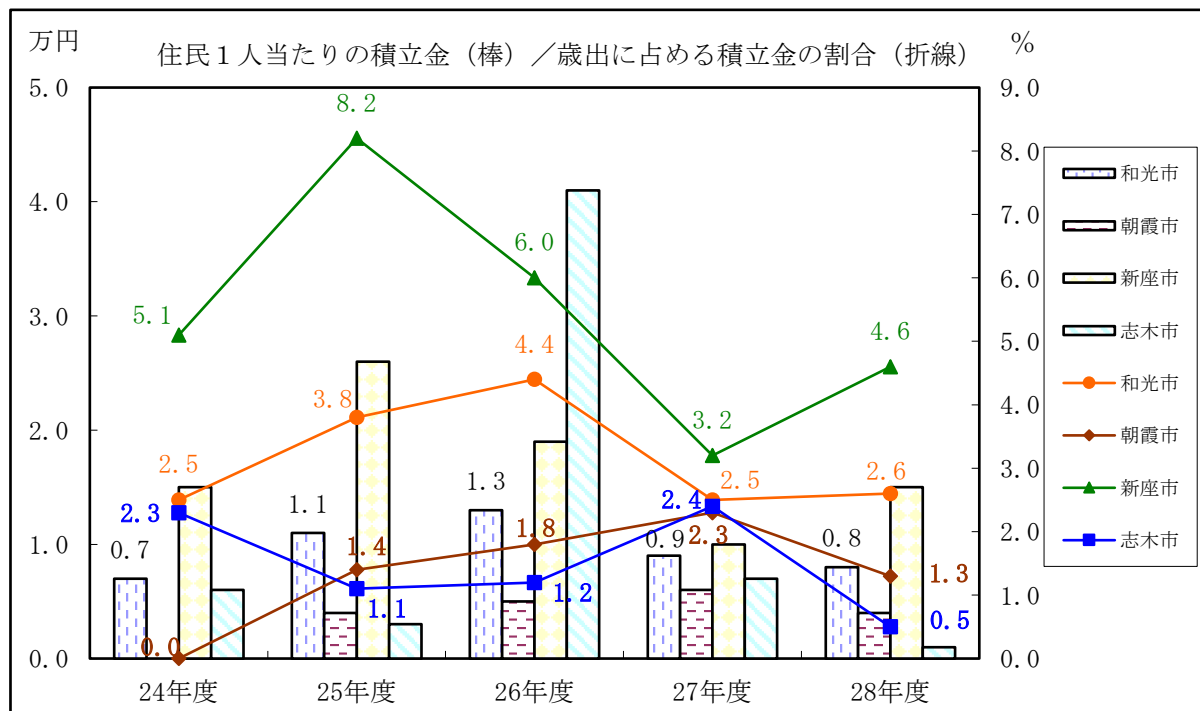
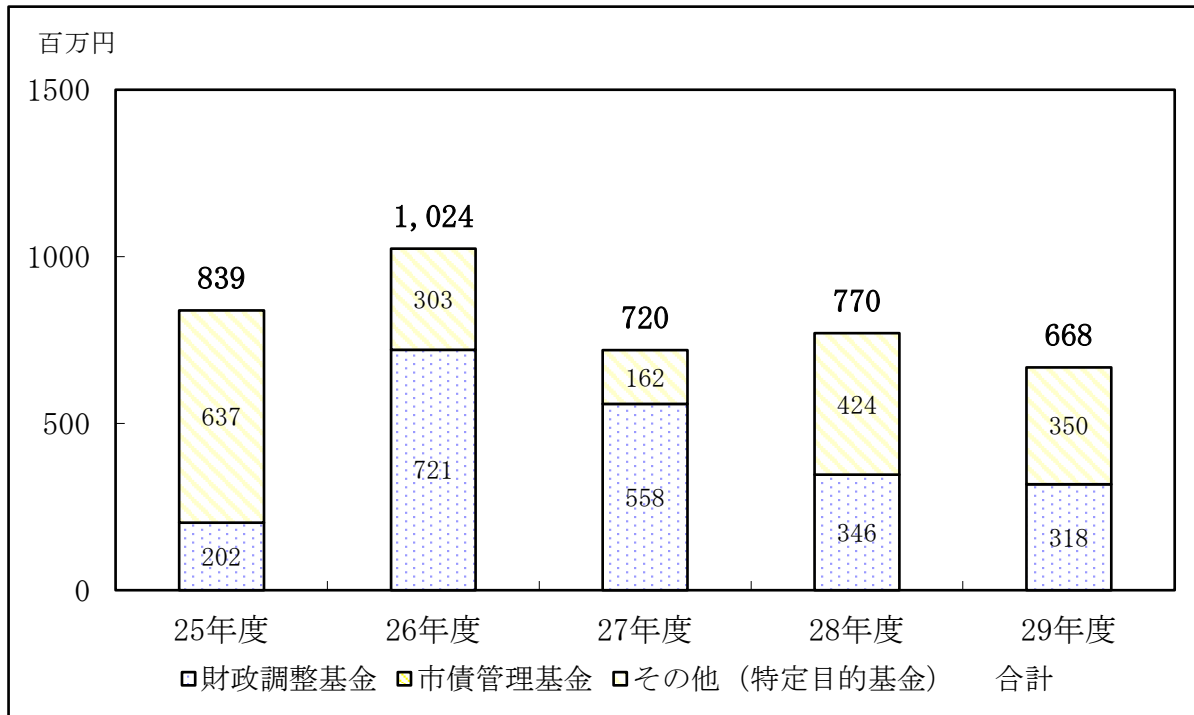
なお、平成26年度から、下水道事業特別会計は地方公営企業法が適用（企業会計化）となり、これまで繰出金に計上していたものを補助費等で整理しています。



## 【積立金】

平成29年度の積立金は、前年度から約1億200万円減少した約6億6,800万円となりました。

和光市には財政調整基金のほかに7つの特定目的基金がありますが、その時々状況に合わせて基金に積立をしています。各基金残高の状況については50ページを参照してください。

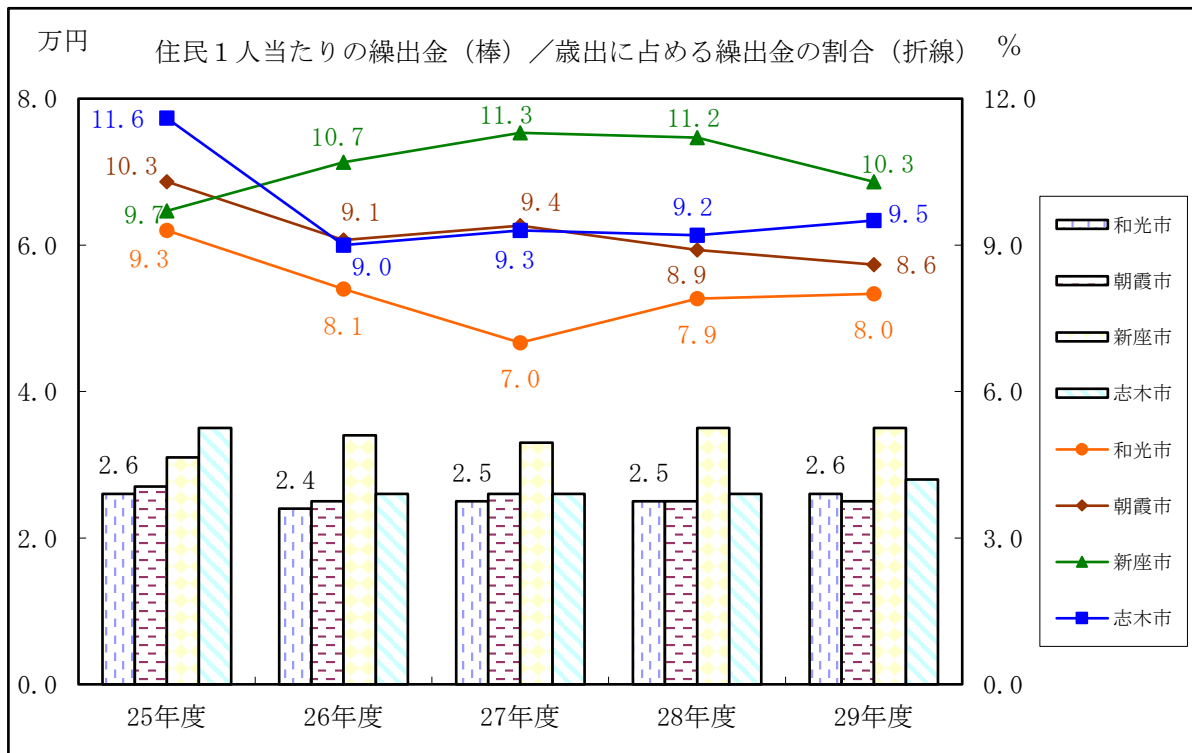
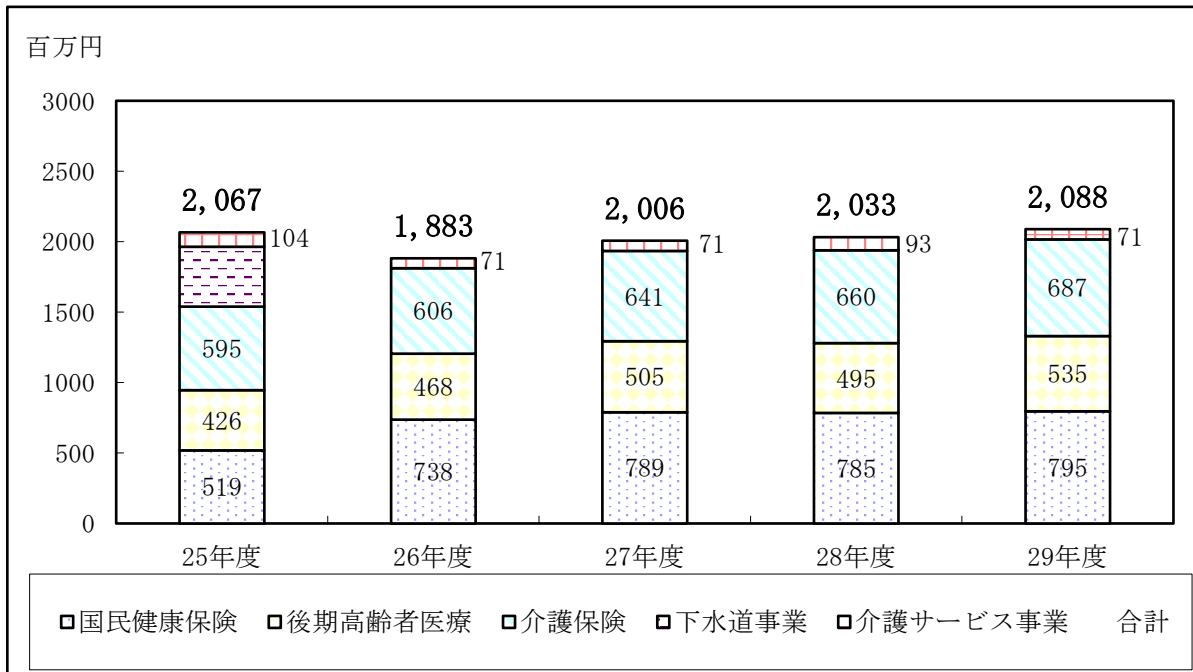


## 【繰出金】

平成29年度の繰出金は、前年度から約5,500万円増加した約20億8,800万円となりました。

繰出金は、一般会計から特別会計へ繰り出す費用のことです。

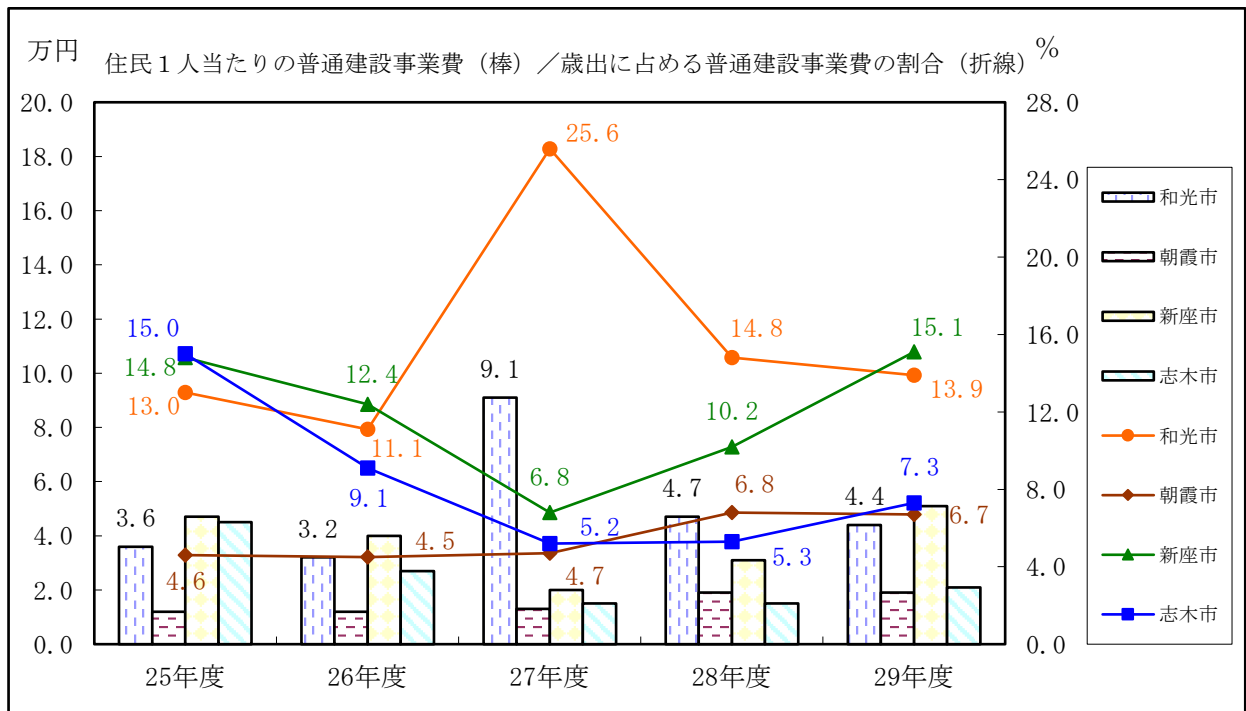
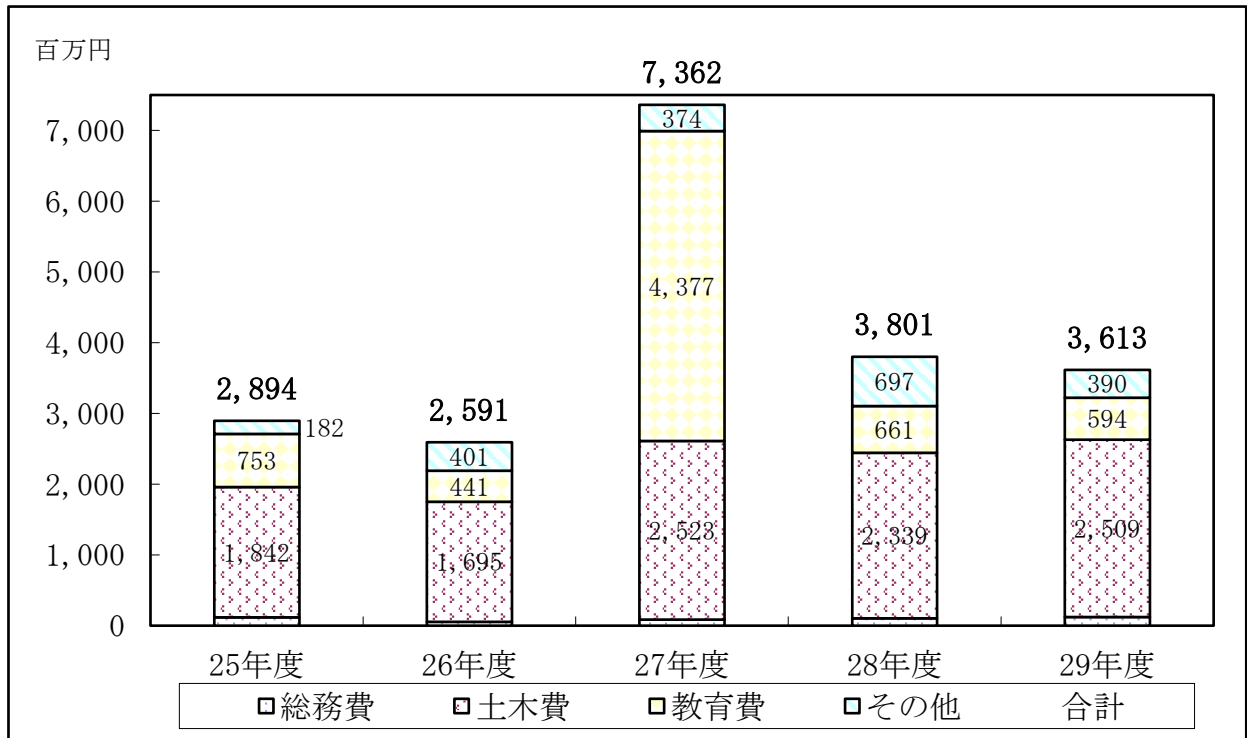
なお、平成26年度から、下水道事業特別会計は地方公営企業法が適用（企業会計化）となり、これまで繰出金に計上していたものを補助費等で整理しています。



## 【普通建設事業費】

平成29年度の普通建設事業費は、前年度から約1億8,800万円減少した約3億1,300万円となりました。

平成29年度は白子三丁目中央土地区画整理事業費などが増加していますが、前年度に上谷津公園用地を取得したことや中央第二谷中及び和光北インター地域土地区画整理事業費の減少に伴い、合計額は大きく減少しています。

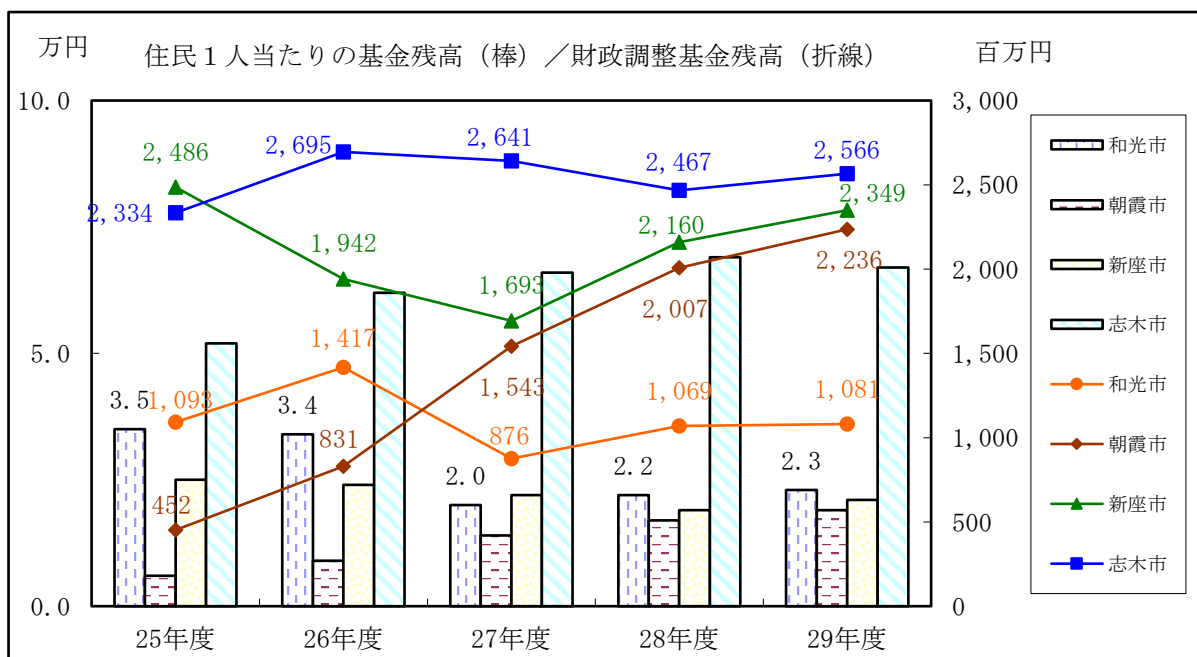
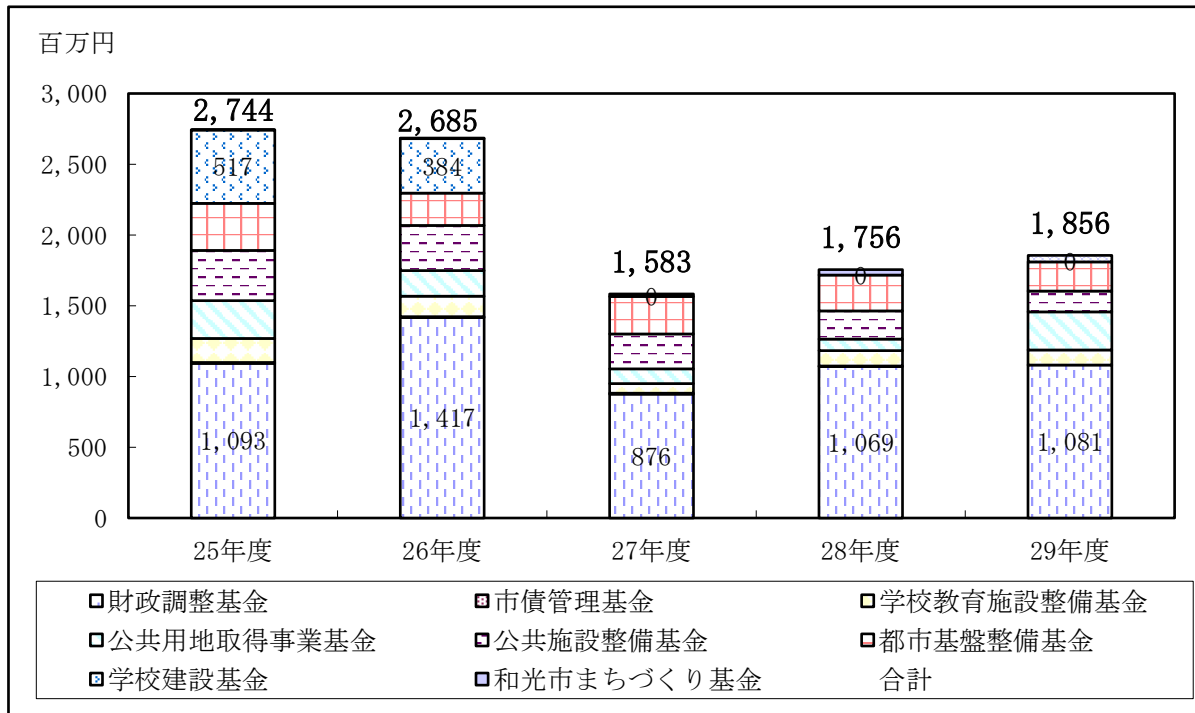


② 基金と市債の残高について

【基金残高】

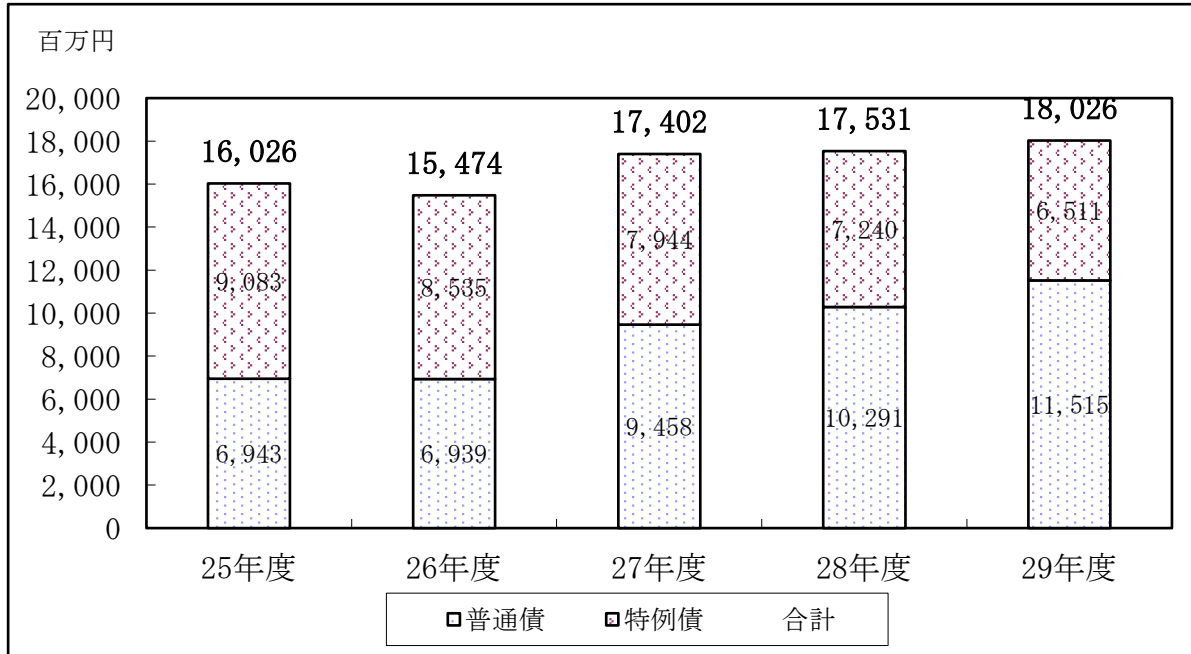
普通会計の基金残高総額は、前年度から約1億円増加した約18億5,600万円となりました。

一般的に、財政調整のための基金である「財政調整基金」の残高は標準財政規模の5%から10%までの範囲を確保することで比較的安定した財政運営が行えるといわれおり、平成29年度の標準財政規模は約151億8,600万円であることから、約7億5,900万円から約15億1,900万円の基金残高が目安となります。なお、平成29年度末の財政調整基金残高は10億8,148万5千円となります。

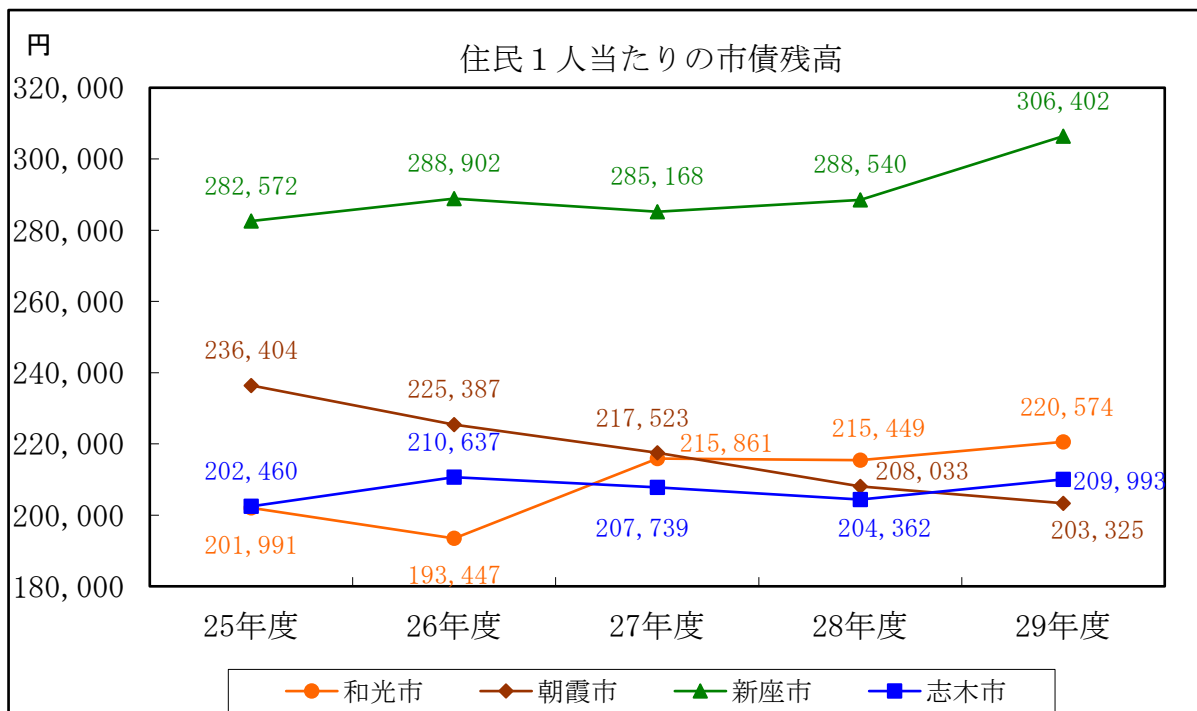


## 【市債残高】

普通会計における市債残高は、前年度から約4億9,500万円増加した約180億2,600万円となりました。駅北口土地区画整理事業の進捗などに伴い、市債残高が増加しています。



※老人保健施設等に係る市債残高は、平成24年度から普通会計とは別に整理しており、老人保健施設等を含めた市債残高は、約182億8,686万8千円となっています。



### 3 特別会計・公益企業会計決算状況

#### □ 国民健康保険特別会計

国民健康保険は、その地域に住所がある市民を対象とした保険制度で、職場などの健康保険や後期高齢者医療制度の加入者、生活保護の受給者を除き、国民健康保険に加入しなければなりません。

医療費の給付などの運営に係る費用は、加入者が納める国民健康保険税のほか、国や県からの支出金、診療報酬支払基金からの交付金、市の一般会計からの繰入金などがありますが、その財政運営については、高齢化の進展や医療技術の高度化に加え年々低下する国民健康保険税調定額などの影響を受け、全国的に非常に厳しいのが現状です。

このような状況の下、和光市の国民健康保険においては、一般会計からの法定外繰入金が近年増加しており、加入者が納めた国民健康保険税をはじめとする収入だけでは必要な保険給付費などの支払いができない状況にあり、実質的な赤字の状態となっています。



【平成29年度決算の状況】

平成29度は歳入総額が86億5,125万4千円、歳出総額が79億5,599万7千円で、歳入総額から歳出総額を差し引いた金額（形式収支）は6億9,525万7千円となりました。

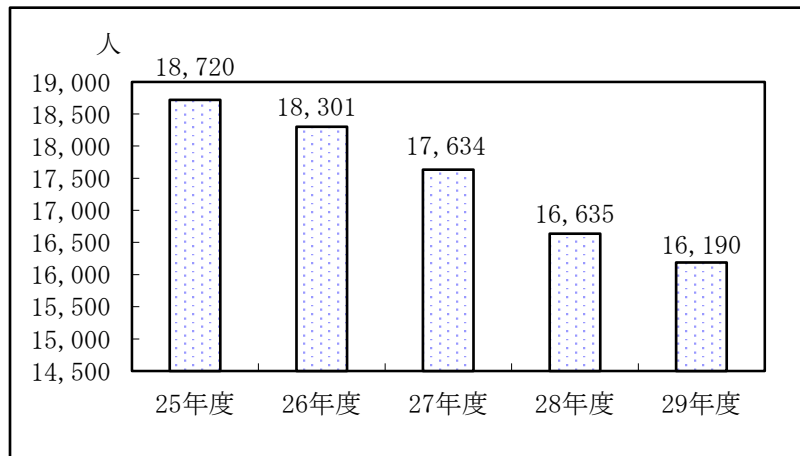
当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いて算出する単年度収支は1億5,939万4千円の赤字となり、これに実質的な黒字要素である基金積立金、市債繰上償還額を加え、赤字要素である基金取崩し額を除いて算出した実質単年度収支は1億8,986万7千円の赤字となります。また、歳出に対する歳入の財源不足を補うことを目的とした一般会計からの法定外繰入金4億5,000万円を除いた場合の実質的単年度収支は、6億3,986万7千円の赤字となっています。

（単位：千円）

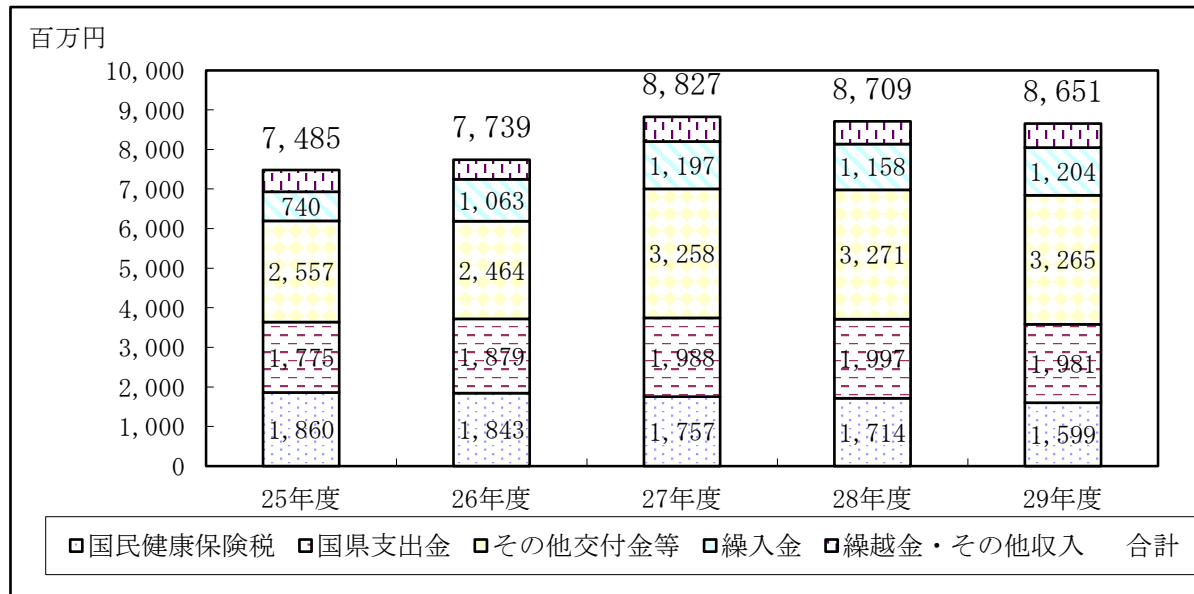
区分		平成29年度	平成28年度
歳入総額	A	8,651,254	8,708,916
歳出総額	B	7,955,997	8,173,053
形式収支（歳入歳出差引）（A－B）	C	695,257	535,863
翌年度繰越財源	D	0	0
実質収支（C－D）	E	695,257	535,863
単年度収支	F	△ 159,394	△ 26,355
積立金	G	440,588	453,201
繰上償還金	H	0	0
積立金取り崩し額	I	471,061	429,500
実質単年度収支（F＋G＋H－I）	J	△ 189,867	△ 2,654
法定外繰入金	K	450,000	450,000
法定外繰入金を除いた場合の実質単年度収支（J－K）		△ 639,867	△ 452,654

### 【被保険者数の推移】

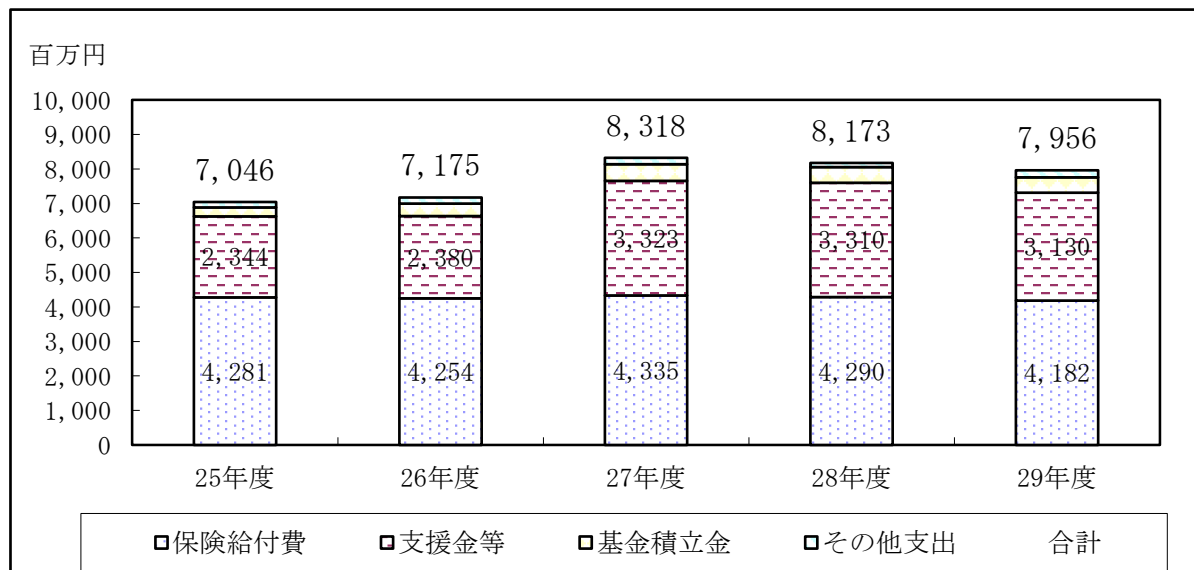
被保険者数は、景気の回復等による若年者の社会保険加入や75歳到達による後期高齢者医療制度への移行により、近年は減少傾向にあります。



### 【歳入（収入）の状況】



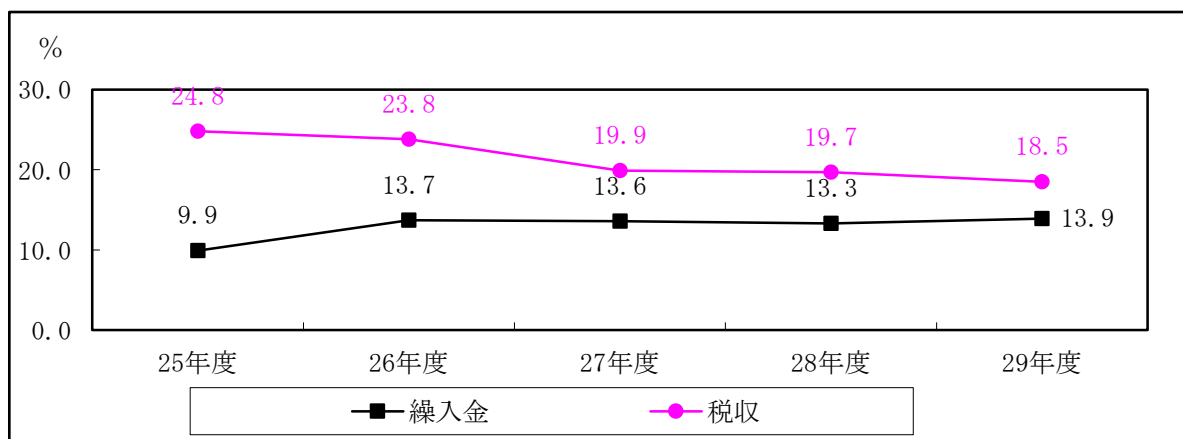
### 【歳出（支出）の状況】



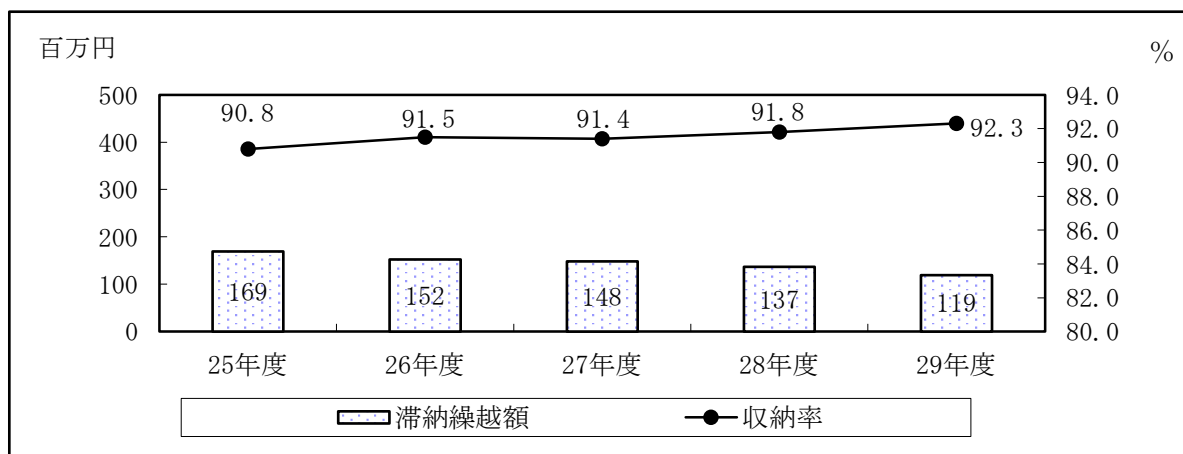
国民健康保険は、一般的に高齢者を多く抱えることから医療費が多額となること、また、離職者や無職者などの低所得者の割合が多いことなどの構造的な問題により、財政状況は厳しくなる傾向があります。そのため、国や県からの補助等を受けるとともに、国民保健税の軽減分や事務費などの一部について市の一般会計から国民健康保険特別会計に繰り入れる支援制度があり、これが繰入金となります。この繰入金の中には、歳出に対する歳入の財源不足を補うことを目的とした、法定外繰入金があり、毎年度大きな負担となっています。

また、被保険者1人当たりの法定外繰入金については、当市では上記の構造的な問題を受け、被保険者における国民健康保険税負担の緩和を目的に一定金額を繰り入れています。その結果、県内市平均を上回っている状況となっています。

【歳入総額の占める税込及び繰入金の割合の推移】



【滞納額（棒）／収納率（折線）の推移】



※滞納額は現年度課税分のうち平成30年度に繰り越した金額。

※収納率は現年課税分の収納率。

【被保険者1人当たりの法定外繰入金】

(単位：円)

年度	和光市		県内市平均	
	平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度
金額	27,064	27,778	19,222	18,958

## □ 後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度とは、75歳以上の高齢者を「後期高齢者」として分類し独立させるものです（ちなみに65歳～75歳未満の高齢者は「前期高齢者」に分類されています）。ただし、前期高齢者でも、寝たきり等の一定の障害があると広域連合（※1）から認定された方は、原則としてこの新制度に含まれ、後期高齢者医療制度の被保険者となります。

運営は公費（国、県、市で負担する費用）、現役世代からの支援金（若年者の保険料）及び被保険者の保険料を財源として広域連合が行い、市では窓口業務や保険料の徴収などを行っています。医療費の負担割合は、国と地方公共団体の公費負担が5割、現役世代の保険料が4割、高齢者の保険料が1割となっています。

---

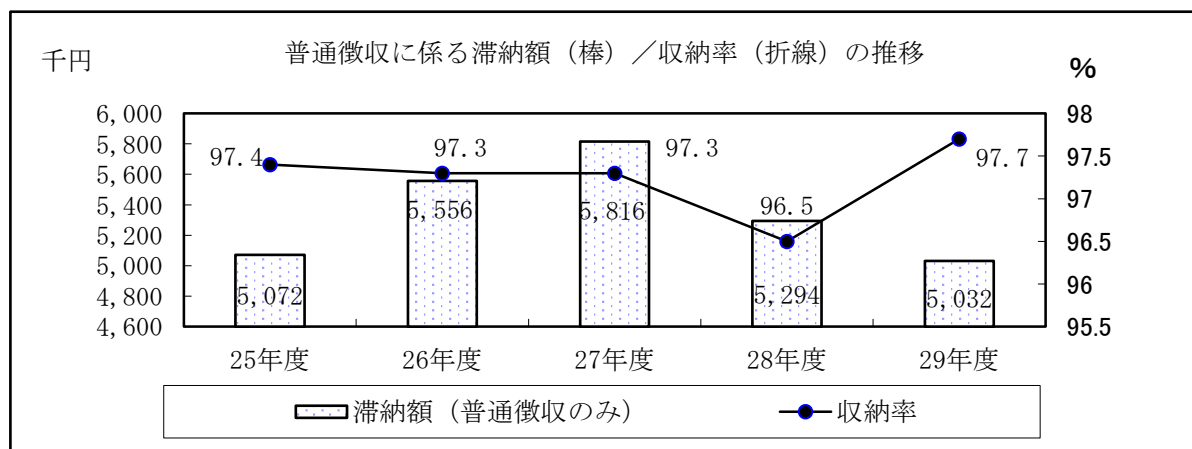
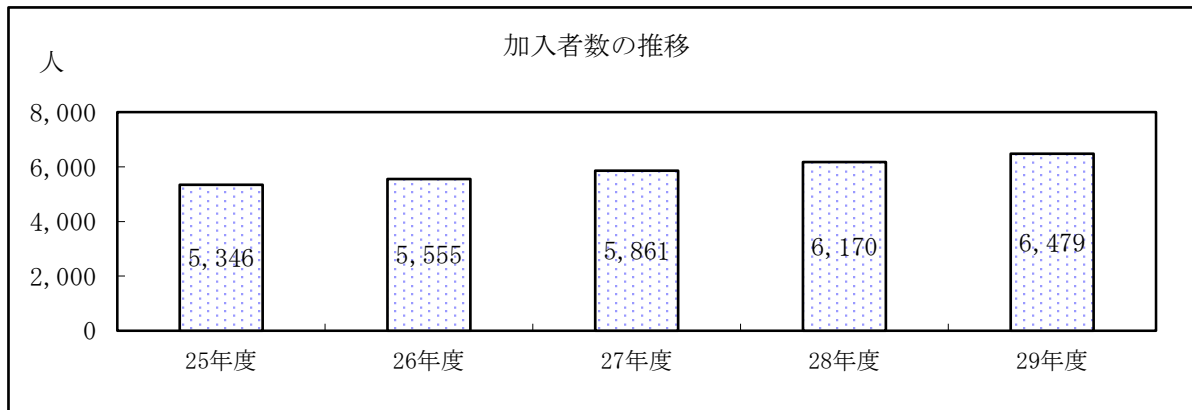
※1 広域連合 埼玉県後期高齢者医療広域連合のこと。市は窓口業務、保険料徴収業務等を主事務としているため、実際の認定はこの広域連合で行うこととなる。

【平成29年度決算の状況】

平成29年度は歳入総額が6億6,501万4千円、歳出総額が6億6,335万1千円で、歳入総額から歳出総額を差し引いた額（形式収支）及び実質収支は166万3千円となりました。

（単位：千円）

区分		平成29年度	平成28年度
歳入総額	A	665,014	627,787
歳出総額	B	663,351	626,215
形式収支（歳入歳出差引）（A－B）	C	1,663	1,572
翌年度繰越財源	D	0	0
実質収支（C－D）	E	1,663	1,572
単年度収支	F	91	△ 330
積立金	G	0	0
繰上償還金	H	0	0
積立金取り崩し額	I	0	0
実質単年度収支（F＋G＋H－I）		91	△ 330



※滞納額は普通徴収に係る現年度課税分のうち平成30年度に繰り越した金額。

※収納率は特別徴収及び普通徴収に係る収納率。

□ 介護保険特別会計

介護保険は、国・県・市の負担金と65歳以上の方及び40歳以上65歳未満の医療保険加入者が納付する保険料等を財源として、市が保険者となって運営しています。被保険者は、加齢に伴う病気などにより介護等を必要とする状態になった際、利用者の選択に基づいて必要なサービスを総合的かつ一体的に受けることができます。市は保険料の徴収や保険給付費の支給などを行っています。

【平成29年度決算の状況】

平成29年度は、歳入総額が33億5,256万6千円、歳出総額が32億4,949万1千円で、歳入総額から歳出総額を差し引いた額は、1億307万5千円となりました。

【歳入】

(単位：千円)

区 分	金額	割合	備 考
介護保険料	779,269	21.9%	第1号被保険者(65歳以上)の方の保険料
国庫支出金	629,580	17.7%	国が負担する金額
支払基金交付金	886,944	24.9%	第2号被保険者(40～64歳)の方の保険料
県支出金	431,251	12.1%	県が負担する金額
一般会計繰入金	615,974	17.3%	市が負担する金額
基金繰入金	115,863	3.3%	保険給付費に充当するために取り崩した基金の額
繰越金	103,075	2.9%	前年度からの繰越金
その他	506	0.0%	財産収入、諸収入
合 計	3,562,462	100.0%	

【歳出】

(単位：千円)

区 分	金額	割合	備 考
総務費	190,922	5.5%	要介護認定や保険料の賦課徴収のための経費
保険給付費	2,801,851	80.8%	介護サービスの利用に要した経費
市町村特別給付費	60,457	1.7%	市独自の施策として実施している事業に要した経費
地域支援事業費	164,462	4.7%	介護予防事業など地域支援事業に要した経費
基金積立金	77,370	2.2%	介護給付費準備金基金等への積立金
その他	171,856	5.0%	国・県に対する超過分負担金返還のための経費など
合 計	3,466,918	100.0%	

□ 水道事業会計

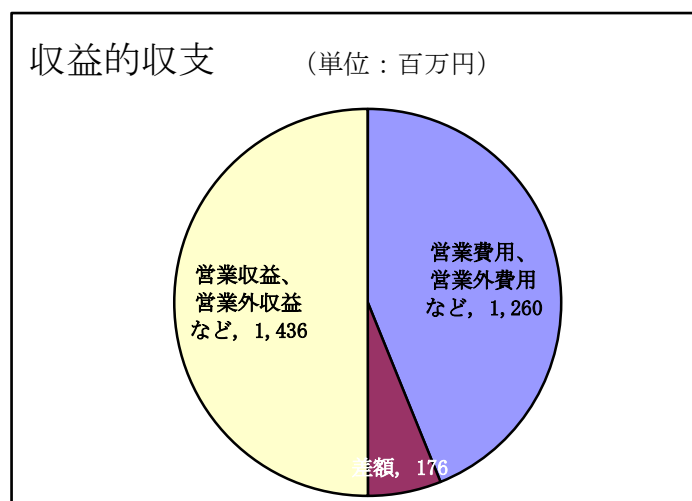
平成29年度末給水戸数は前年度より599戸増加し、40,197戸に、また年間総給水量は前年度より60,900m<sup>3</sup>増加し、9,033,570m<sup>3</sup>に、一日平均給水量は24,750m<sup>3</sup>になりました。水源の内訳は県水6,565,034m<sup>3</sup>(72.7%)、井戸水2,468,536m<sup>3</sup>(27.3%)、これに対する年間総有収水量は8,869,604m<sup>3</sup>になり、有収率は98.2%になりました。

また、主要な建設改良工事として、市道3・153号線配水管布設替え工事等を実施しました。

【平成29年度決算の状況】

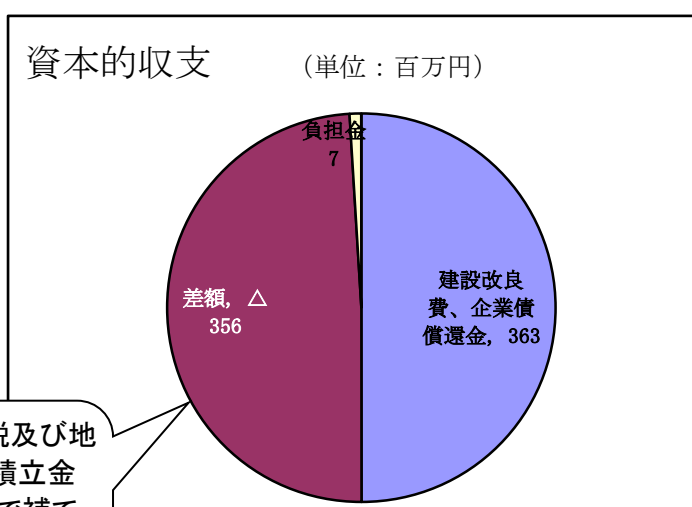
○収益的収支

平成29年度の収益的収支の決算状況は、事業収益が約14億3,627万円、事業費が約12億5,997万円となり、差し引き約1億7,630万円となりました。



○資本的収支

平成29年度の資本的収支の決算状況は、資本的収入が約7,156万円、資本的支出が約3億6,348万円となり、約3億5,633万円が収支不足となりました。



不足分については、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、減債積立金並びに過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

## □ 下水道事業会計

平成30年3月31日現在の水洗化人口（注1）は、前年度より727人増加して78,399人となり、水洗化率（注1）は前年度より0.03ポイント増加して98.83%となりました。また、処理水量は、前年度より230,504m<sup>3</sup>増加して8,496,978m<sup>3</sup>に、有収水量は前年度より70,127m<sup>3</sup>増加して8,598,622m<sup>3</sup>になり、有収率は101.2%となりました。

和光市の下水道事業は、荒川右岸流域下関連公共下水道として、昭和56年4月1日に供用を開始し、平成29年度末で、污水管の整備区域は約755ha、污水管の総延長は約123km、雨水管の総延長は約30kmとなり、行政人口に対する下水道普及率は96.95%に達しています。

下水道事業は、汚水処理に係る経費を一般会計からの繰入れを少なくして、下水道使用料を主な財源として賄う独立採算が基本で、経費回収率（注2）の向上のため平成23年度から下水道使用料を改定しており、経費回収率は約85%となっています。

また、主要な建設改良工事として、新倉一丁目地内の舗装本復旧工事及び和光市駅北口土地区画整理事業地区内における中央分区枝線工事を実施しました。

なお、下水道事業については、平成26年度から地方公営企業法を適用（企業会計化）しています。

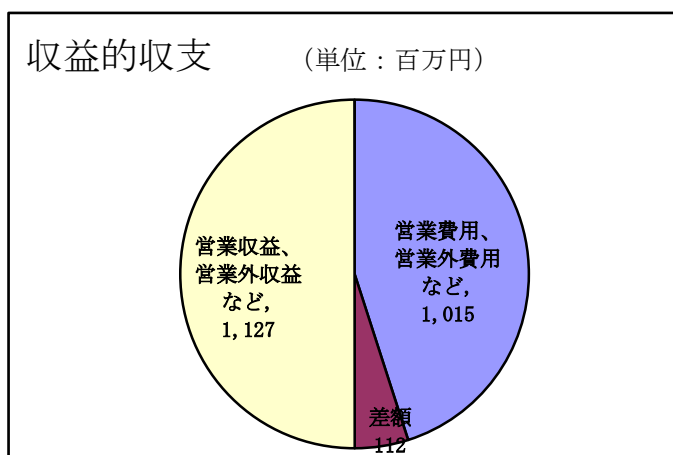
注1：水洗化人口とは、処理区域内世帯のうち、公共下水道に接続して汚水処理をしている人口となります。また、その割合が水洗化率となります。

注2：汚水処理原価に対する使用料単価の割合となります。

### 【平成29年度決算の状況】

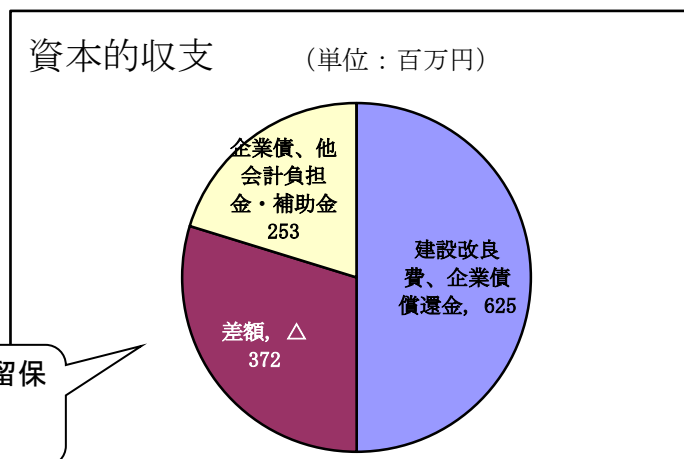
#### ○収益的収支

平成29年度の収益的収支の決算状況は、事業収益が約11億2,747万円、事業費が約10億1,591万円となり、差し引き約1億1,156万円となりました。



#### ○資本的収支

平成29年度の資本的収支の決算状況は、資本的収入が約2億5,255万円、資本的支出が約6億2,452万円となり、約3億7,197万円が収支不足となりました。



不足分については、当年度分損益勘定留保資金で補てんしました。



### 第3章 財政指標でみる和光市財政

地方公共団体の財政状況の健全度を判断する目安を「財政指標」といいます。多様化する住民ニーズに対応しながらも、将来世代への過度な負担を残さないよう、「財政指標」を活用して中長期的な視点に立って財政運営を行います。

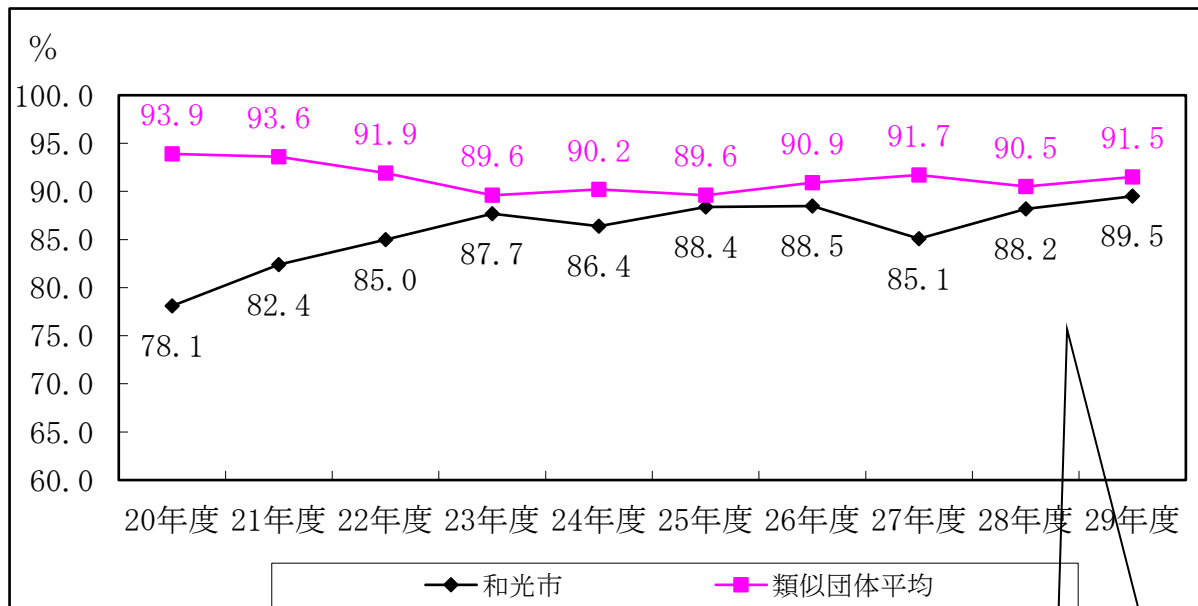
#### 1 主な財政指標でみる和光市財政

□ 経常収支比率 89.5% 前年度から1.3ポイント増加

市の歳入には、毎年決まって入ってくる経常的な収入と、そうでない臨時的な収入があります。これをさらに細かく分類すると、「特定財源」と「一般財源」に分けることができ、使い道があらかじめ決まっている収入を「特定財源」といい、特に決まっていないものを「一般財源」といいます。

特に使い道の決められていない経常的な収入を「経常一般財源」といいますが、この経常一般財源の内、どれくらいの割合を経常的に支出しなければならない費用に使っているのかを見るための指標が経常収支比率です。経常収支比率は財政の弾力性（ゆとり）を見るうえで重要な指標となっています。

【経常収支比率の推移】



平成29年度の指標で和光市の状況を他市と比較すると

類似団体内順位	22 / 69
埼玉県内順位(市)	9 / 40
全国市町村平均	92.8
埼玉県市町村平均	93.1

経常収支比率は、平成18年度をピークに年々上昇傾向にあり、財政的なゆとりがなくなってきていることを表しています。

## 【経常収支比率が増加している要因】

経常一般財源の大部分を占める市税収入については増加傾向にあるものの、社会保障関係経費等が毎年増加していることや、公共施設の管理運営に係る経費（物件費）が増加していることなどから、経常収支比率は増加傾向にあります。

平成29年度は、市税収入や地方消費税交付金の増加などにより、分母となる経常一般財源が増加したものの、分子となる経常的事業に充当した一般財源が民間や団体への負担金（補助費等）や給与改定に伴う人件費が増加したことなどから、前年度から1.3ポイント増加した89.5%となりました。

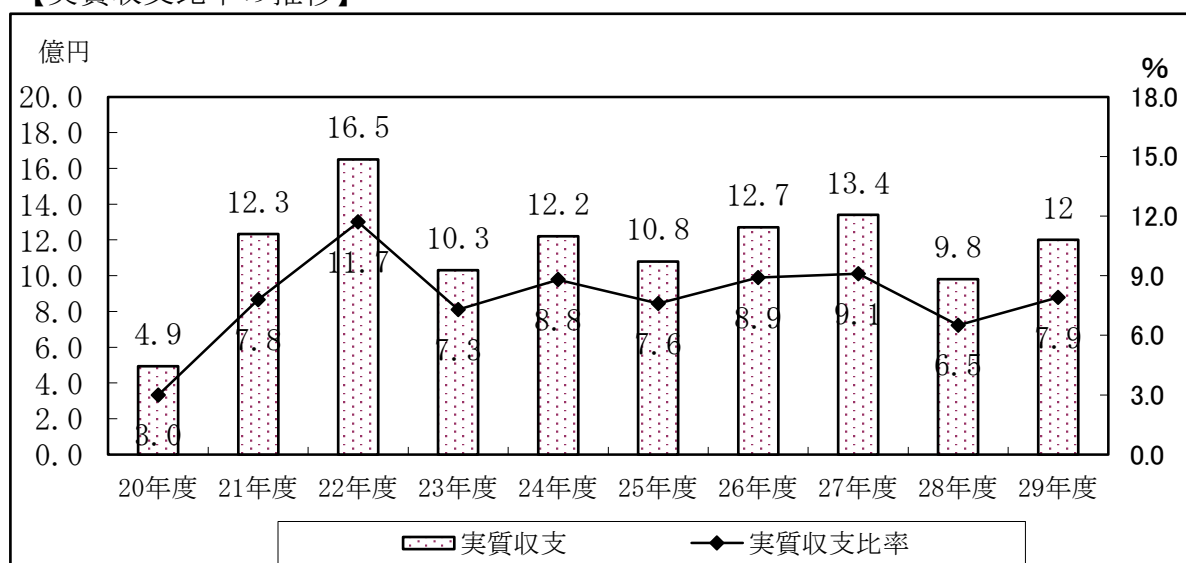
□ 実質収支比率

7.9% 1.4ポイント増加（実質収支11億9,881万6千円）

実質収支比率とは標準財政規模に対する実質収支の割合をいい、一般的には3%～5%程度が望ましいとされております。実質収支が黒字の場合は正の数、赤字の場合は負の数で表されます。

実質収支とは、その年度の収入総額から歳出総額を差し引いた金額（形式収支）から翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた金額で、地方公共団体の純剰余又は純損失を意味するものであり、基本的に平成29年度の実質収支は平成30年度の繰越金となります。

【実質収支比率の推移】



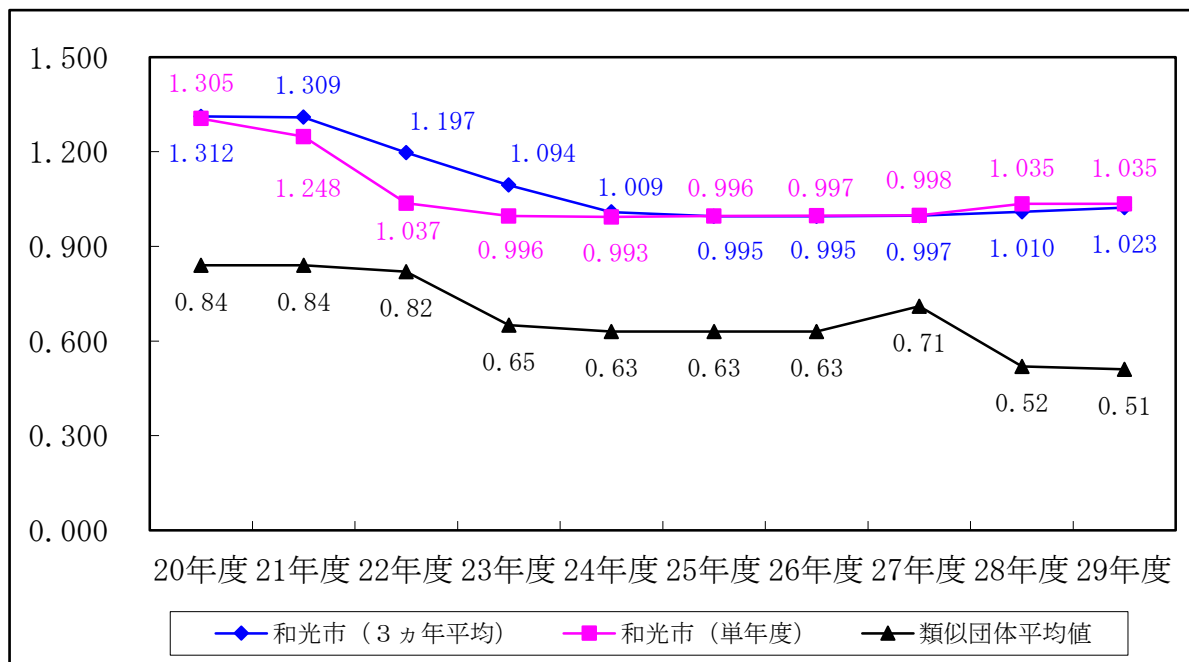
【実質収支比率が減少した要因】

平成29年度の実質収支比率は、前年度から1.4ポイント増加した7.9%となりました。これは、分母となる標準財政規模が前年度よりも1億4,343万7千円増加したものの、分子となる実質収支が前年度より2億1,551万5千円大きく増加したことから増加となりました。

□ 財政力指数 1.023 前年度から0.013ポイント増加

財政力指数とは、普通交付税の算定に用いる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の3ヶ年の平均値で、その名のとおり地方公共団体の財政力を示す指数です。この数値が大きいほど財政に余裕があるという指数で、財政力指数（単年度）が1.0を超えた場合は裕福な団体とみなされ、国から普通交付税が交付されないこととなります。

【財政力指数の推移】



平成29年度の指標で和光市の状況を他市と比較すると

類似団体内順位	1 / 73
埼玉県内順位 (市)	2 / 40
全国市町村平均	0.51
埼玉県市町村平均	0.78

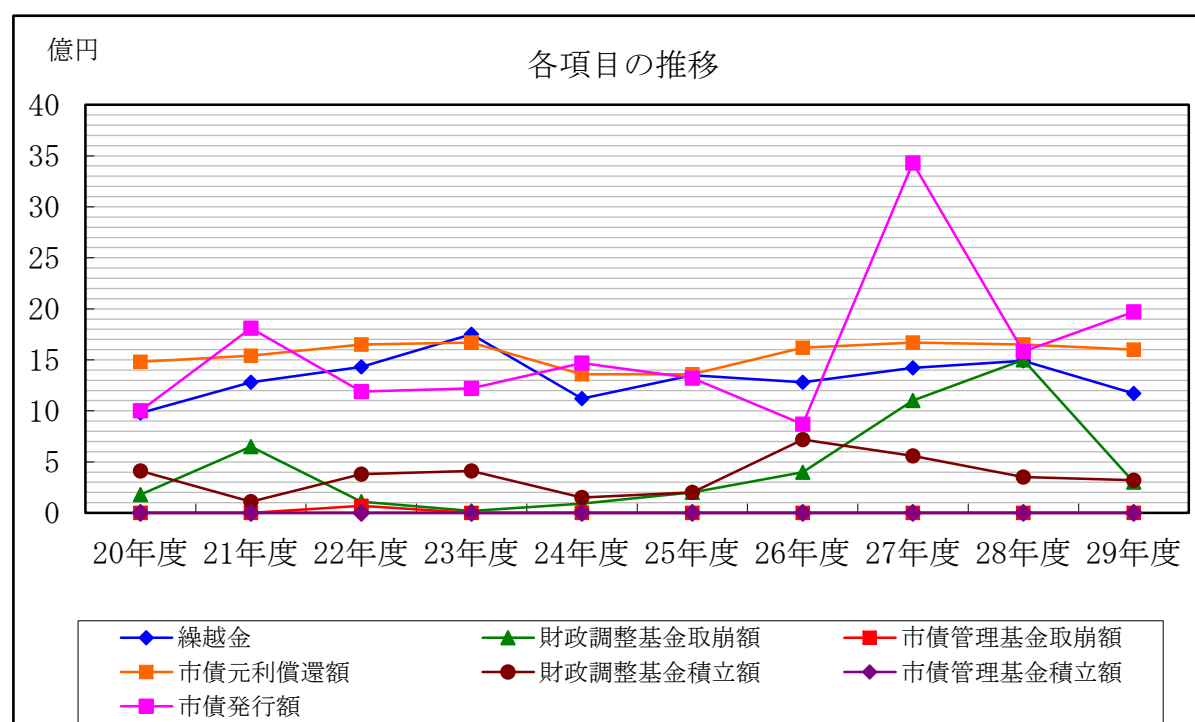
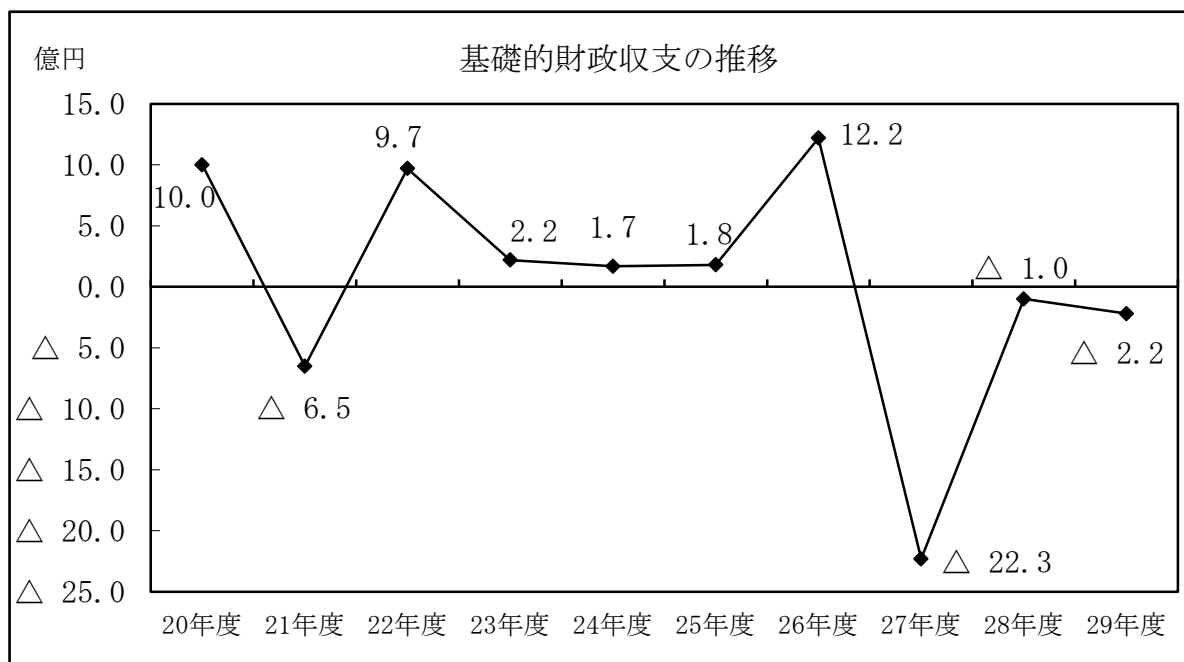
【財政力指数の分析】

平成29年度の基準財政収入額は117億5,941万7千円、基準財政需要額は113億6,070万円3千円であることから、単年度の財政力指数は1.035となりました。

基準財政需要額については、包括算定経費の単位費用の増加などにより全体では前年度から1億3,931万7千円増加する一方、基準財政収入額についても、個人市民税及び法人税などが交付税の算定上増加したことにより、前年度から1億4,604万2千円増加しています。

□ 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

基礎的財政収支（プライマリーバランス）とは、歳入総額から繰越金、市債発行額（借金）、財政調整基金及び市債管理基金の取崩（貯金取崩）による収入を除いたものから、支出総額のうち、過去に発行した市債の元利償還金（借金返済額）と財政調整基金及び市債管理基金（貯金積立額）を除いたものを比較した場合の収支バランスのことをいいます。つまり、税収入などの本来の収入で、市民のために使われるべき支出がまかなわれているかどうかを示しています。



【基礎的財政収支の算出方法】

基礎的財政収支 = (歳入総額－繰越金－市債発行額－財政調整基金及び市債管理基金取崩額)－(歳出総額－市債償還額－財政調整基金及び市債管理基金積立額)

(単位：千円)

項目		平成29年度	平成28年度	増減額
歳入	歳入総額 ①	27,269,952	26,773,296	496,656
	繰越金 ②	1,171,913	1,488,436	△ 316,523
	市債発行額 ③	1,976,400	1,579,300	397,100
	財政調整基金取崩額 ④	305,353	152,620	152,733
	市債管理基金取崩額 ⑤	0	0	0
	小計 ①-②-③-④-⑤ ⑥	23,816,286	23,552,940	263,346
歳出	歳出総額 ⑦	25,961,537	25,601,383	360,154
	市債元利償還額 ⑧	1,604,868	1,596,988	7,880
	財政調整基金積立額 ⑨	317,834	345,728	△ 27,894
	市債管理基金積立額 ⑩	0	10	△ 10
	小計 ⑦-⑧-⑨-⑩ ⑪	24,038,835	23,658,657	380,178
基礎的財政収支 ⑥—⑪		△ 222,549	△ 105,717	△ 116,832

【基礎的財政収支の赤字額となった要因】

平成29年度の基礎的財政収支は、駅北口土地区画整理事業債などの市債発行額（借金）が増加するとともに、予算調整として財政調整基金取崩額が増加したことから、2億2,254万9千円の赤字となっています。

## 2 健全化判断比率でみる和光市財政

### □ 財政健全化法の概要

財政健全化法とは、正しくは「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」といい、地方自治体の財政破たんを未然に防ぐことを目的として平成19年6月につくられました。

財政状況が悪化した地方公共団体を再建させるための制度は以前からありましたが、従前の制度では、“財政情報の開示義務”や“早期是正を図るためのしくみ”がありませんでした。

そこで、財政健全化法では、従来の指標（実質赤字比率・実質公債費比率）に、新たに2つの指標（連結実質赤字比率・将来負担比率）を加えた「財政健全化判断比率」という財政の健全度を測る“ものさし”を設け、基準以上となった地方公共団体には財政健全化計画の策定を義務付けて自主的な改善努力を促すとともに、監査委員の審査や議会への報告・住民への公表等の情報開示を義務付けています。また、フローだけでなくストックにも着目し、地方公共団体の財政の全体像を明らかにする制度となっています。

### □ 早期健全化基準と財政再生基準

財政健全化法には、早期健全化基準と財政再生基準が定められています。

健全化判断比率のうち1つでも「早期健全化基準」以上となった地方公共団体は、財政状況が悪化している「財政健全化団体」となり、「財政健全化計画」を策定し、計画に従って財政状況を改善しなければなりません。いわゆるイエローカードです。

さらに、健全化判断比率のうち1つでも「財政再生規準」以上となった地方公共団体は、財政破綻している「財政再生団体」となり、「財政再生計画」を策定し、国の強い関与の下で計画に従って財政再建しなければなりません。いわゆるレッドカードです。

なお、水道事業と下水道事業においては「経営健全化基準」を設けて財政の健全度を測っており、「経営健全化基準」以上となった場合は、「経営健全化計画」の策定義務が生じます。

□ 平成29年度健全化判断比率

① 実質赤字比率

和光市の比率 — (△7.89%)	早期健全化基準 12.76%	財政再生基準 20%
----------------------	-------------------	---------------

一般会計等（和光市においては一般会計と和光都市計画事業和光市駅北口土地  
区画整理事業特別会計）の実質赤字額が、標準財政規模に対してどのくらいの割  
合を占めるかを見る指標です。実質赤字額が生じない（黒字である）場合には比  
率が生じないため、「—」と表示されます。（比率としては利用されませんが、  
和光市の実質黒字額が標準財政規模に占める割合を計算すると△7.89%とな  
ります。）

※ 一般会計等

収益事業ではないなどの一定の要件を満たした特別会計と一般会計を合わせたものを一  
般会計等といいます。和光市の場合、一般会計等に属する特別会計は和光都市計画事業和  
光市駅北口土地区画整理事業特別会計が含まれます。

※ 標準財政規模

その地方公共団体が1年間で収入できると見込まれる一般財源（使途が限定されない財  
源）を示したものです。つまり、地方公共団体の主要な財源である税収等の1年当たりの  
収入見込額といえます。《標準財政規模＝標準税収入額等＋普通交付税額＋臨時財政対策  
債発行可能額》

② 連結実質赤字比率

和光市の比率 — (△23.49%)	早期健全化基準 17.77%	財政再生基準 30%
-----------------------	-------------------	---------------

一般会計等及びそれ以外の会計（水道事業、下水道事業、国民健康保険事業、  
後期高齢者医療事業、介護保険事業各特別会計）の実質赤字額と資金不足額の合  
計が、標準財政規模に対してどのくらいの割合を占めるかを見る指標です。合計  
が赤字とならない（黒字である）場合には比率が生じないため、「—」と表示さ  
れます。（比率としては利用されませんが、和光市の連結実質黒字額が標準財政  
規模に占める割合を計算すると△23.49%となります。）



### ③ 実質公債費比率

和光市の比率 2.7%	早期健全化基準 25%	財政再生基準 35%
----------------	----------------	---------------

その年度の公債費等（借金の返済など）に充てられた一般財源の額が、標準財政規模に対してどのくらいの割合を占めるかをみる指標です。対象は一般会計等ですが、一般会計等からの繰出金によって賄われる特別会計の公債費等も対象となります。また、普通交付税の対象となる基準財政需要額に算入される公債費等については、分母（標準財政規模）からも分子（公債費等）からも控除されます。

#### 【参考】算定式

$$\text{実質公債費比率（\%）} = \frac{\text{（公債費＋実質的な公債費） - 普通交付税措置額}}{\text{標準財政規模 - 普通交付税措置額}} \times 100$$

（過去3カ年度の平均値）

#### ※ 実質的な公債費

公債費とは、地方公共団体自らが銀行等から借入れた借金の返済額ですが、実質的な公債費とは、形式的には公債費にはあたらないものの実質的には借金の返済といえる経費のことです。具体的には、地方公共団体が加入している一部事務組合に負担金を支払い、一部事務組合が受領した負担金を使って一部事務組合の借金を返済している場合などがあります。

#### ※ 普通交付税措置額

地方公共団体には、その年度に最低限必要となる経費の見込額と税収等の収入見込額の差額に応じて、国から普通交付税が交付されています。そして、地方公共団体が特定の公債費を支出する場合、その支出額が最低限必要となる経費に加算され、これを普通交付税による措置といいます。この措置により普通交付税が理論上増額交付されるため、措置額を公債費及び標準財政規模から控除することとされています。

#### ④ 将来負担比率

和光市の比率  
61.2%

早期健全化基準  
350%

年度末の借金残高など、将来への負担となる金額がその年度の標準財政規模の何倍程度あるかをみる指標です。対象は一般会計等ですが、一般会計等からの繰出金によって賄われる見込みである特別会計の借金残高や、債務保証を行っている団体の債務の額も対象となります。また、退職手当の支給見込み額も対象となっています。実質公債費比率同様、その年度の普通交付税の対象となる公債費等については分母（標準財政規模）から控除され、将来的に対象となると見込まれる公債費等については分子（将来の負担見込み額）から控除されます。

#### 【参考】算定式

$$\text{将来負担比率 (\%)} = \frac{\text{将来負担額} - \text{充当可能財源} - \text{普通交付税措置見込額}}{\text{標準財政規模} - \text{普通交付税措置額}} \times 100$$

##### ※ 将来負担額

将来負担額とは、地方公共団体自身の借金残高や当該団体が加入している一部事務組合の借金残高のうち当該団体が負担することになる金額など、将来支出予定の公債費及び実質的な公債費等の総額です。

##### ※ 充当可能財源

充当可能財源とは、地方公共団体が積み立てている基金（預金）など確実に借金の返済に充てることができると見込まれる財源です。充当可能財源があれば、税収等を使って借金返済をする必要がなくなるため、充当可能財源の額が将来負担額から控除されます。

##### ※ 普通交付税措置見込額

普通交付税措置見込額とは、地方公共団体の将来負担額のうち普通交付税により措置されると見込まれる額です。理論上、措置見込額は普通交付税として措置されるため、税収等を使って借金返済をする必要がなくなることから、普通交付税措置見込額が将来負担額から控除されます。

⑤ 資金不足比率

水道事業の比率 － (△ 1 2 0 . 0 %)	下水道事業の比率 － (△ 2 0 . 3 %)	経営健全化基準 2 0 %
------------------------------	-----------------------------	------------------

資金不足比率とは、一般会計等における実質赤字比率と同様のもので、その年度における公営企業会計の資金不足額の事業規模に対する割合を示したものです。この資金不足比率は、4つの健全化判断比率と同様、監査委員の審査に付し、監査委員の審査後、議会に報告し、住民に公表しなければなりません。また、資金不足比率が財政健全化法に定められている「経営健全化基準」（実質赤字比率における「早期健全化基準」に相当するもの）を超えた公営企業会計については、「経営健全化計画」の策定義務が生じる点も同様です。

公営企業は、独立採算を原則とした行政サービスであることから、経営状態が悪化している場合は、事業の縮小や料金引き上げなどによって、経営改善を図らなければなりません。そこで、公営企業会計ごとの経営状態を把握するため、資金不足比率が健全化判断比率とは別に規定されています。

和光市では水道事業及び下水道事業会計がこの公営企業会計に該当しますが、いずれも資金不足額が発生していない（黒字である）ため「－」と表示されます。

# 和光市財政白書

## (資料編)

本編に関連するデータを掲載しています。

- ( 資料1 ) 会計別決算額に関する資料
- ( 資料2～資料8 ) 一般会計歳入決算額に関する資料
- ( 資料9～資料14 ) 一般会計歳出決算額に関する資料
- ( 資料15～資料20 ) 基金及び地方債に関する資料
- ( 資料21～資料25 ) 財政指標・職員数等に関する資料
- ( 資料26 ) 平成29年度 普通会計決算状況調
- ( 資料27 ) 地方債償還に関する資料
- ( 資料28 ) 平成30年度一般会計当初予算

資料1 会計別決算額の推移

(単位:千円)

会計名	年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一般会計	歳入	22,835,093	24,692,225	23,478,802	23,258,759	23,534,367	23,547,802	24,780,795	29,708,026	26,543,992,334	26,492,108,265
	歳出	21,559,496	23,261,955	21,730,559	22,133,986	22,181,718	22,274,826	23,445,363	28,281,608	25,487,608,974	25,270,905,262
	差引	1,275,597	1,430,270	1,748,243	1,124,773	1,352,649	1,273,176	1,335,432	1,426,418	1,056,383,360	1,221,203,003
国民健康保険特別会計	歳入	5,822,841	6,156,525	6,557,825	6,863,132	7,345,224	7,484,886	7,739,464	8,827,297	8,708,915,404	8,651,254,293
	歳出	5,754,052	5,838,003	6,103,047	6,424,775	6,843,777	7,046,008	7,174,652	8,317,788	8,173,052,552	7,955,997,361
	差引	68,789	318,522	454,578	438,357	501,447	438,878	564,812	509,509	535,862,852	695,256,932
後期高齢者医療特別会計	歳入	417,562	447,824	461,239	478,205	527,262	547,854	576,830	586,434	627,787,153	665,013,579
	歳出	414,528	443,753	459,306	477,369	523,256	546,722	575,496	584,533	626,215,223	663,351,489
	差引	3,034	2,071	1,933	836	2,006	1,132	1,334	1,901	1,571,930	1,662,090
老人保健特別会計	歳入	486,231	60,404	11,087							
	歳出	486,231	50,349	11,087	※H23年度より廃止						
	差引	0	10,055	0							
介護保険特別会計	歳入	2,447,074	2,438,562	2,444,136	2,659,996	2,796,100	2,883,899	3,061,764	3,256,757	3,352,565,693	3,562,462,235
	歳出	2,294,721	2,391,982	2,389,868	2,591,744	2,718,150	2,775,444	2,910,031	3,162,829	3,249,490,634	3,466,918,195
	差引	152,353	46,580	54,268	68,252	77,950	108,455	151,733	103,928	103,075,059	95,544,040
下水道事業特別会計	歳入	1,334,638	1,250,334	1,188,402	1,089,505	1,203,324	1,121,014				
	歳出	1,290,433	1,202,793	1,145,032	1,117,747	1,155,740	1,028,863	※H26年度より 企業会計へ移行			
	差引	44,205	47,541	43,370	△ 28,242	47,584	92,151				
和光都市計画事業 和光市駅北口土地 区画整理事業特別 会計	歳入						138,264	344,908	829,270	676,030,287	1,178,936,599
	歳出						131,621	257,826	767,252	560,500,221	1,091,724,603
	差引						6,643	87,082	62,018	115,530,066	87,211,996
企業会計(水道事業)	歳入	1,194,003	1,211,182	1,283,004	1,205,894	1,267,263	1,278,817	1,390,270	1,427,746	1,480,457	1,443,428
	歳出	1,255,913	1,180,551	1,535,033	1,572,831	1,526,311	1,449,882	1,582,287	1,800,883	2,207,406	1,623,453
	差引	△ 61,910	30,631	△ 252,029	△ 366,937	△ 259,048	△ 171,065	△ 192,017	△ 373,137	△ 726,949	△ 180,025
企業会計(下水道事業)	歳入							1,231,322	1,243,413	1,229,886	1,380,021
	歳出							1,553,482	1,524,404	1,507,334	1,665,586
	差引							△ 322,160	△ 280,991	△ 277,448	△ 285,565
合計	歳入	34,537,442	36,257,056	35,424,295	35,555,491	36,673,540	37,002,536	39,125,353	45,878,943	39,912,001,214	40,552,588,420
	歳出	33,055,374	34,371,386	33,373,932	34,318,452	34,950,952	35,253,166	37,499,137	44,429,297	38,100,582,344	38,452,185,949
	差引	1,482,068	1,885,670	2,050,363	1,237,039	1,722,588	1,749,370	1,626,216	1,449,646	1,811,418,870	2,100,412,471

※ 企業会計(水道事業)及び企業会計(下水道事業)については、歳入＝営業収益合計、歳出＝営業費用合計となっております。

資料2 普通会計歳入決算額の推移

年度 区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
地方税	14,739,031	64.5	14,062,884	57.0	13,737,446	58.5	13,630,283	58.6	13,703,840	58.2	13,660,439	58.9	14,113,429	57.0	14,303,757	47.4	14,541,678	54.3	14,561,514	53.4
分担金負担金	130,454	0.6	167,922	0.7	168,457	0.7	176,862	0.8	190,206	0.8	218,605	0.9	217,989	0.9	309,884	1.0	319,477	1.2	382,887	1.4
使用料	411,095	1.8	423,006	1.7	427,877	1.8	434,338	1.9	449,898	1.9	454,389	1.9	479,001	1.9	537,620	1.8	542,800	2.0	475,474	1.7
手数料	131,710	0.6	120,146	0.5	118,866	0.5	118,862	0.5	116,978	0.5	121,446	0.5	122,425	0.5	121,719	0.4	120,288	0.5	123,264	0.5
自主財源	101,750	0.4	12,764	0.1	21,315	0.1	19,135	0.1	19,913	0.1	23,921	0.1	461,955	1.9	21,611	0.1	47,817	0.2	222,267	0.8
香附金	944	0.0	471	0.0	10,739	0.0	876	0.0	2,893	0.0	5,308	0.0	3,396	0.0	11,460	0.0	24,336	0.1	13,879	0.1
繰入金	1,158,053	5.1	1,343,491	5.4	857,086	3.7	333,525	1.4	854,453	3.6	660,985	2.8	1,119,311	4.5	1,859,855	6.2	605,580	2.3	577,426	2.1
繰越金	982,798	4.3	1,275,597	5.2	1,430,270	6.1	1,748,243	7.5	1,124,773	4.8	1,352,649	5.8	1,279,819	5.2	1,422,514	4.7	1,488,436	5.6	1,171,913	4.3
諸収入	307,325	1.3	244,820	1.0	449,203	1.9	304,591	1.3	292,249	1.2	395,868	1.7	256,777	1.0	369,727	1.2	253,159	0.9	247,071	0.9
小計	17,963,160	78.6	17,651,101	71.6	17,221,259	73.3	16,766,715	72.1	16,755,203	71.1	17,093,210	72.6	18,054,102	72.9	18,958,147	62.8	17,943,571	67.1	17,775,695	65.2
地方譲与税	149,464	0.7	140,111	0.6	136,303	0.6	137,553	0.6	129,981	0.6	123,642	0.5	117,307	0.5	121,688	0.4	120,752	0.5	119,863	0.4
利子割交付金	57,436	0.2	47,101	0.2	42,676	0.2	34,096	0.2	30,625	0.1	28,022	0.1	24,963	0.1	21,866	0.1	14,092	0.1	22,829	0.1
配当割交付金	22,659	0.1	17,958	0.1	22,978	0.1	26,682	0.1	30,983	0.1	59,528	0.3	113,442	0.5	88,711	0.3	58,761	0.2	78,533	0.3
株式等譲渡所得割交付金	7,854	0.0	9,677	0.0	7,770	0.0	6,647	0.0	8,997	0.0	97,960	0.4	69,557	0.3	89,989	0.3	35,866	0.1	85,909	0.3
地方消費税交付金	596,970	2.6	636,958	2.6	635,863	2.7	622,223	2.7	624,168	2.7	618,846	2.6	757,691	3.1	1,269,585	4.2	1,149,419	4.3	1,220,143	4.5
ゴルフ場利用税交付金	1,595	0.0	1,696	0.0	1,536	0.0	1,504	0.0	1,534	0.0	1,546	0.0	1,482	0.0	1,498	0.0	1,516	0.0	1,551	0.0
自動車取得税交付金	103,546	0.5	60,677	0.2	52,479	0.2	31,548	0.1	56,458	0.2	48,945	0.2	22,894	0.1	36,758	0.1	38,150	0.1	49,884	0.2
地方特例交付金	190,416	0.8	165,046	0.7	156,413	0.7	194,095	0.8	80,683	0.3	77,078	0.3	70,353	0.3	65,063	0.2	66,713	0.3	66,901	0.2
地方交付税	130,983	0.6	131,983	0.5	173,659	0.7	217,671	0.9	241,506	1.0	194,989	0.8	193,938	0.8	198,144	0.7	118,745	0.4	159,878	0.6
交通安全交付金	11,843	0.1	11,474	0.0	11,097	0.1	10,978	0.1	11,600	0.1	11,542	0.1	9,896	0.0	10,522	0.0	10,129	0.0	9,470	0.0
国庫支出金	1,747,935	7.7	3,109,717	12.6	2,697,649	11.5	2,876,667	12.4	2,813,846	12.0	2,682,724	11.4	3,089,154	12.5	4,445,786	14.7	4,048,645	15.1	4,132,320	15.2
国有提供交付金	8,576	0.0	8,205	0.0	26,455	0.1	33,487	0.1	38,143	0.2	36,287	0.2	35,703	0.1	35,677	0.1	35,695	0.1	35,681	0.1
県支出金	839,630	3.7	892,346	3.6	1,103,786	4.7	1,090,571	4.7	1,238,130	5.3	1,138,719	4.9	1,321,634	5.3	1,420,421	4.7	1,551,942	5.8	1,534,895	5.6
地方債	1,003,026	4.4	1,808,175	7.3	1,188,879	5.1	1,218,332	5.2	1,472,510	6.3	1,322,777	5.6	871,511	3.5	3,432,416	11.4	1,579,300	5.9	1,978,400	7.2
小計	4,871,933	21.4	7,041,124	28.4	6,257,543	26.7	6,492,044	27.9	6,779,164	28.9	6,442,605	27.4	6,699,485	27.1	11,238,124	37.2	8,829,725	32.9	9,494,257	34.7
合計	22,835,093	100.0	24,692,225	100.0	23,478,802	100.0	23,258,759	100.0	23,534,367	100.0	23,535,815	100.0	24,753,587	100.0	30,196,271	100.0	26,773,296	100.0	27,269,952	100.0

資料3 普通会計歳入決算額の財源区分別推移

年度 区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
一般財源等	18,281,435	80.1	18,578,514	75.2	18,099,204	77.1	17,594,691	75.6	17,024,097	72.3	17,236,361	73.2	17,984,312	72.7	19,214,181	63.6	17,999,148	67.2	18,209,595	66.8
うち経常一般財源	14,976,378	65.6	14,198,834	57.5	14,044,966	59.8	13,981,412	60.1	14,038,742	59.7	14,391,102	61.1	14,726,082	59.5	15,543,309	51.5	15,443,799	57.7	15,615,687	57.3
特定財源	4,553,658	19.9	6,113,711	24.8	5,379,598	22.9	5,674,068	24.4	6,510,270	27.7	6,299,454	26.8	6,769,275	27.3	10,982,090	36.4	8,774,148	32.8	9,061,357	33.2
合計	22,835,093	100.0	24,692,225	100.0	23,478,802	100.0	23,258,759	100.0	23,534,367	100.0	23,535,815	100.0	24,753,587	100.0	30,196,271	100.0	26,773,296	100.0	27,269,952	100.0

資料4 地方税決算額の推移

年度 区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
市民税	7,646,433	51.9	6,953,612	49.4	6,556,561	47.7	6,405,386	47.0	6,665,927	48.7	6,671,726	48.4	6,836,139	47.9	7,023,139	47.9	7,034,030	48.3	7,034,030	48.3
内 個人	6,293,006	42.7	6,290,159	44.7	5,903,154	43.0	5,892,912	43.2	6,110,382	44.6	6,143,128	44.4	6,259,123	44.4	6,343,634	44.4	6,510,857	44.4	6,578,310	45.2
法人	1,353,427	9.2	663,453	4.7	653,407	4.7	522,474	3.8	555,545	4.1	528,598	3.8	577,016	4.1	499,894	3.5	512,282	3.5	455,720	3.1
固定資産税	5,814,086	39.4	5,843,357	41.6	5,865,481	42.7	5,860,202	43.0	5,688,807	41.5	5,784,530	41.7	5,878,878	41.7	6,055,162	42.3	6,112,365	42.3	6,139,040	42.2
土地	2,582,133	17.5	2,690,457	19.1	2,677,724	19.5	2,654,909	19.5	2,637,903	19.2	2,673,396	19.3	2,735,595	19.4	2,823,106	19.7	2,829,064	19.7	2,842,204	19.5
家屋	2,205,370	15.0	2,171,967	15.5	2,262,244	16.5	2,330,122	17.1	2,175,951	15.9	2,221,991	16.0	2,247,096	15.9	2,266,546	15.8	2,387,921	15.8	2,437,376	16.7
償却資産	903,775	6.1	835,284	6.0	782,886	5.7	733,060	5.4	738,458	5.4	754,223	5.4	764,357	5.4	837,507	5.9	776,794	5.9	740,606	5.1
交付金	122,808	0.8	145,649	1.0	142,827	1.0	142,111	1.0	136,495	1.0	134,920	1.0	131,830	1.0	128,003	0.9	118,586	0.9	118,854	0.8
軽自動車税	35,711	0.2	37,145	0.3	38,514	0.3	38,595	0.3	39,959	0.3	42,180	0.3	43,766	0.3	45,226	0.3	57,297	0.3	59,717	0.4
市たばこ税	440,240	3.0	422,454	3.0	452,761	3.3	499,396	3.6	509,510	3.7	549,182	4.0	524,605	3.7	511,227	3.6	488,352	3.6	461,889	3.2
都市計画税	802,561	5.5	806,316	5.7	824,129	6.0	826,704	6.1	799,637	5.8	812,821	5.9	830,041	5.9	848,614	5.9	860,525	5.9	867,838	6.0
内 土地	490,365	3.4	502,575	3.6	505,933	3.7	501,231	3.7	488,493	3.6	501,592	3.6	513,629	3.6	531,487	3.7	525,953	3.7	529,257	3.6
家屋	312,196	2.1	303,741	2.1	318,196	2.3	325,473	2.4	301,144	2.2	311,229	2.3	316,412	2.2	317,127	2.2	334,572	2.2	341,581	2.3
合計	14,739,031	100.0	14,062,884	100.0	13,737,446	100.0	13,630,283	100.0	13,703,840	100.0	13,860,439	100.0	14,113,429	100.0	14,303,757	100.0	14,541,678	100.0	14,561,514	100.0

資料5 地方税対前年度増減額の推移

年度 区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
市民税	△ 72,357	△ 0.9	△ 692,821	△ 9.1	△ 397,051	△ 5.7	△ 151,175	△ 2.3	260,541	4.1	5,799	0.1	164,413	2.5	7,389	0.1	179,611	2.6	10,891	0.2
内 個人	225,864	3.7	△ 2,847	△ 0.1	△ 387,005	△ 6.2	△ 20,242	△ 0.3	227,470	3.9	32,746	0.5	115,995	1.9	84,511	1.4	167,223	2.6	67,453	1.0
法人	△ 298,221	△ 18.1	△ 689,974	△ 51.0	△ 10,046	△ 1.5	△ 130,933	△ 20.0	33,071	6.3	△ 26,947	△ 4.9	48,418	9.2	△ 77,122	△ 13.4	12,388	2.5	12,388	2.4
固定資産税	△ 27,920	△ 0.5	29,271	0.5	22,124	0.4	△ 5,279	△ 0.1	△ 171,395	△ 2.9	95,723	1.7	94,348	1.6	76,284	3.0	57,203	0.9	25,675	0.4
土地	19,129	0.8	108,324	4.2	△ 12,733	△ 0.5	△ 22,815	△ 0.9	△ 17,006	△ 0.6	35,493	1.3	62,199	2.3	87,511	3.2	5,958	0.2	14,140	0.5
家屋	104,941	5.0	△ 33,403	△ 1.5	90,277	4.2	67,878	3.0	154,171	△ 6.6	46,040	2.1	25,105	1.1	19,450	0.9	121,375	5.4	49,455	2.1
償却資産	△ 143,585	△ 13.7	△ 68,491	△ 7.6	△ 52,398	△ 6.3	△ 49,826	△ 6.4	5,398	0.7	15,765	2.1	10,134	1.3	73,150	9.6	△ 60,713	△ 7.2	△ 36,188	△ 4.6
交付金	△ 8,405	△ 6.4	22,841	18.6	△ 3,022	△ 2.1	△ 516	△ 0.4	△ 5,616	△ 4.0	△ 1,575	△ 1.2	△ 3,090	△ 2.3	△ 3,827	△ 2.9	△ 9,417	△ 7.4	△ 1,732	△ 1.5
軽自動車税	994	2.9	1,434	4.0	1,369	3.7	81	0.2	1,364	3.5	2,221	5.6	1,586	3.8	1,460	3.3	12,071	26.7	2,420	4.2
市たばこ税	△ 19,359	△ 4.2	△ 17,786	△ 4.0	30,307	7.2	46,635	10.3	10,114	2.0	39,672	7.8	△ 24,577	△ 4.5	△ 13,378	△ 2.6	△ 22,875	△ 4.5	△ 26,463	△ 5.4
都市計画税	11,188	1.4	3,755	0.5	17,813	2.2	2,575	0.3	△ 27,067	△ 3.3	13,184	1.6	17,220	2.1	18,573	2.2	11,911	1.4	7,313	0.9
内 土地	1,534	0.3	12,210	2.5	3,358	0.7	△ 4,702	△ 0.9	△ 2,738	△ 0.6	3,099	0.6	12,037	2.4	17,858	3.5	△ 5,534	△ 1.0	304	0.1
家屋	9,654	3.2	△ 8,455	△ 2.7	14,455	4.8	7,277	2.3	△ 24,329	△ 7.5	10,085	3.3	5,183	1.7	715	0.2	17,445	5.5	7,009	2.1
合計	△ 107,454	△ 0.7	△ 676,147	△ 4.6	△ 325,438	△ 2.3	△ 107,163	△ 0.8	73,557	0.5	156,599	1.1	252,990	1.8	190,328	1.4	237,921	1.7	19,836	0.1

資料6 光和市民1人当たりの個人市民税決算額の推移

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人口	74,950	75,642	76,002	76,481	78,260	79,338	79,992	80,615	81,368	81,724
個人市民税決算額	83,963	83,157	77,671	76,920	78,078	77,430	78,247	78,690	80,017	80,494
対前年度増減額	2,369	△ 806	△ 5,486	△ 751	1,158	△ 648	817	443	1,327	477

※ 人口については、年度末(平成25年度の場合は平成26年3月31日)の住民基本台帳人口としています。なお、平成26年度より基準日が1月1日(平成26年度の場合、平成27年1月1日)に変更となっています。

資料7 普通会計地方債決算額の推移

(単位:千円、%)

年度 区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	
総務債	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	33,900	2.5	4,000	0.3	
民生債	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	46,900	5.4	80,600	2.3	0	0	0	0.0	
衛生債	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0.0	
土木債	70,600	7.0	58,500	3.2	109,800	9.2	481,800	39.5	721,000	49.0	847,300	64.1	654,000	75.0	618,700	18.0	1,036,200	76.0	1,004,100	76.9	
消防債	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	23,600	1.8	0	0.0	12,600	0.4	0	0	4,600	0.4	
教育債	265,700	26.5	244,700	13.5	41,900	3.5	131,700	10.8	159,900	10.9	283,000	21.4	41,100	4.7	2,219,000	64.6	294,200	21.6	293,300	22.5	
区画整理事業債															420,100	12.2		0.0		0.0	
小計	336,300	33.5	303,200	16.8	151,700	12.8	613,500	50.4	880,900	59.8	1,153,900	87.2	742,000	85.1	3,351,000	97.6	1,364,300	100.0	1,306,000	100.0	
減税補てん債																					
特例臨時取補てん債	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0.0	
臨時財政対策債	666,726	66.5	1,034,775	57.2	1,037,179	87.2	604,832	49.6	591,610	40.2	168,877	12.8	129,511	14.9	81,416	2.4	0	0	0	0	0.0
減取補てん債	0	0.0	470,200	26.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0.0	
小計	666,726	66.5	1,504,975	83.2	1,037,179	87.2	604,832	49.6	591,610	40.2	168,877	12.8	129,511	14.9	81,416	2.4	0	0	0	0	0.0
合計	1,003,026	100.0	1,808,175	100.0	1,188,879	100.0	1,218,332	100.0	1,472,510	100.0	1,322,777	100.0	871,511	100.0	3,432,416	100.0	1,364,300	100.0	1,306,000	100.0	

資料8 普通会計基金繰入金決算額の推移

(単位:千円、%)

年度 区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
財政調整基金	176,105	18.6	651,982	49.4	112,245	13.4	23,910	7.4	89,748	10.6	200,831	31.2	396,239	36.6	1,099,556	60.3	152,620	25.6	305,353	53.8
市債管理基金	0	0.0	0	0.0	70,000	8.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	6,020	1.1
学校教育施設整備基金	300,000	31.7	100,000	7.6	0	0.0	0	0.0	127,766	15.1	46,350	7.2	25,726	2.4	74,600	4.1	61,880	10.4	2,000	0.4
公共用地取得事業基金	270,000	28.5	118,200	9.0	200,000	23.8	91,660	28.2	181,906	21.4	128,044	19.9	187,745	17.3	79,418	4.4	68,833	11.5	0	0.0
公共施設整備基金	0	0.0	150,000	11.4	112,443	13.4	91,405	28.2	204,532	24.1	145,062	22.5	85,592	7.9	122,472	6.7	148,847	24.9	100,000	17.6
都市基盤整備基金	200,000	21.1	300,000	22.7	344,800	41.1	117,632	36.2	244,293	28.8	50,000	7.8	254,148	23.4	62,500	3.4	163,442	27.4	147,247	25.9
学校建設基金					0	0.0	0	0.0	0	0.0	72,123	11.2	133,808	12.4	384,023	21.1	0	0.0	0	0.0
和光市まちづくり基金					0	0.0	0	0.0	0	0.0	1,080	0.2	130	0.0	499	0.0	990	0.2	7,445	1.3
合計	946,105	100.0	1,320,182	100.0	839,488	100.0	324,607	100.0	848,245	100.0	643,490	100.0	1,083,388	100.0	1,823,068	100.0	598,612	100.0	568,065	100.0

※ 21年度については、繰替運用により繰入れた額(学校教育施設整備基金100,000千円、公共用地取得事業基金94,000千円、公共施設整備基金150,000千円、都市基盤整備基金150,000千円)を含んでいます。





資料11 人件費の推移

年度	(単位:千円、%)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人件費決算額	3,569,984	3,543,340	3,542,406	3,451,376	3,474,691	3,416,817	3,596,962	3,588,748	3,635,445	3,756,259
うち職員人件費分	2,301,008	2,190,646	2,133,469	2,085,026	2,093,532	2,089,499	2,209,144	2,196,981	2,257,242	2,351,706
対前年度増減額	111,027	△ 26,644	△ 934	△ 91,030	23,315	△ 57,874	180,145	△ 8,214	46,697	120,814
うち職員人件費分	△ 22,856	△ 110,362	△ 57,177	△ 48,443	8,506	△ 4,033	119,645	△ 12,163	60,261	94,464
対前年度伸び率	3.2	△ 0.7	△ 0.0	△ 2.6	0.7	△ 1.7	5.3	△ 0.2	1.3	3.3
うち職員人件費分	△ 1.0	△ 4.8	△ 2.6	△ 2.3	0.4	△ 0.2	5.7	△ 0.6	2.7	4.2

資料12 扶助費の推移

年度	(単位:千円、%)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
扶助費決算額	2,810,064	2,997,988	4,149,205	4,457,773	4,451,901	5,298,624	5,723,371	6,274,060	6,831,331	7,236,789
対前年度増減額	114,869	187,924	1,151,217	308,568	△ 5,872	846,723	424,747	550,689	557,271	405,458
対前年度伸び率	4.3	6.7	38.4	7.4	△ 0.1	19.0	8.0	9.6	8.9	5.9

資料13 公債費の推移

年度	(単位:千円、%)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公債費決算額	1,478,544	1,544,270	1,651,141	1,674,606	1,598,396	1,578,870	1,620,733	1,682,953	1,596,988	1,604,928
対前年度増減額	125,973	65,726	106,871	23,465	△ 76,210	△ 19,526	41,863	62,220	△ 85,965	7,940
対前年度伸び率	9.3	4.4	6.9	1.4	△ 4.6	△ 1.2	2.7	3.8	△ 5.1	0.5

資料14 普通建設事業費の推移

年度	(単位:千円、%)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
普通建設事業費決算額	3,814,817	3,631,390	2,084,094	2,386,759	3,076,385	2,894,462	2,591,370	7,361,647	3,800,550	3,613,103
対前年度増減額	△ 1,188,705	△ 183,427	△ 1,547,296	302,665	689,626	△ 181,923	△ 303,092	4,770,277	△ 3,561,097	△ 187,447
対前年度伸び率	△ 23.8	△ 4.8	△ 42.6	14.5	28.9	△ 5.9	△ 10.5	184.1	△ 48.4	△ 4.9

資料15 全会計の基金現在高の推移

年度 区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比	現在高	構成比
財政調整基金	922,359	31.7	380,575	18.0	644,760	27.6	1,033,006	30.5	1,091,479	34.0	1,092,922	32.3	1,417,253	43.0	875,896	38.6	1,069,004	43.5	1,081,485	43.5
市債管理基金	75,686	2.6	75,953	3.6	5,967	0.3	5,974	0.2	5,979	0.2	5,986	0.2	5,996	0.2	6,009	0.3	6,019	0.2	0	0.0
学校教育施設整備基金	340,796	11.7	241,964	11.4	342,714	14.7	342,972	10.1	215,469	6.7	169,305	5.0	143,806	4.4	69,333	3.1	107,465	4.4	105,542	4.2
総合体育館建設基金																				
公共用地取得事業基金	342,058	11.8	224,995	10.6	169,329	7.2	477,749	14.1	396,243	12.4	268,478	7.9	180,940	5.5	101,650	4.5	82,869	3.4	269,904	10.8
公共施設整備基金	504,393	17.3	506,330	23.9	444,510	19.0	453,424	13.4	349,138	10.9	354,318	10.5	319,051	9.7	246,912	10.9	198,200	8.1	148,324	6.0
都市基盤整備基金	504,722	17.3	456,523	21.5	212,124	9.1	326,669	9.7	182,494	5.7	332,636	9.8	228,596	6.9	266,326	11.7	253,004	10.3	205,922	8.3
学校建設基金					105,200	4.5	205,283	6.1	305,478	9.5	517,237	15.3	384,021	11.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
和光市まちづくり基金									2,064	0.1	3,347	0.1	5,618	0.2	16,581	0.7	39,961	1.6	46,450	1.9
小計	2,690,014	92.4	1,886,340	89.0	1,924,604	82.3	2,845,077	84.1	2,548,344	79.5	2,744,229	81.2	2,685,281	81.5	1,582,707	69.7	1,756,522	71.5	1,856,627	74.7
国民健康保険高額療養費 資金貸付基金	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.1	5,000	0.2	5,000	0.1	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2
国民健康保険給付費 等支払基金	45,024	1.5	7,749	0.4	230,105	9.8	400,344	11.8	494,002	15.4	477,783	14.1	466,115	14.1	488,743	21.5	512,444	20.9	481,971	19.4
国民健康保険出産費資金 貸付基金	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.1	5,000	0.2	5,000	0.1	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2
国民健康保険介護費用 特別基金	132,893	4.6	193,139	9.1	159,603	6.8	123,623	3.7	149,825	4.7	144,358	4.3	128,631	3.9	184,585	8.1	171,775	7.0	133,282	5.4
介護従事者処遇改善臨時 特別基金	27,657	1.0	17,351	0.8	8,829	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
介護保険高額介護サービス 費等一部負担金に係る 資金貸付基金	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.1	5,000	0.2	5,000	0.1	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2	5,000	0.2
小計	220,574	7.6	233,239	11.0	413,537	17.7	538,967	15.9	658,827	20.5	637,141	18.8	609,746	18.5	688,328	30.3	699,219	28.5	630,253	25.3
合計	2,910,588	100.0	2,119,579	100.0	2,338,141	100.0	3,384,044	100.0	3,207,171	100.0	3,381,370	100.0	3,295,027	100.0	2,271,035	100.0	2,455,741	100.0	2,486,880	100.0

資料16 和光市民1人当たりの基金現在高の推移

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人口	74,950	75,642	76,002	76,481	78,260	79,338	79,992	80,615	81,368	81,724
一般会計の基金	35,891	24,938	25,323	37,200	32,563	34,589	33,589	19,633	21,587	22,718
特別会計の基金	2,943	3,083	5,441	7,047	8,418	8,031	7,623	8,538	8,593	7,712
合計	38,834	28,021	30,764	44,247	40,981	42,620	41,192	28,171	30,180	30,430

※ 人口については、年度末(平成25年度の場合は平成26年3月31日)の住民基本台帳人口としています。なお、平成26年度より基準日が1月1日(平成26年度の場合、平成27年1月1日)に変更となっています。



資料20 全会計基金現在高と全会計地方債現在高の推移

年度	(単位:千円又は円)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
基金現在高	2,910,588	2,119,579	2,338,141	3,384,044	3,207,171	3,381,370	3,295,027	2,271,035	2,455,741	2,486,880
地方債現在高	22,726,335	22,989,213	22,457,601	21,943,742	21,682,326	21,277,250	20,373,713	21,902,599	21,605,371	21,745,062
差引	△ 19,815,747	△ 20,869,634	△ 20,119,460	△ 18,559,698	△ 18,475,155	△ 17,895,880	△ 17,078,686	△ 19,631,564	△ 19,149,630	△ 19,258,182
基金現在高	38,834	28,021	30,764	44,247	40,981	42,620	41,192	28,171	30,180	30,430
地方債現在高	303,220	303,921	295,487	286,918	277,055	268,185	254,697	271,694	265,526	266,080
差引	△ 264,386	△ 275,900	△ 264,723	△ 242,671	△ 236,074	△ 225,565	△ 213,505	△ 243,523	△ 235,346	△ 235,650

資料21 普通交付税交付額の推移

年度	(単位:千円)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
基準財政需要額(A)	9,218,268	9,039,233	9,709,107	10,389,291	10,285,725	10,809,655	10,897,718	11,264,624	11,221,366	11,360,703
基準財政収入額(B)	12,029,269	11,281,799	10,069,940	10,346,672	10,210,688	10,768,343	10,869,986	11,238,927	11,613,375	11,759,417
財源超過額(B-A)※	2,811,001	2,242,566	360,833	△ 42,619	△ 75,037	△ 44,591	△ 27,732	△ 28,666	391,989	398,714
普通交付税交付額	0	0	0	42,619	75,037	44,591	27,732	28,666	0	0

※財源不足額が生じている場合は負の値(△)となっています。

資料22 財政指標の推移

年度	(単位:%)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
財政力指数	1.312	1.309	1.197	1.094	1.009	0.995	0.995	0.997	1.010	1.023
実質収支比率	3.0	7.8	11.7	7.3	8.8	7.6	8.9	9.1	6.5	7.9
経常収支比率	78.1	82.4	85.0	87.7	86.4	88.4	88.5	85.1	88.2	89.5
実質公債費比率	5.5	5.3	5.2	4.7	4.3	3.2	2.8	2.7	2.8	2.7
将来負担比率	31.2	55.7	52.4	41.8	39.3	41.4	35.6	57.9	57.1	61.2

資料23 職員数の推移

年度	(単位:人)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一般行政職員	316	313	311	303	306	307	304	307	315	318
特別行政職員	47	46	45	52	52	51	54	54	53	53
公営企業等職員	48	48	46	43	42	40	42	43	43	43
総職員数	411	407	402	398	400	398	400	404	411	414
うち普通会計職員数	363	359	356	355	358	358	358	361	368	371

※各年度4月1日現在の数値であり、教育長を含んでいます。

資料24 職員1人当たり人口の推移

年度	(単位:人)									
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人口	74,950	75,642	76,002	76,481	78,260	79,338	79,992	80,615	81,368	81,724
一般行政職員1人当たり	237	242	244	252	256	258	263	263	258	257
総職員1人当たり	182	186	189	192	196	199	200	200	198	197
普通会計職員1人当たり	206	211	213	215	219	222	223	223	221	220

※人口については、年度末(平成25年度の場合は平成26年3月31日)の住民基本台帳人口としています。なお、平成26年度より基準日が1月1日(平成26年度の場合、平成27年1月1日)に変更となっています。

<p>指定管理者導入施設</p>	<p>総合児童センター、下新倉児童館、新倉児童館、南原児童館、下新倉保育クラブ、中央保育クラブ、          諏訪保育クラブ、新倉保育クラブ、白子保育クラブ、白子第二保育クラブ、南保育クラブ、          北原保育クラブ、本町保育クラブ、広沢保育クラブ、南地域センター保育クラブ、          生活介護施設・就労継続支援A型施設・就労継続支援B型施設、地域活動支援センター(精神障害者)、          市民文化センター、勤労福祉センター、高齢者福祉センター、介護老人保健施設・特別養護老人ホーム、          新倉高齢者福祉センター、総合体育館</p>
------------------	---







86	H25	消防団無線デジタル化事業債	0.278	武蔵野銀行	17,720,000
87	H25	公共事業等債(白子三丁目中央分・越後山地区公園分)	0.800	財政融資資金	118,700,000
88	H26	アーバンアック公園整備事業債	0.380	武蔵野銀行	25,940,000
89	H26	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共分)	0.380	武蔵野銀行	40,900,000
90	H26	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(一般分)	0.380	武蔵野銀行	20,780,000
91	H26	中央第二谷中土地区画整理組合活動支援事業債(一般分)	0.380	武蔵野銀行	154,720,000
92	H26	中央第二谷中土地区画整理組合活動支援事業債(道路分)	0.380	武蔵野銀行	10,440,000
93	H26	臨時財政対策債	0.380	武蔵野銀行	119,551,000
94	H26	越後山土地区画整理組合活動支援事業債(一般分)	0.380	武蔵野銀行	64,440,000
95	H26	和光市新設小学校建設事業債(図書館分館分)	0.380	武蔵野銀行	3,060,000
96	H26	和光市新設小学校建設事業債(保育クラブ・児童館分)	0.380	武蔵野銀行	740,000
97	H26	越後山土地区画整理組合活動支援事業債(道路分)	0.380	武蔵野銀行	2,220,000
98	H26	和光市新設小学校建設事業債(小学校分)	0.380	武蔵野銀行	26,220,000
99	H26	和光北インター地域土地区画整理組合活動支援事業債	0.380	武蔵野銀行	242,320,000
100	H26	第二白子保育クラブ増築事業債	0.380	武蔵野銀行	42,560,000
101	H26	和光市新設小学校建設事業債(小学校分)(国庫負担分)	0.400	財政融資資金	43,400,000
102	H27	和光市新設小学校建設事業債(小学校分)	0.430	埼玉りそな銀行	1,271,600,000
103	H27	和光市新設小学校建設事業債(外構分)	0.430	埼玉りそな銀行	160,300,000
104	H27	和光市新設小学校建設事業債(防災倉庫分)	0.430	埼玉りそな銀行	12,600,000
105	H27	和光市新設小学校建設事業債(保育クラブ・児童館分)	0.320	埼玉りそな銀行	71,900,000
106	H27	和光市新設小学校建設事業債(図書館分館分)	0.320	埼玉りそな銀行	177,200,000
107	H27	アーバンアック公園整備事業債	0.320	埼玉りそな銀行	54,900,000
108	H27	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(一般分)	0.320	埼玉りそな銀行	22,500,000
109	H27	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共分)	0.320	埼玉りそな銀行	86,700,000
110	H27	越後山土地区画整理組合活動支援事業債	0.320	埼玉りそな銀行	191,200,000
111	H27	臨時財政対策債	0.320	埼玉りそな銀行	81,416,000
112	H27	アーバンアック公園整備事業債(繰越)	0.320	埼玉りそな銀行	46,900,000
113	H27	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(繰越)	0.320	埼玉りそな銀行	39,600,000
114	H27	和光市新設小学校建設事業債(保育クラブ・児童館分)(通次繰)	0.320	埼玉りそな銀行	8,700,000
115	H27	和光市新設小学校建設事業債(小学校分)(通次繰)	0.320	埼玉りそな銀行	87,800,000
116	H27	和光市新設小学校建設事業債(図書館分館分)(通次繰)	0.320	埼玉りそな銀行	10,900,000
117	H27	中央第二谷中土地区画整理組合活動支援事業債	0.320	埼玉りそな銀行	176,900,000
118	H27	和光市新設小学校建設事業債(小学校分)(国庫負担分)	0.200	財政融資資金	477,200,000
119	H28	新設公園用地取得事業債(公共分)	0.010	財政融資資金	162,000,000
120	H28	白子小学校体育館非構造部材耐震化・防災機能強化事業債	0.010	地方公共団体金融機構	16,300,000
121	H28	第二中学校給食室改築事業債	0.200	武蔵野銀行	193,410,000
122	H28	第三中学校トイレ改修事業債(補正予算債)(繰越明許)	0.200	武蔵野銀行	48,330,000
123	H28	第三中学校トイレ改修事業債(補正繰足分)(繰越明許)	0.200	武蔵野銀行	8,370,000
124	H28	情報セキュリティ強化対策事業債	0.120	武蔵野銀行	20,800,000
125	H28	情報セキュリティ強化対策事業債(補正予算債)(繰越明許)	0.120	武蔵野銀行	6,320,000
126	H28	アーバンアック公園整備事業債(一般分)	0.440	埼玉りそな銀行	34,900,000
127	H28	アーバンアック公園整備事業債(公共分)	0.440	埼玉りそな銀行	7,200,000
128	H28	和光北インター第3公園整備事業債	0.440	埼玉りそな銀行	32,300,000
129	H28	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(一般分)	0.440	埼玉りそな銀行	75,000,000
130	H28	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共分)	0.440	埼玉りそな銀行	73,400,000
131	H28	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共補正分)	0.440	埼玉りそな銀行	17,500,000
132	H28	越後山土地区画整理組合活動支援事業債	0.440	埼玉りそな銀行	225,000,000
133	H28	和光北インター地域土地区画整理組合活動支援事業債	0.440	埼玉りそな銀行	212,800,000
134	H28	中央第二谷中土地区画整理組合活動支援事業債	0.440	埼玉りそな銀行	124,500,000
135	H28	新設公園用地取得事業債(一般分)	0.440	埼玉りそな銀行	25,800,000
136	H28	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(一般分)(繰)	0.440	埼玉りそな銀行	11,100,000
137	H28	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共分)(繰)	0.440	埼玉りそな銀行	34,700,000
138	H29	学校教育施設等整備事業債(広沢小学校ほか2校大規模改造)	0.010	財政融資資金	102,000,000
139	H29	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共分)	0.070	財政融資資金	108,300,000
140	H29	越後山土地区画整理組合活動支援事業債	0.430	農業協同組合	383,100,000
141	H29	アーバンアック公園整備事業債(一般分)	0.430	農業協同組合	9,900,000
142	H29	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(道路分)	0.430	農業協同組合	288,900,000
143	H29	新設公園整備事業債(一般分)	0.430	農業協同組合	34,300,000
144	H29	新設公園整備事業債(公共分)	0.430	農業協同組合	5,000,000
145	H29	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(一般分)(繰)	0.435	農業協同組合	5,200,000
146	H29	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共分)(繰)	0.435	農業協同組合	48,100,000
147	H29	白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援事業債(公共補正分)	0.435	農業協同組合	18,400,000
148	H29	市道舗装補修事業債	0.260	武蔵野銀行	30,000,000
149	H29	都市計画道路予定地先行取得債	0.260	武蔵野銀行	24,300,000
150	H29	広沢小学校校舎非構造部材耐震化事業債(繰越)(単独分)	0.260	武蔵野銀行	51,200,000
151	H29	北原小学校非構造部材耐震化事業債(繰越)(単独分)	0.260	武蔵野銀行	74,600,000
152	H29	第二中学校非構造部材耐震化事業債(繰越)(単独分)	0.260	武蔵野銀行	65,500,000
153	H29	防災行政無線整備事業債(公共分)	0.170	武蔵野銀行	4,600,000
154	H29	情報セキュリティ強化対策事業債(繰越)	0.170	武蔵野銀行	4,000,000
155	H29	地方道路等整備事業債	0.010	地方公共団体金融機構	48,600,000
合 計					16,981,367,536

駅北口土地区画整理事業特別会計

番号	借入年度	事業名	年利率%	借入先	平成29年度末現在高
1	H27	駅北口土地区画整理事業債(一般分)	0.320	埼玉りそな銀行	374,400,000
2	H27	駅北口土地区画整理事業債(公共分)	0.320	埼玉りそな銀行	15,900,000
3	H27	駅北口土地区画整理事業債(道路分)	0.320	埼玉りそな銀行	29,800,000
4	H28	駅北口土地区画整理事業債(一般分)	0.440	埼玉りそな銀行	139,100,000
5	H28	駅北口土地区画整理事業債(道路分)	0.440	埼玉りそな銀行	34,500,000
6	H28	駅北口土地区画整理事業債(繰越分)(道路分)	0.440	埼玉りそな銀行	41,400,000
7	H29	駅北口土地区画整理事業債(一般分)	0.435	農業協同組合	6,700,000
8	H29	駅北口土地区画整理事業債(公共分)	0.435	農業協同組合	40,800,000
9	H29	駅北口土地区画整理事業債(道路分)	0.435	農業協同組合	516,500,000
10	H29	駅北口土地区画整理事業債(一般分)(繰越)	0.435	農業協同組合	77,300,000
11	H29	駅北口土地区画整理事業債(公共分)(繰越)	0.435	農業協同組合	29,100,000
合 計					1,305,500,000

資料28 平成29年度一般会計当初予算

(単位:千円、%)

歳入 款	平成30年度		比較		平成29年度	
	予算額	構成比	増減額	増減率	予算額	構成比
1 市税	14,553,071	56.7	250,501	1.8	14,302,570	58.3
2 地方譲与税	108,000	0.4	△ 4,000	△ 3.6	112,000	0.5
3 利子割交付金	15,000	0.1	2,000	15.4	13,000	0.1
4 配当割交付金	33,000	0.1	△ 41,000	△ 55.4	74,000	0.3
5 株式等譲渡所得割交付金	20,000	0.1	△ 53,000	△ 72.6	73,000	0.3
6 地方消費税交付金	1,282,000	5.0	126,000	10.9	1,156,000	4.7
7 ゴルフ場利用税交付金	1,398	0.0	40	2.9	1,358	0.0
8 自動車取得税交付金	43,000	0.2	4,000	10.3	39,000	0.2
9 国有提供施設等所在市町村助成交付金等	33,400	0.1	0	0.0	33,400	0.1
10 地方特例交付金	66,000	0.3	△ 2,000	△ 2.9	68,000	0.3
11 地方交付税	10,000	0.0	△ 40,000	△ 80.0	50,000	0.2
12 交通安全対策特別交付金	8,000	0.0	0	0.0	8,000	0.0
13 分担金及び負担金	676,528	2.6	△ 6,677	△ 1.0	683,205	2.8
14 使用料及び手数料	277,812	1.1	△ 4,065	△ 1.4	281,877	1.1
15 国庫支出金	4,294,620	16.8	460,304	12.0	3,834,316	15.7
16 県支出金	1,646,566	6.4	191,755	13.2	1,454,811	5.9
17 財産収入	11,843	0.0	△ 212,255	△ 94.7	224,098	0.9
18 寄附金	1	0.0	△ 1	△ 50.0	2	0.0
19 繰入金	456,331	1.8	△ 56,708	△ 11.1	513,039	2.1
20 繰越金	500,000	1.9	0	0.0	500,000	2.0
21 諸収入	226,230	0.9	△ 17,894	△ 7.3	244,124	1.0
22 市債	1,403,200	5.5	534,000	61.4	869,200	3.5
歳入合計	25,666,000	100.0	1,131,000	4.6	24,535,000	100.0

(単位:千円、%)

歳出 款	平成30年度		比較		平成29年度	
	予算額	構成比	増減額	増減率	予算額	構成比
1 議会費	222,619	0.9	5,082	2.3	217,537	0.9
2 総務費	3,489,886	13.6	704,854	25.3	2,785,032	11.4
3 民生費	12,226,405	47.6	349,195	2.9	11,877,210	48.4
4 衛生費	1,494,278	5.8	△ 13,892	△ 0.9	1,508,170	6.1
5 労働費	61,173	0.2	△ 1,304	△ 2.1	62,477	0.3
6 農林水産業費	50,820	0.2	1,247	2.5	49,573	0.2
7 商工費	74,854	0.3	△ 4,435	△ 5.6	79,289	0.3
8 土木費	3,302,305	12.9	210,867	6.8	3,091,438	12.6
9 消防費	934,169	3.6	△ 14,978	△ 1.6	949,147	3.9
10 教育費	2,070,966	8.1	40,727	2.0	2,030,239	8.3
11 公債費	1,713,069	6.7	39,688	2.4	1,673,381	6.8
12 諸支出金	456	0.0	△ 186,051	△ 99.8	186,507	0.7
13 予備費	25,000	0.1	0	0.0	25,000	0.1
歳出合計	25,666,000	100.0	1,131,000	4.6	24,535,000	100.0

